

平成16年度岩手県立総合教育センター

少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する研究

(第1報)

研究協力校

花巻市立桜台小学校

花巻市立花巻北中学校

研究協力員

盛岡市立仙北小学校 教諭 遠藤 耕生

宮古市立鎌ヶ崎小学校 教諭 佐々木 雄康

大船渡市立大船渡中学校 教諭 佐藤 直樹

プロジェクト研究班

小 原 昭 徳

大 倉 徹

阿 部 真由子

三 浦 隆

目 次

研究の目的	-----	1
研究の全体構想	-----	1
1 指導形態の違いによる指導の効果に関する調査及び分析・考察(方策)	-----	1
2 学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒に及ぼす影響について探るための授業観察及び分析・考察(方策)	-----	1
3 指導形態に応じた、効果的な指導方法についての試案の作成と授業実践及び分析・考察	-----	1
本年度の研究の内容と方法	-----	1
1 研究の目標	-----	1
2 研究の内容	-----	2
3 研究の方法	-----	2
4 共同研究校	-----	2
少人数指導と少人数数学級の指導の効果に関する研究についての基本的な考え方	-----	2
1 本研究における少人数数学級と少人数指導のとりえ	-----	2
2 少人数指導や少人数数学級の現状	-----	2
3 少人数指導や少人数数学級を行う意義	-----	3
4 少人数指導を進めるに当たって明らかにしたい事項と本研究の進め方	-----	4
指導形態、指導方法の工夫改善による教育効果に関する分析・考察	-----	5
1 指導形態の違いによる指導の効果についての調査及び分析・考察	-----	5
(1) 調査の意図	-----	5
(2) 指導形態の分類	-----	5
(3) 調査の概要	-----	6
(4) 指導形態の違いによる指導の効果についての調査結果の分析・考察	-----	6
ア 小学校の調査結果の分析・考察	-----	6
イ 中学校の調査結果の分析・考察	-----	12
2 学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒に及ぼす影響についての分析・考察	-----	13
(1) 授業観察の意図	-----	13
(2) 授業実践校及び実践学年、実践教科及び授業の概要	-----	14
(3) 一斉指導と単純分割少人数指導の比較について	-----	14
ア 小学校算数科の授業における比較から	-----	14
イ 中学校英語科の授業における比較から	-----	15
(4) 単純分割少人数指導と意図的に分けた少人数指導の比較について	-----	17
(5) 学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒に及ぼす影響についてのまとめ	-----	18
3 指導形態、指導方法の工夫改善による教育効果に関する研究のまとめ	-----	19
研究のまとめと今後の課題	-----	19
1 研究のまとめ	-----	19
2 今後の課題	-----	20

おわりに

【引用文献】

【参考文献】

研究の目的

この研究の目的は、少人数指導と少人数学級における学習指導のよさを検討し、発達段階に応じた効果的な取り入れ方を提案することにより、一人一人に「確かな学力」を育成しようとするものである。

今、学校教育には、「わかる授業」を行い、「確かな学力」をはぐくむことが求められている。そのために、文部科学省では、少人数指導や少人数学級など1学級の人数を弾力的に取り扱い、個に応じたきめ細かな指導を実現できるように推進している。また、本県でも少人数指導や少人数学級の実現のために、すこやかサポート推進事業や少人数指導の加配等で、その推進を図っている。

そこで、本研究においては、まず、少人数指導と少人数学級の実践校の現状を把握し、少人数指導と少人数学級における指導の特性とよさを整理する。次に、発達段階を考慮した授業計画案を作成し、それに基づいた授業実践を行い、発達段階に応じた少人数指導と少人数学級の効果的な取り入れ方を提案する。

研究の全体構想

本研究は、平成16年度、17年度の2カ年を通じて、指導形態、指導方法の工夫改善を図るため以下のような構想で進める。

1 指導形態の違いによる指導の効果に関する調査及び分析・考察（方策）

本県の学力向上フロンティアスクールは、多くの学校で指導形態を工夫した授業を行っている。そこで、これらの学校に対して、昨年度指導形態を工夫した授業を行った単元やどのような指導形態を取り入れたか、また、学力面でどのような変容があったのかを調査し、どのような指導形態が効果的なのかを明らかにする。（平成16年度）

2 学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒に及ぼす影響について探るための授業観察及び分析・考察（方策）

少人数での学習と通常規模の学級での学習は、学習する人数に違いが生じるが、その人数の違いが子ども一人一人の学び方や教師の指導の在り方にどのような影響を与えるのか、同様に学習集団の人数や編成の仕方の違いがどのような影響を与えるのかを明らかにすることをとおして、少人数指導の効果的な指導方法を見いだす基礎資料とする。（平成16年度）

3 指導形態に応じた、効果的な指導方法についての試案の作成と授業実践及び分析・考察

上記(1)、(2)から、本県における効果的な指導形態や指導方法について研究を深め、どのように少人数指導を行うことが効果的なのかを明らかにし、試案として提案する。その試案を基にして授業実践を行い、効果的な少人数指導の取り入れ方についてまとめる。（平成17年度）

本年度の研究の内容と方法

1 研究の目標

少人数指導についての先行研究や他県の取り組み及び本県の少人数学級指定校への調査結果等から現状を把握し、本研究の基本的な考え方をまとめる。その後、指導形態の違いによる指導の効果や学習集団の人数や編成の仕方の違いが一人一人の児童生徒にどのような影響を及ぼすのかについて、調査や授業観察から明らかにしていく。

2 研究の内容

(1) 少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する研究についての基本的な考え方の検討

少人数指導や少人数学級についての先行研究や他県の取り組み及び本県の少人数学級指定校への調査結果等を基に基本的な考え方をまとめ、本研究の進め方について検討する。

- (2) 指導形態、指導方法の工夫改善による教育効果に関する分析・考察
- ア 指導形態の違いによる指導の効果についての調査及び分析・考察
本県の学力向上フロンティアスクールにおける指導形態を工夫した授業の実施状況及び結果について調査を行い、指導形態の違いによる指導の効果について分析・考察する。
- イ 学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒に及ぼす影響についての分析・考察
学習集団の人数や編成の違いがどのような影響を児童生徒に及ぼすのかを明らかにするために、授業観察を行い分析・考察する。
- (3) 指導形態、指導方法の工夫改善による教育効果に関する分析・考察のまとめ
指導形態の違いによる指導の効果や学習集団の人数や編成の違いが児童生徒に及ぼす影響についてまとめを行い、試案の作成に役立てる。

3 研究の方法

- (1) 文献法
少人数指導や少人数学級の先行研究や文献を参考にして、基本的な考え方をまとめる。
- (2) 調査法
指導形態の違いによる指導の効果について明らかにするために、学力向上フロンティアスクールの指定校に調査を行い、その結果について分析し考察する。また、少人数学級の指定校やすこやかサポートの配置校に調査を行い、その結果について分析・考察する。
- (3) 授業観察
学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒に及ぼす影響について授業観察を行い、分析し考察する。

4 共同研究校

花巻市立桜台小学校 花巻市立花巻北中学校

少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する研究についての基本的な考え方

1 本研究における少人数学級と少人数指導のとらえ

本研究における少人数学級とは、1学級の人数が40人程度の学級を30人程度に減らした学級ととらえる。

また、少人数指導とは、学級編成基準は40人としながらも特定の教科において、単純に学級を幾つかに分割したり、習熟の程度等に応じて学級を分割したりしながら学習指導をすることととらえる。学級を分割する際には、一つの学級だけでなく同一学年の複数の学級を幾つかに分割する場合もある。

2 少人数指導や少人数学級の現状

従来、我が国においては、1学級当たりの人数が決められ、それに従って学級編成を行ってきた。しかし、中央教育審議会答申『21世紀を展望した我が国の教育のあり方について』（平成8年7月）において「各学校において一人一人の子供を大切にされた教育指導ができるような環境づくりが大切である。とりわけ、個に応じた教育をこれまで以上に推進していくために、各学校において、学習集団の規模を小さくしたり、指導方法の柔軟な工夫改善を促したり、さらには、中学校、高等学校での選択履修の拡大を図っていくことができるよう、人的な条件整備を一層進めることが必要である」と個に応じ、個性を生かす教育の進展を図ろうという視点から、人的な条件整備の促進を提起した。

この後、平成13年3月義務標準法等の一部改正が行われ、各都道府県及び各市町村において教員定数の弾力的な運用が可能となり、1学級当たりの人数を減らした少人数学級や、教科の特性や目標に応じて、学習集団を編成し直して行う少人数指導が全国各地で実践されるようになった。

また、「確かな学力の向上のための2002アピール『学びのすすめ』」(平成14年1月)において、基礎・基本や自ら学び自ら考える力を身に付けるために、各教育委員会において「少人数授業・習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな指導の実施を推進すること」を通達したことに伴い、ますます少人数学級や少人数指導等の指導形態を工夫した授業が推進されることとなった。

このことは、平成16年度の学級編成について、弾力的に取り扱うことを実施している又は検討していると答えた都道府県が41あることから伺うことができる。

本県においても、学級編成を弾力的に取り扱うことについて小・中学校23校を少人数学級の指定校とし、その効果を確かめようとしている。また、少人数加配を行い、各学校が積極的に少人数指導に取り組むように人的条件整備をしているところである。その結果、平成15年に行った当センターの「平成15年度 学校教育調査B」によると、【表1】に示したとおり、指導形態を工夫した指導を実施しているかという質問に対し、「そうである」「どちらかというところである」という回答を合わせると小学校では半数以上の学校が、中学校では、3割以上の学校が指導形態を工夫した授業に取り組んでいる。このことから、本県においても指導形態を工夫した授業が推進されてきていることが分かる。

【表1】指導形態を工夫した授業の実施率

	小学校	中学校
少人数指導	57.4%	25.5%
T・T	58.6%	34.4%
習熟度別指導	30.5%	13.3%

3 少人数指導や少人数学級を行う意義

学級の人数の違いによる教育効果の研究については、アメリカ合衆国で早くから行われている。アメリカ政府が65万人の児童生徒を対象に行ったコールマン報告(1996)では、「子どもたちの教育効果を決定付けるもっとも大きな要因は教育課程や教材、教師の能力ではなくて学級規模である」と結論付けている。同様に、テネシー州のSTAR計画(1985)やウィスコンシン州のSAGE計画等行われたが、その報告は学級人数が少ない方が教育効果が上がると結論付けている。しかし、カリフォルニア州による取り組みでは、学級規模を縮小してもそれほどの効果が得られなかったという報告がなされている。

日本においては、加藤幸次らの研究グループ(1989)が行った調査で、40人から30人に学級規模を縮小しても顕著な効果は見られず、顕著な効果は、20人以下にしたときに見られるという報告がなされた。また、「学級規模に関する調査研究」(国立教育政策研究所紀要 第131集平成14年3月)では、算数/数学と理科において、1学級当たりの人数を20人以下、21人~25人、26人~30人、31人~35人、36人~40人に分けて学力調査を行ったところ、小学校理科の一部で有意差があったものの、算数/数学 中学校理科では、統計的な分析の結果からは、学級規模の違いによる有意差はなかったという報告がなされている。

しかし、学級規模を小さくするいわゆる少人数学級を積極的に推進している山形県の『教育山形「さっちゃん」プラン これまでの評価』(県教育庁義務教育課 2003年7月)を見ると、指導形態を工夫した授業を行うことにより、学力の向上(平成13年度と平成14年度で比較した場合に、偏差値(全国平均が50)で国語科で2.5、数学科で1.6向上している)、不登校児童数の減少(不登校児童数の出現率を平成13年度と平成14年度で比較すると0.017減少している)、欠席児童数の減少等少人数学級が効果的に機能していることが伺われる。山形県の実践は、少人数学級を編成し、必要に応じて少人数指導等の指導形態を取り入れ指導方法を工夫していることが実践資料から読み取ることができる。

この事例は、学級規模を小さくする少人数学級の取り組みだけでなく、そこに何らかの意図をもって、指導形態や指導方法を工夫した授業を行えば、教育効果が高まるのではないかという示唆を与えるものである。

本県においても、今年度から少人数学級の指定校がその効果について研究を始めたところである。

本研究では、少人数学級の指定校を対象に少人数学級や少人数指導の効果について調査を行った(詳しくは「少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する調査の報告書」を参照)。その結果、少人数学級も少人数指導も児童生徒の指導に関しては、どちらも効果があるのではないかと捉えられているが、発達段階や学習内容を考慮したとき、小学校の低学年では少人数学級、中学年以上では教科の特性等によって学習集団を変える少人数指導のほうが効果があると考えられていることが明らかになった。

また、少人数指導については、学力向上フロンティアスクールを中心に研究が進み、多くの成果があげられているが、どのような指導形態、指導方法がより効果が現れるのかについては更に研究を推進する必要がある。今後、多くの学校で指導形態を工夫した授業が展開されていくものと考えられる。その際、少人数学級のときに配慮すること、少人数指導をする際にどのような編成の仕方が効果的であるのか、どのような指導を行えばいいのか等、学校現場で直面している課題について研究を深める必要がある。

これらのことから、少人数指導や少人数学級の指導について研究を進めることは意義があることと考える。ただし、少人数学級の指導方法の工夫については、学級の人数が少人数になったときの工夫であることから、本研究では、少人数指導の研究を進めた上で明らかにしたいと考える。

4 少人数指導を進めるに当たって明らかにしたい事項と本研究の進め方

(1) 少人数指導を進めるに当たって明らかにしたい事項

少人数指導については、多くの研究が行われその実践内容が紹介されているところである。その研究は、「少人数指導にはどのような編成の仕方があるか」「コースの編成をどのように行うのか」「少人数指導及び一斉指導等を単元(題材)の指導過程のどこに位置付けるのか」「学校体制としてどのように少人数指導を位置付けて取り組むのか」等、少人数指導を行う手順等にかかわる研究が多い。また、少人数指導による授業実践の内容や学力面や意識面でどのように変容したかについても多くの文献等で紹介されている。

しかし、どの教科のどの領域で、どのような指導形態で指導を行えば効果的なのかについて明らかにするような研究は少ない。その中で、平成16年3月に刊行された「指導方法の工夫改善による教育効果に関する比較調査研究」(国立教育政策研究所 高浦勝義 2004)では、小学校4学年と6学年の算数科と中学校2学年の数学科と英語科で授業タイプを7つに分類してその教育効果について比較している。それによると、学力調査の観点では、小学校4学年算数科では到達度別学習、小学校6学年算数科では学級を解体して、15人から20人程度の均一割学習集団による一斉指導、中学校数学科と英語科では完全習得学習が教育効果があると結論付けている。この研究は、各教科1単元での実践の結果からまとめているが、このように指導形態(国研の研究では授業パターン)を分類しそれぞれの教育効果を明らかにすることは必要なことと考える。

また、学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒に及ぼす影響についての研究は少ない。そのような中で「少人数授業における指導の工夫改善に関する研究」(平成14年広島市教育センター)や「算数・数学教育における問題解決学習の研究(9)」(平成15年 重松敬一、小嶋康弘)で、習熟度別指導が児童生徒に与える影響について授業観察をとおして明らかにしている。これらの先行研究を参考にしながら、少人数指導を行う際にそれぞれの指導形態のよさや指導方法のよさを取り入れることが大切である。

本研究では、少人数指導を進めるに当たって明らかにしたい事項を次の2点と考え、研究を進めることとする。

どのような指導形態が教育効果をあげるのか。 指導方法をどのように工夫すればいいのか。

(2) 本研究の進め方

本研究では、次のように研究を進める。

方策（指導形態の違いによる指導の効果の研究）

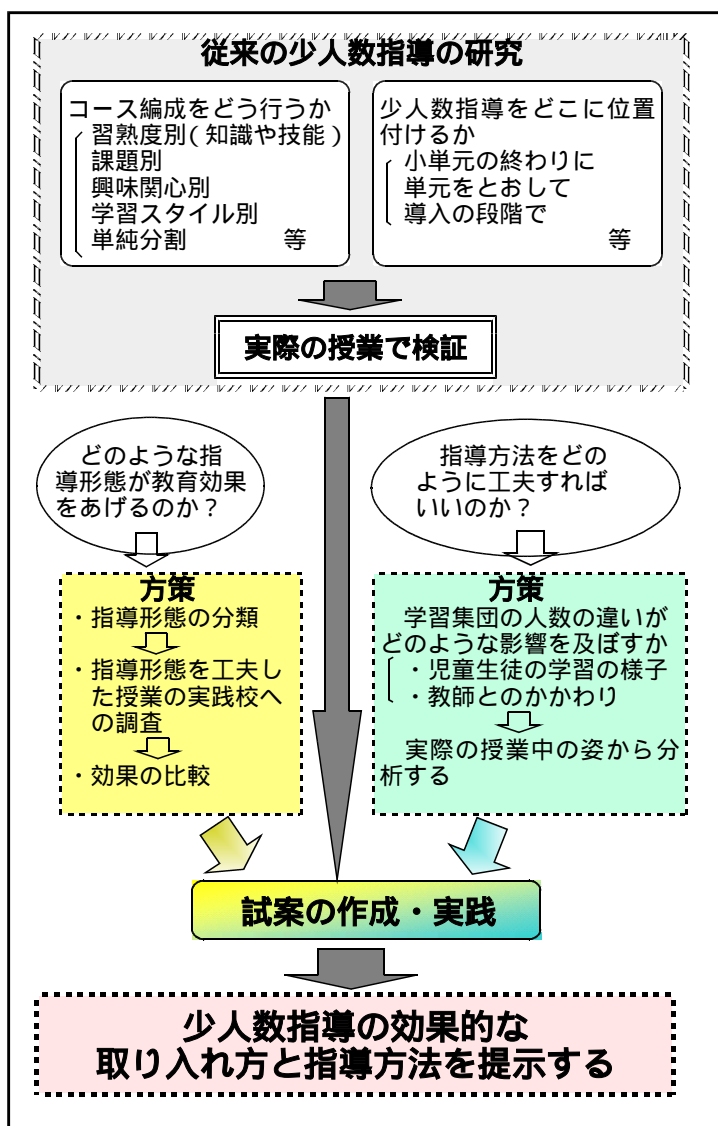
少人数指導の指導形態を分類し、指導形態を工夫した授業を実践している学力向上フロンティアスクールに調査を行い、その効果を比較する。

方策（学習集団の人数や編成の違いが児童生徒にどのような影響を及ぼすのかを探る研究）

学習集団の人数が少ない授業では、人数が多いときと比べて児童生徒の学習の様子にどのような違いがあるのか、また教師とのかかわりはどのように違うのかを授業中の姿から分析する。

以上、方策、方策に取り組み、分類した指導形態に即した効果的な指導方法についてまとめ、試案を作成する。そして、2年次目にその試案に沿った授業実践を

行い、少人数指導の効果的な指導



【図1】本研究の進め方

方法について提案したいと考える。以上をまとめたものが【図1】である。

具体的な研究の内容について以下にその概要を述べることにする。

指導形態、指導方法の工夫改善による教育効果に関する分析・考察

1 指導形態の違いによる指導の効果についての調査及び分析・考察

(1) 調査の意図

「どのような指導形態が学習効果をあげるのか」について明らかにするために、少人数指導の指導形態を分類した上で、その分類に沿った授業実践を行った学校のテスト等の結果を分析し、それぞれの指導形態の学習効果を比較したいと考え調査を行った。

(2) 指導形態の分類

指導形態については様々な分類の仕方があるが、本研究では加藤幸次が提唱している「『個別化・個性化』授業のためのモデル」を参考にしながら、単元(題材)のどこに少人数指導を位置付けるのか(形態)、また何に応じてコースに分けるのか(分け方)の二つの観点から次頁【表2】のように指導形態を分類した。

【表2】指導形態の分類

指導形態			
TT(単元をとおして)			
少人数指導(下のよう分類)			
形態 分け方	ア 一斉 少人数指導	イ (診断) 数指導	ウ その他
	一斉指導(TTも含む)を基本として、単元(小単元)のまとめの段階で、(診断テストの結果を基に)少人数で学習する形態	単元(小単元)をとおして少人数で学習する形態	少人数学習一斉指導や一斉指導(TTも含む)を基にしながら適宜、少人数で学習する形態
a 生活班等で分ける 単純分割型	ア a	イ a	ウ a
b 理解や定着 の程度に応じる	ア b	イ b	ウ b
c 学習の 課題別 に応じる	ア c	イ c	ウ c
d 学習スタイル に応じる	ア d	イ d	ウ d
e 興味・関心 に応じる	ア e	イ e	ウ e

(3) 調査の概要

ア 調査対象校

本県の学力向上フロンティアスクール36校(小学校24校 中学校12校)

イ 調査の時期

平成16年8月下旬から9月上旬

ウ 調査の内容

昨年度、指導形態を工夫した教科及びその単元(題材)の実施状況とその結果

(4) 指導形態の違いによる指導の効果についての調査結果の分析・考察

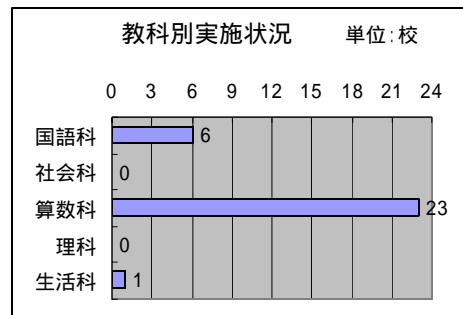
ここでは、指導形態の工夫の状況、指導形態の工夫とテスト結果の関係について分析と考察を行う。

ア 小学校の調査結果の分析・考察

(ア) 教科別実施状況

N = 24

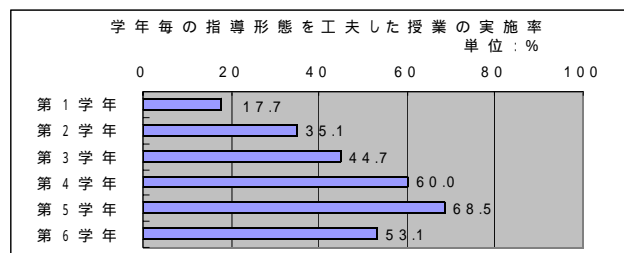
【図2】は、どの教科で指導形態を工夫した授業を行ったかを調べた結果(重複回答)である。24校中23校が算数科で実施しており、国語科は6校、生活科は1校だけの実施となっている。系統性が重視される算数科では、一度つまずくとその後の学習に影響を及ぼすことから、実施が多くなっていると考えられる。そこで本研究では、多くの学校で指導形態を工夫した授業を行っている算数科について分析と考察を行うこととする。



【図2】教科別実施状況

(イ) 算数科における学年毎の指導形態を工夫した授業の実施率

【図3】は、算数科において指導形態を工夫した授業は、どの程度行われているかを学年別に調べた結果である。指導形態を工夫した授業を行ったと回答した23校の実施単元数を求め、各学年毎に総単元数(単元数×23)と比較した。



「注」第1学年:N = 299 第2学年:N = 276 第3学年:N = 322
第4学年:N = 230 第5学年:N = 184 第6学年:N = 207
Nはその学年の総単元数を表す。

【図3】指導形態を工夫した授業の実施率

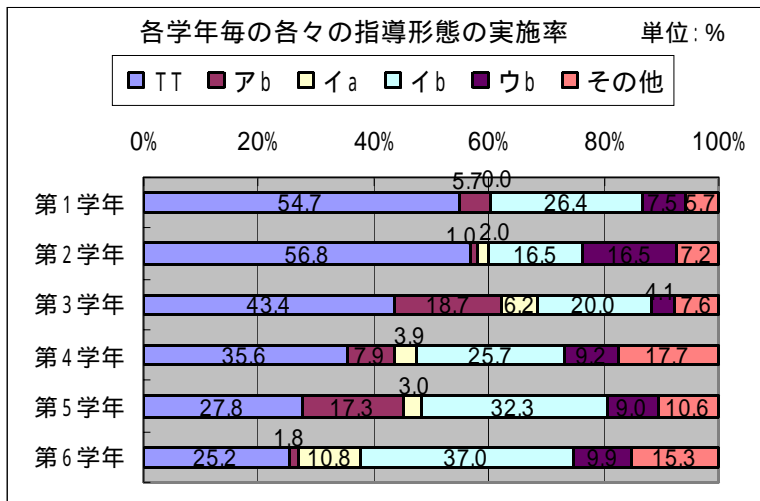
指導形態を工夫した割合は、第5学年(68.5%)が一番多く、次いで第4学年

(60.0%)となっている。第1学年、第2学年はそれほど多く取り組まれていない。

(ウ) 算数科における各学年毎の各々の指導形態の実施率

【図4】は、前頁【表2】で示した各々の指導形態がどの程度行われているかを学年別に調べた結果である。これは、23校の各々の指導形態毎に授業を行った単元数を求め、指導形態を工夫した単元の総数と比較し、その割合を示したものである。

この図から、各学校では学年が進むにつれて様々な指導形態に取り組んでいることが分かる。また、顕著な傾向としてTTは学年が進むにつれて取り組まれなくなり、理解や定着/少人数学習《イb》が取り組まれるようになってきていることが分かる。また、第6学年で単純分割型・少人数学習《イa》の割合が高くなっている。



【注】1 Nは、その学年で指導形態を工夫した単元の合計数とする。
 第1学年：N = 53 第2学年：N = 97 第3学年：N = 144
 第4学年：N = 138 第5学年：N = 126 第6学年：N = 110
 2 指導形態は次のように表している。(詳しくは前頁【表2】参照)
 Ab：理解や定着/一斉 少人数 Ia：単純分割型/少人数
 Ib：理解や定着/少人数学習 Ub：理解や定着/その他
 その他：上記以外の指導形態

【図4】各々の指導形態の実施率

(I) 指導形態を工夫した指導におけるテスト結果と通常指導におけるテスト結果の比較

小学校算数科における少人数指導の効果を調べるために、指導形態を工夫した指導におけるテスト結果と通常指導におけるテスト結果を比較した。

【比較の仕方】

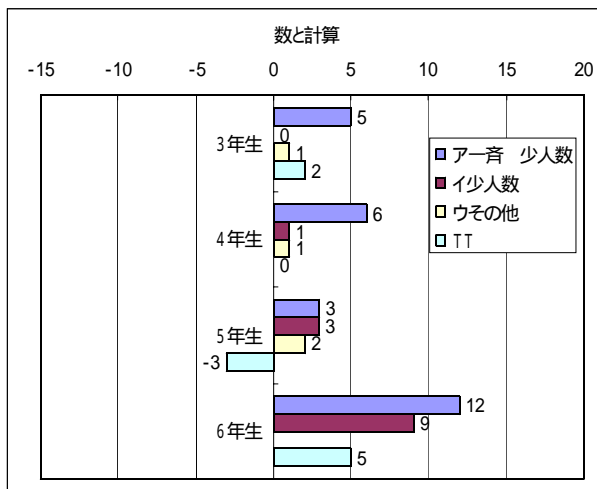
テストは教研式標準学力検査NRTと教研式標準学力検査CRTを使用した。
 指導形態を工夫した指導におけるテスト結果と通常指導におけるテスト結果を基に、それぞれの指導形態毎に

$$\frac{\text{該当する指導形態を工夫した学校全部の得点率}}{\text{全国の得点率}} \times 100$$
 で全国比を求めた。
 (指導形態を工夫した指導における全国比) - (通常指導における全国比) により差を求めた。

【解釈の仕方】

+は指導形態を工夫した指導が通常指導より全国比が高いこと、-は通常指導より低いこと、0は通常指導と同じ。
 数値のないものは指導形態を工夫した指導におけるテスト結果つまりデータがなかったことを示している。

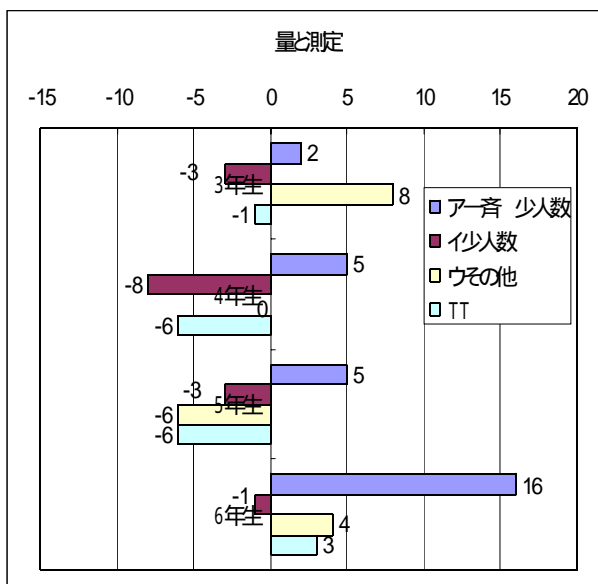
領域別、形態(少人数指導をどこに位置付けるか)の違いによる比較



数と計算 調査対象人数

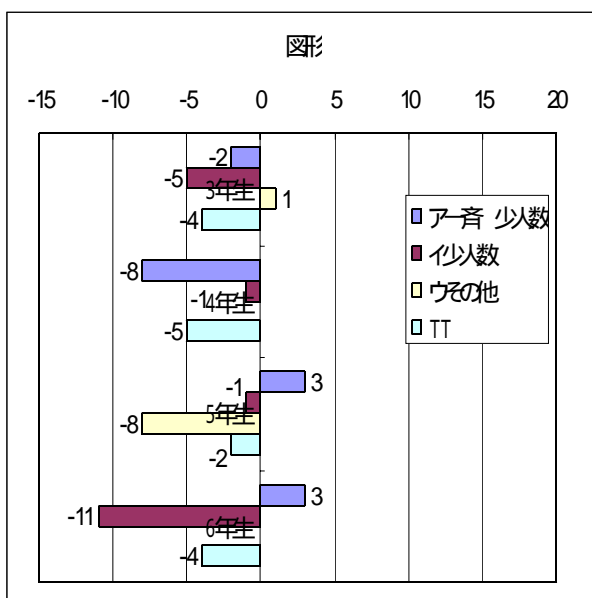
形態	3学年	4学年	5学年	6学年
ア一斉 少人数	253	146	291	77
イ少人数	462	322	410	670
ウその他	184	253	221	
TT指導	435	205	456	368
通常指導	82	273	125	188

数と計算領域においては、第5学年のTT以外、どの形態の結果も通常指導を上回っている。全体的には、一斉指導を基本とし、診断を基にまとめの段階で少人数指導を取り入れる形態における結果が良く、特に第6学年においては高くなっている。



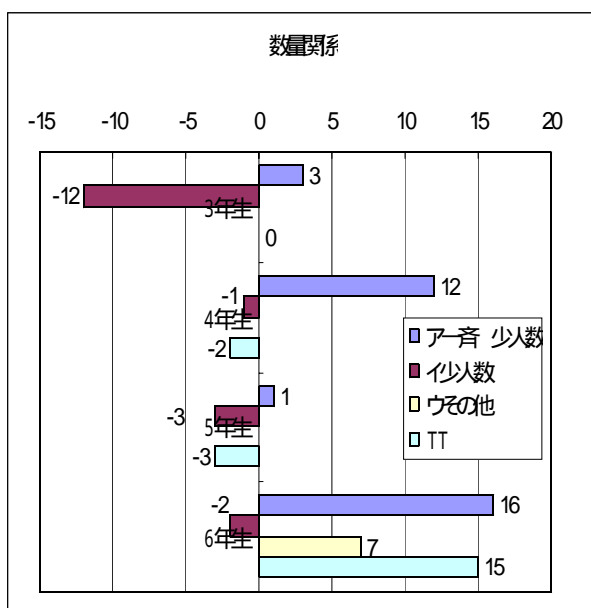
形態	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
ア-斉 少人数	253	159	332	77
イ少人数	146	336	268	375
ウその他	29	65	70	177
TT 指導	334	75	139	127
通常指導	164	370	170	42

量と測定の領域において、通常指導を上回る結果となった形態は、全学年、一斉指導を基本とし、まとめの段階で少人数指導を取り入れる形態である。第6学年においては、通常指導よりもかなり高い結果となっている。反対に、通常指導を下回る結果になった形態は、単元をとおして少人数指導を行う形態である。TT指導も第6学年以外の学年では低くなっている。



形態	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
ア-斉 少人数	237	146	320	23
イ少人数	361	271	209	64
ウその他	60		97	
TT 指導	271	205	153	231
通常指導	202	383	421	334

図形の領域においては、全体的に形態を工夫した結果が、通常指導を下回っている。特に、第4学年の一斉指導を基本とし、まとめの段階で少人数指導を行う形態、第5学年の適宜少人数指導を行う形態、第6学年の単元をとおして少人数指導を行う形態は低い結果となっている。反対に、第5学年、第6学年の一斉指導を基本とし、まとめの段階で少人数指導を行う形態は、若干、通常指導を上回っている。



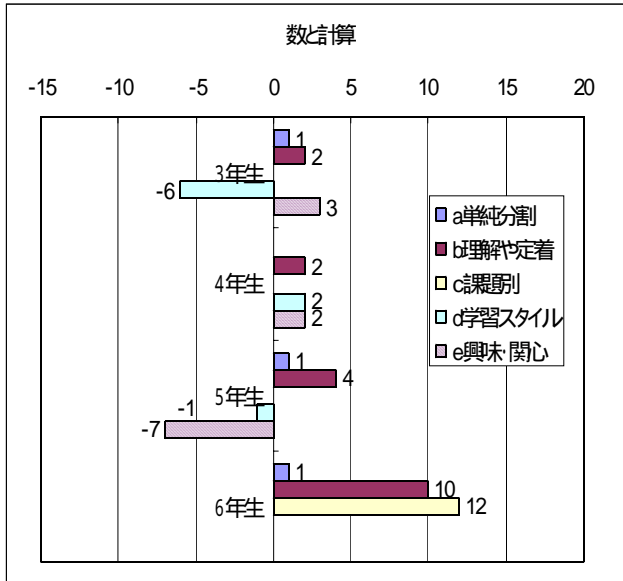
形態	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
ア-斉 少人数	237	146	259	77
イ少人数	71	271	301	375
ウその他				177
TT 指導	163	140	130	104
通常指導	120	383	426	424

数量関係の領域において、通常指導よりも全学年、上回る結果となった形態は、数と計算と量と測定の領域と同じく、一斉指導を基本としまとめの段階で少人数指導を取り入れる形態である。第4学年と第6学年では、大きく上回っている。第6学年は、TT指導も通常指導よりも大きく上回っていることから指導の効果が認められる。

反対に、全学年、通常指導を下回った形態は、単元をとおして少人数指導を行う形態である。特に第3学年では、大きく下回っている。

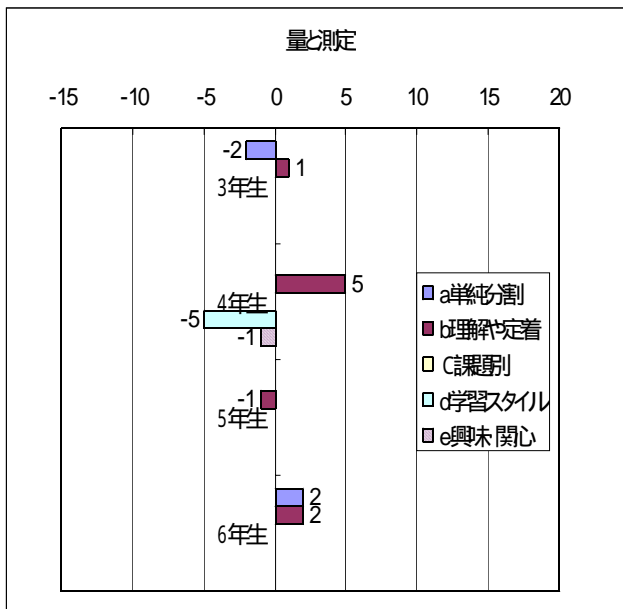
【図5】領域別、形態（少人数指導をどこに位置付けるか）の違いによる比較

領域別、分け方（コース編成をどう行うか）の違いによる比較



分け方	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
a 単純分割	325		130	96
b 理解や定着	709	721	699	606
c 課題別				77
d 学習スタイル	26	104	61	
e 興味・関心	124	135	32	
通常指導	82	273	125	188

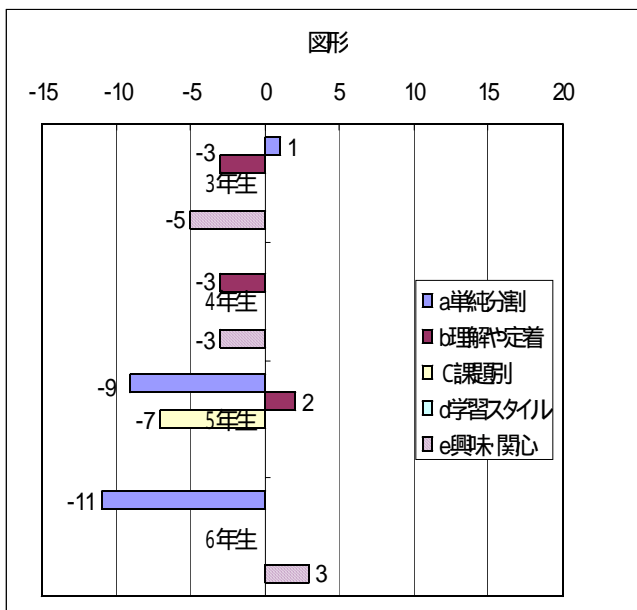
数と計算の領域においては、第3学年の学習スタイル、第5学年の学習スタイル、興味・関心による分け方以外どのような分け方の結果も通常指導を上回っている。特に、第6学年の理解や定着の程度に応じた分け方や課題別の分け方は、通常指導の結果を大きく上回っている。



分け方	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
a 単純分割	212	62	77	215
b 理解や定着	399	485	497	411
c 課題別			74	
d 学習スタイル		148		
e 興味・関心				
通常指導	164	370	170	424

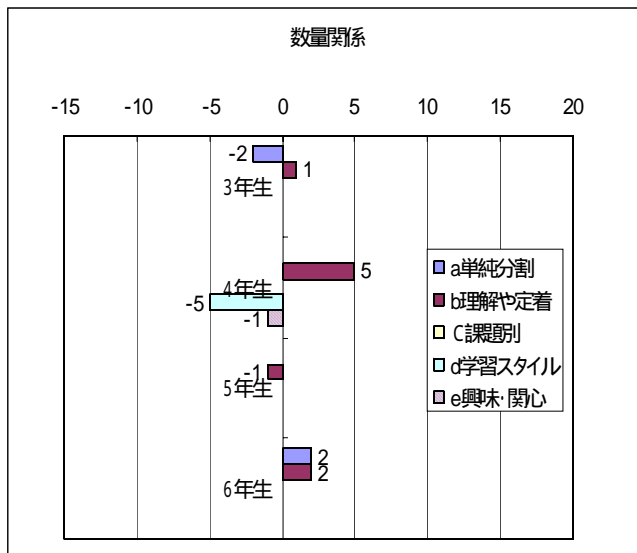
量と測定の領域においては、第5学年以外の学年で理解や定着に応じた分け方の結果が通常指導を上回っている。が、それほど差はない。

第4学年では、学習スタイルに応じた分け方による少人数指導が行われているが、その結果は通常指導を下回る。これらの結果から、学年や領域に応じた特徴は、見受けられない。



分け方	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
a 単純分割	135		74	64
b 理解や定着	490	417	491	
c 課題別			138	
d 学習スタイル				
e 興味・関心	108	135		24
通常指導	202	283	165	334

図形の領域においては、第3学年の単純分割、第5学年の理解や定着、第6学年の興味・関心に応じた分け方による結果が通常指導を若干、上回っているが、それ以外の分け方においては、通常指導を下回っている。特に、第5・6学年の単純分割による分け方が大きく下回っている。



数量関係 分け方	調査対象人数			
	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
a 単純分割	108	/	/	242
b 理解や定着	200	355	560	488
c 課題別	/	/	/	/
d 学習スタイル	/	62	/	/
e 興味・関心	/	135	/	/
通常指導	120	383	193	424

数量関係の領域において、第3学年、第4学年、第6学年の理解や定着に応じた分け方が通常指導を若干上回る。反対に第3学年の単純分割、第4学年の学習スタイル、興味・関心に応じた分け方、第5学年の理解や定着に応じた分け方が通常指導を若干下回るが大きな差は見られない。

【図6】領域別、分け方（コース編成をどう行うか）の違いによる比較

分析

これまでの調査結果を基に小学校算数科における少人数指導の効果について考察する。

少人数指導の効果が見られる領域は、数と計算領域である。第5学年のTT指導以外はどの学年でも形態を工夫した指導の方が、通常指導よりもテスト結果が上回っている。その中でも特に上回っているのが、一斉指導を基本として診断を基に少人数指導を行う形態である。また、分け方の観点から考えると、理解や定着の程度に分けることが効果的であることが伺われる。形態を工夫した指導におけるテスト結果と通常指導におけるテスト結果を比較したとき、形態を工夫したテスト結果が通常指導のテスト結果を上回ることから、全学年、一斉指導を基本とし、診断を基にまとめの段階で少人数指導を行う方法が効果的であることが分かる。が、少人数指導を行う際の分け方に関しては、学年に応じて差があることから発達段階に応じる必要がある。調査からは、第3・4学年では興味・関心といった学習意欲を大切にしたい分け方が、第5・6学年では理解や定着に応じた分け方が、学力向上といった面から効果的であることが伺えるが、この点に関してはさらに検討する必要がある。

一方、これから少人数指導の在り方を探っていく必要のある領域は、図形領域である。少人数指導の効果が見られる学年が少ないことから、指導形態や指導方法が領域の特性に合っていなかったものと考えられる。同様に、数と計算領域以外の3領域においてどの学年でも単元をとおした少人数指導の効果が認められない。図形領域と同じ理由であると考えられる。これらの領域においては、領域の特性や学習内容の難易度、発達段階に応じた理解から定着までの思考過程を分析したりしながら、少人数指導の工夫について考えていく必要がある。

(オ) 同じ児童（同集団）の平成14年度と平成15年度のテスト結果の比較

上記(I)の結果を受けて、そこで得られた結果が確かなものか、別の比較方法で検討してみることとする。今度は、同じ児童（同集団）の平成14年度と平成15年度のテスト結果の比較をとおして、どのような指導形態がテスト結果の伸びにつながったのかをまとめる。この比較は、(I)の内容を基に6頁【表2】で示した指導形態の中からTT、理解や定着／一斉 少人数学習《アb》、単純分割型／少人数学習《イa》、理解や定着／少人数学習《イb》の四つに絞って分析することとする。

比較は、平成15年度小学校第3学年と平成14年度第2学年、同様に第4学年と第3学年、第5学年と第4学年、第6学年と第5学年のテスト結果から行い、同じ児童（同集団）の伸びを領域

毎にまとめた。比較は次のように行った。

【比較の仕方】

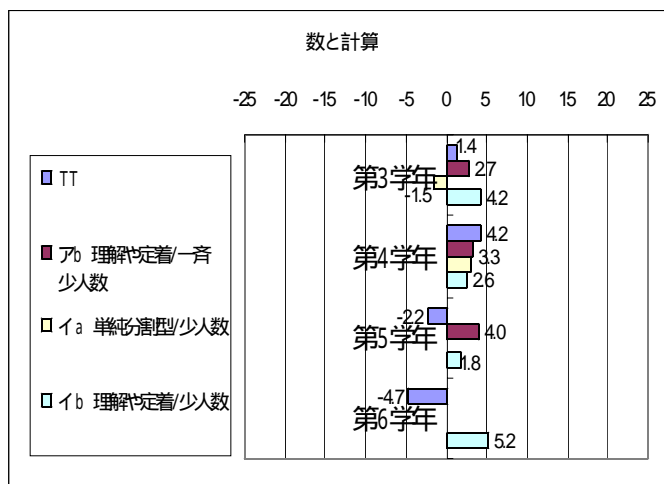
テストは教研式標準学力検査NRTと教研式標準学力検査CRTを使用した。
 平成14年度は、各学年、各領域毎に、平成15年度は各単元毎に得点率を求め。それぞれの指導形態毎に

$$\frac{\text{該当する指導形態を工夫した学校全部の得点率}}{\text{全国の得点率}} \times 100$$
 で全国比を求めた。

(平成15年度の全国比) - (平成14年度の全国比) により差を求めた。

【解釈の仕方】

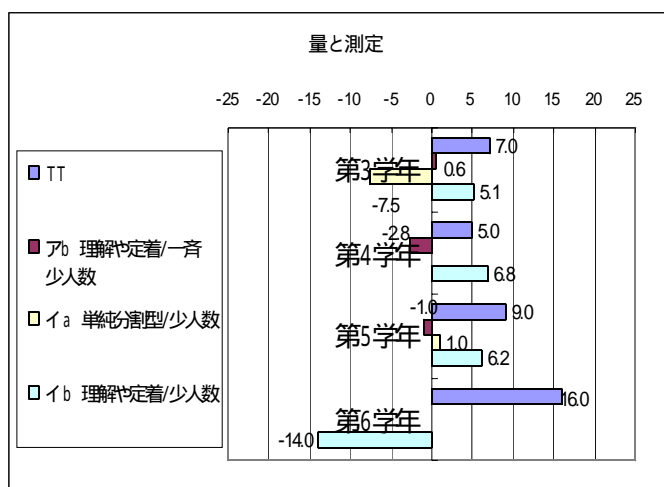
+ は平成15年度の方が平成14年度より全国比が高いこと、- は平成14年度より低いこと、0 は通常指導と同じ。数値のないものはデータがなかったことを示している。



「注」各学年、指導形態の調査対象人数は次のとおりである (単位:人)

	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
TT	90	217	199	148
アb 理一	129	146	256	
イa 単純	68	130		
イb 理小	139	328	223	299

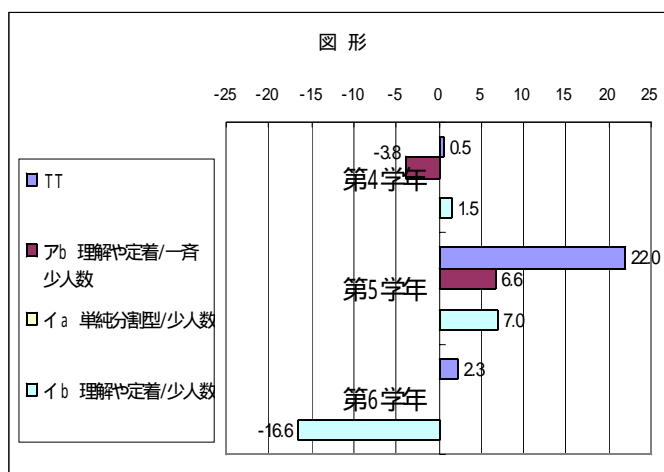
全体的にプラス傾向である。特に理解や定着 / 少人数学習《イb》は、どの学年でも + 傾向である。しかし、学年が進むにつれてTTは - 傾向である。



「注」各学年、指導形態の調査対象人数は次のとおりである (単位:人)

	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
TT	28	59	47	51
アb 理一	129	146	256	
イa 単純	68		62	
イb 理小	71	204	100	233

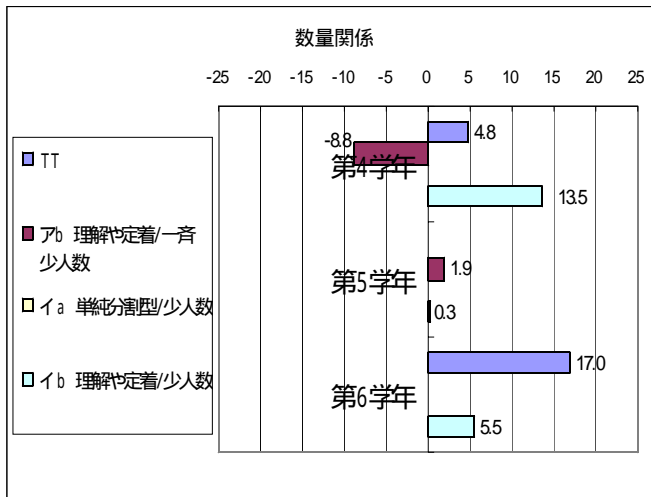
TTは、どの学年もプラス傾向にある。理解や定着 / 少人数学習《イb》は、第3学年から第5学年まではプラス傾向であるが、第6学年でマイナス傾向に変わる。



「注」各学年、指導形態の対象人数は次のとおりである (単位:人)

	4 学年	5 学年	6 学年
TT	84	47	77
アb 理一	146	256	
イa 単純			
イb 理小	278	162	104

TTはプラス傾向にある。しかし、理解や定着 / 少人数学習《イb》は、第6学年でマイナス傾向である。



「注」各学年、指導形態の調査対象人数は次のとおりである(単位:人)

	4 学年	5 学年	6 学年
TT	84		26
アb 理一	140	256	
イa 単純	74		
イb 理小	204	162	233

全体的にプラス傾向である。第4学年の理解や定着/一斉少人数学習《アb》だけがマイナス傾向である。

【図7】同じ児童(同集団)の平成14年度と平成15年度のテストの比較

【図7】は指導形態を工夫した指導における同一児童の平成14年度と平成15年度のテストの伸びを見たものである。対象人数が少なく、しかも人数のばらつきが大きいため正確なデータとして示すことはできないが、傾向として押さえる。

ほとんどの指導形態でプラス傾向が多いことから、平成14年度よりも平成15年度の方がテストの結果が向上していることが分かる。これは、調査対象校(学力向上フロンティアスクール)の取り組みの成果であると考えられる。

数と計算領域では、学年が進むにつれてTTの指導形態は-傾向にあり、理解や定着の程度に応じた少人数指導がプラス傾向にある。量と測定や図形領域では、理解や定着の程度に応じた少人数指導が小学校第6学年でマイナスとなっていることが特徴的である。また、TTによる指導はどの学年もプラス傾向にある。数量関係では、第4学年で理解や定着/一斉少人数がマイナスとなっているが、他はプラスであった。

これらのことから、次の傾向を見いだすことができる。

数と計算領域では、TTよりも理解や定着の程度に応じて分けた少人数指導の方が効果があるのではないかと。

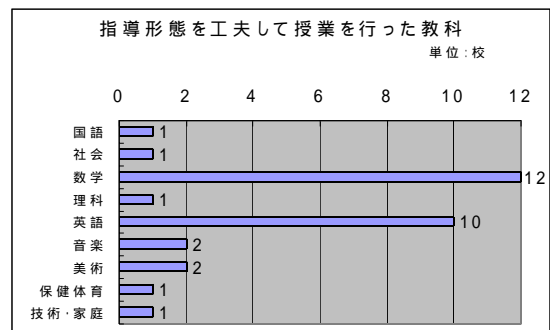
量と測定や図形領域では、理解や定着の程度に応じて分けた指導を行えば効果があるとはいいきれない。これらの領域に効果的なTTも含めた少人数指導の在り方について検討していく必要がある。

単純分割型少人数《イa》は、どちらかというとなりマイナス傾向が強く、プラス傾向が少ないことから、普通サイズの人数のときの指導とは違った、人数が少ないことのよさを生かした指導を行うことが大切ではないかと。

イ 中学校の調査結果の分析・考察

中学校においても小学校と同様に、指導形態の工夫の状況について分析と考察を行う。

【図8】は、指導形態を工夫して授業を行った教科の集計結果である(複数回答)。数学科については全ての学校で取り組んでおり、次いで英語科が10校となっている。なお、音楽科、美術科で2校が取り組んでいるが、その取り組み内容は、TTや課題

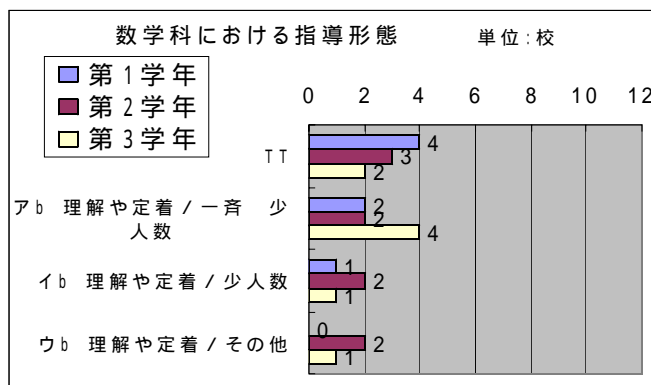


【図8】指導形態を工夫して授業を行った教科

別の少人数指導である。

【図9】【図10】は、数学科、英語科においてどのような指導形態で授業を進めたのかを示したものである（複数回答）

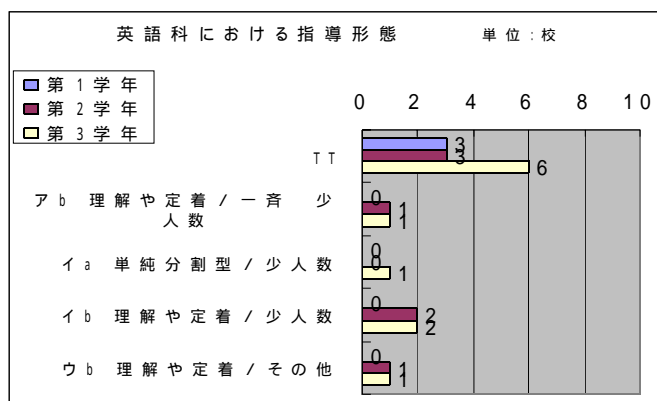
数学科においては、TTと理解や定着の程度／一斉少人数《Ab》が多い。特に、TTは、第1学年、理解や定着の程度／一斉少人数《Ab》は、第3学年で多くなっている。これは単元末に、発展的な問題や補充的な学習に取り組ま



【図9】数学科における指導形態

せ、個々のレベルにあった問題に取り組ませたいという考えによるものと思われる。

一方、英語科においては、TTが多く、他の指導形態に取り組んでいる学校はそれほど多くない。また、取り組み学年を見ると第1学年は少なく、第3学年が多くなっている。これは、学年が進むにつれて個人差が広がるため、それを解決するために個に応じた指導を行おうとする意図によるものと思われる。二つの教科を比べると、数学科の方が様々な指導形態



【図10】英語科における指導形態

によって指導を行っていることが分かる。

2 学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒に及ぼす影響についての分析・考察

(1) 授業観察の意図

少人数指導を行うに当たり、どのような指導方法が効果的なのかを明らかにするために、実際の授業の状況や児童生徒の姿の分析をとおして、研究の視点を探ることが必要と考え、この授業観察に取り組んだ。

「少人数授業における指導の工夫改善に関する研究」(平成14年広島市教育センター)では、主に少人数指導における生徒の意識の状況や抽出生徒の学習へのかかわり方の違い及び教師と生徒とのかかわり方について分析している。中学校1学年の国語科と数学科と英語科で実践を行っているが、どの教科とも、通常規模の授業と少人数指導(教科によって編成の仕方が違う)による授業では、少人数指導の方が意欲を増すこと、抽出生徒が学習にかかわる時間が長くなること、教師の言葉がけの内容が注意や指示事項よりも励ましやヒント等が多くなること意識調査や授業記録から明らかになっている。

また、「算数・数学教育における問題解決学習の研究(9)」(平成15年 重松敬一、小嶋康弘)では、習熟度別指導を行った際の意識等について分析し、その結果から習熟度別指導における問題解決的な学習のモデルを作成したり、各コースの児童の様子や教師の発問内容について分析したりしている。小学校算数科における実践であったが、基礎コースの児童の特徴や課題が明らかになっている。また、基礎コースと発展コースの違いとして、基礎コースの導入場面では教師も児童も発言が多く、発展コースでは少なくなることや集団解決場面における場面では、発展コースで児童の発言回数が多くなっていること、及び教師の発言内容が、基礎コースでは教師の

発問が増え、発展コースでは教師の確認や共感が多くなることが明らかになっている。

本研究では、通常規模の授業と少人数のときの児童生徒に及ぼす影響や単純分割少人数指導と意図的に分けた少人数指導のときの児童生徒に及ぼす影響について分析・考察を行った。

(2) 授業実践校及び実践学年、実践教科及び授業の概要

ア 花巻市立桜台小学校 2年1組(37人)算数科 単元名「かけ算(1)」

回	月日	学習内容	学習形態	観察の対象
1	9 / 28	5の段	一斉指導	2年1組(37人)
2	10 / 1	2の段	単純分割少人数指導(20人と17人)	20人のクラス
3	10 / 6	3の段	理解や定着の程度別(児童の希望) 基礎コース10人 発展コース27人	両方のコース

イ 花巻市立花巻北中学校 3年1組(36人)英語科 単元名「Unit 6 20th Century Greats」

回	月日	学習内容	学習形態	観察の対象
1	12 / 6	接触節の導入	一斉指導	3年1組(36人)
2	12 / 8	関係代名詞(who)の導入	単純分割少人数指導(18人と18人)	片方のクラス

(3) 一斉指導と単純分割少人数指導の比較について

ア 小学校算数科の授業における比較から

(ア) 指導に要した時間の違い

どちらの授業も同じ指導の流れで実施したが、各段階にかかった時間に違いが生じた。通常規模(5の段)では、課題提示から自力解決に入るまで18分かかったが、少人数(2の段)では15分であった。また、通常規模では、学習のまとめのところまでで時間となったが、少人数では、学習のまとめの後に5分程度時間が余り、2の段の九九に班毎に挑戦させた。

教師が児童一人一人とかかわる時間にも違いが生じた。机間指導は、通常規模では手厚い個別指導を必要とする子を中心に行っていたが、少人数の場合は、一人一人をチェックしながら回り、必要な子には二度、三度と指導することができていた。

(イ) 児童の集中の持続

通常規模の場合は、児童がざわついたり集中がとぎれたりする場面が多かった。このことと関連して、通常規模では、「静かにして」というような注意や「終わった人はどうやってやったかを言えるように心の準備をしてください」「もういいよという人は、お話しできるように考えてください」のように、集中を持続させるような全体への指示が多かった。

(ウ) 一人一人の状況に応じた指導(声かけ)

通常規模では全体への指示が多くなる傾向にあったが、少人数では、一人一人の状況に応じた指導や言葉が

けが多く見られた。右の【表3】は少人数指導の際の教師と児童のかかわり場面を抜き出したものである。児童のつぶやきや問いかけに教師が共感的に対応し、そ

【表3】小学校算数科少人数指導における児童と教師のかかわりの場面

段階	児童と教師のやりとり
自力解決	C:「ばく早かったよ。」 T:「簡単だった。この続きもやってみる?」 C:「いいよ、教科書にあった。」 T:「でも教科書を見ないで考えてみて。」
次の課題提示	C:「10台は?」 T:「10台もやりたい?では2×10も。」 C:「20台もやってみる。」 T:「早い子はやってみてください。」
答えの確認	T:「どんでんできそうだね。くんはどこまで?」 C:「2×10まで。」 T:「くんは時間があつたからどんでん進んだんだね。」

Cは児童、Tは教師の発言を示す。

それぞれの状況に応じて励ましたり、認めたり、賞賛したりする様子が伺われた。

これらのかかわりは、通常規模の授業でも教師が意識して行えば可能となるようにも考えられるが、様々な要因から、実際には難しくなっているものと考えられる。

(I) 答えの練り上げ過程に見られた違い

児童相互に学習の練り上げをさせるには、一般的には、ある程度児童数が多い方が望ましいと考えることができる。多様な意見を引き出すことが可能なためである。ところが、今回授業観察を行った際には、少人数指導の方がスムーズに練り上げを行うことができた。

下の【表4】は、通常規模と少人数のそれぞれの答えの練り上げ場面の教師と児童のやりとりを示したものである。

【表4】小学校算数科授業の通常規模と少人数の指導における答えの練り上げ場面

通常規模（5の段）	単純分割少人数（2の段）
T「どうしてこうなったか分かる？」	T「この方法でない方法でできた人。さん。」
C「・・・5ずつたしていきます」	C「 2×7 は 2×6 より2ずつ増えたので14になります。」
C「5個ずつ増えている」	T「どうして2ずつ増えたの？」
T「5を9回たしているけれども さんのようにひらめいて頭の中 でたし算をした人。全部出さ なくても5ずつたしていけば出 ます。ではやってみます。」	C「2の段だから2にいくつ分だから増えた。」
	T「かけ算のところの答えだけ言って。」
	C「2, 4, 6, 8, 10」
	T「違う読み方がある？」
	C「に、し、ろ、や、じゅう」
	T「5の段のときは5, 10, 15だったね」
	C「時計、時計（児童つぶやく）」
	T「今度は2, 4, 6, 8, 10。早い数え方をやったよね」

通常規模の授業で児童の発言を生かした練り上げが十分に行われなかったのは、一つに教師の意識が働いていた可能性が考えられる。すなわち、「時間がかかってしまう」「ねらいどおりの発言が引き出せるか分からない」等の意識から、教師主導で答えを導き出そうとしてしまうのではないかということである。ただし、この部分については授業後の教師への聞き取り調査では明らかにされなかった。

イ 中学校英語科の授業における比較から

(F) 授業の様子から見られる少人数指導の効果

中学校の授業においても、「指導に要した時間の短縮」「集中の持続」「一人一人の状況に応じた指導や声かけ」に、小学校の授業と同様の効果が見られた。

授業開始直後のウォーム・アップ活動（簡単な英問英答）を、通常規模の授業では3人一組の12チームで行ったところ（チームの誰か一人が回答すれば全員着席可）3分かかったが、少人数指導では2人一組の9チームで1分45秒であった。個別の口頭練習でも、全員に当てる時間が短縮したり、逆に同じ時間内に生徒が2度3度と口頭発表の機会が与えられていた。

また、この全員に繰り返し発表の機会があるということが、生徒の活動への参加意識を高め、集中の持続につながっていたように見えた。後に述べる生徒への意識調査からは、少人数指導による学習環境の変化も授業への集中に効果があったことが分かる。

一方、生徒のつぶやき等を教師が効果的に取り上げようとする姿は、両方の授業で見られた。ただ、少人数の方が個々の生徒のつぶやきを聞き取りやすかったり、生徒の方も授業中の発言（つぶやきや質問を含む）がしやすい状況が見られた。

(1) 生徒の学習への参加状況に見られる少人数指導の効果

では、生徒個々の状況を見ていくと、どのような違いがあるのだろうか。一人の生徒の学習への参加状況を、特に授業者とのかかわりの場面を中心にみていくこととする。ここでは生徒Aを

取り上げ、分析を行った。

Aは、通常の授業では意欲的に発言もするが、集中が持続しない傾向にある。観察を行った通常規模の授業の際も、教師の発言や仲間の発言によく反応しているが、授業の進行からはずれた言動も多い。授業中に疑問をつぶやいても、教室全体の「疑問」や「課題」として取り上げられることはなく、本人もそれがかまわない様子であった。練習問題や口頭練習の場面では、指示された内容に積極的に取り組もうとしない姿も見られた。

一方、少人数指導の授業では、Aのつぶやきや疑問が授業者とのかかわりの中で生かされる場面が複数あった。下の【表5】は、少人数指導におけるAの様子の一部である。

【表5】中学校英語科単純分割少人数指導の授業における生徒Aの様子

T：教師 A：観察対象生徒 B：Aの前の席の生徒 C：Aの後ろの席の生徒 S：他の生徒		
時間	人	単純分割少人数指導(18人) 授業の様子
00'00"	T	【生徒Aと教師とのかかわり場面】(プリントの練習問題を解く場面) 「では、練習問題、1番から5番まで、さっき絵を見せた人たちです。入れてみてください。」
00'50"	A	「あ、これって過去形か」と、消しゴムで消す。
01'00"	A	書こうとして、後ろのCに「helpの過去形って？」
	C	「ん？ helped[ヘルプ'ド]、違うか？」
	C	「こっち見ればいいんじゃないの」と教科書の巻末を探すが見あたらない。
01'43"	A	後ろを向いたBに相談して「helpって何だっけ。help hopeじゃないし。」
	B	「edが付くんじゃないの」
	A	「helped？ 分かんない、違うの？」今度は後ろを向いてCの教科書巻末の不規則動詞変化表を探す。
02'05"	C	机間指導で通りかかった教師に「helpの過去形ってこれでいいんですか？」
	T	「うん。」OKのサインを出す。
	C	「ほら。」
02'10"	A	プリントに書き込みながら、Bに対して「helped」と教える。
02'25"	A	次の問題を解いていて、前の席のBに「作ったってことはさあ、アレじゃねえ、描いたってことにもなるの？」
	T	近くにいて、そのつぶやきを聞いていた。「そうですね。」
	A	「てことは、madeでもいいの？」(これは教師に)
	T	「madeでいいですよ。」
02'43"	A	書いて、「よし」とペンを置く。 - その後の答え合わせ -
04'10"	S	「Mother Teresa is a woman who helped sick people.」
	T	「いいでしょう。who helped」と答えを板書する。「『助けた』なので過去形にしてください。helped」
	A	「helped」と発音をまねてつぶやく。
	T	「helped helped」
00'00"	T	【生徒Aと教師とのかかわり場面】(黒板に貼った有名人を紹介する英文を書く課題) 「Please choose three persons」
	A	「え、そん中から選ぶの？」
	T	それには答えずに「You can use dictionaries. OK?」と辞書を配り始める。
00'20"	A	もう一度、教師に質問する「そん中から選ばなきゃならないの？」
	T	生徒に辞書を渡していたが、Aの方に歩み寄ってくる。
	A	「先生、そん中から選ばなきゃなんないの？」
	T	「そうですね。」
	A	「なんで？」
	T	「どうしても書きたい人がいる場合はいいですよ。」
	A	「ホント？」
	T	「はい、いいですよ。」

少人数の授業において、Aは、初めは通常規模の場合と同じようなつぶやきや仲間同士のやりとり

が多かったが、前頁【表5】のように教師とのかかわり場面を重ねることによって、授業に積極的に取り組む姿が見られるようになった。かかわり場面では、答え合わせまで集中がとぎれることがなく、その後の口頭練習にも意欲的に取り組んだ。また、かかわり場面を受け、Aは自校の理科教諭についての英作文に取り組んだ。机間指導で教師のアドバイスをもらい、全体の前で発表を行うなど、本人にとっても満足のいく活動ができた様子であった。

(ウ) 生徒と教師への意識調査から

少人数指導の授業後に、生徒と教師に授業についての意識調査を実施した。

【表6】は生徒への意識調査の結果である。86.1% (31名)の生徒が少人数指導に肯定的な感想をもったことが分かる。また、その主な理由として、「授業が静か」「集中しやすい」「教師がすぐ来てくれる」「質問や発言がしやすい」等があげられた。一方「学習しづらい」と答えた13.9% (5名)の生徒の理由は、「いつもと雰囲気が違う」というものがほとんどで、初めての学習形態に慣れていない戸惑いからと考えられる。

【表6】少人数指導に関する生徒の意識

N=36 (単位:人)			
ア	イ	ウ	エ
12	19	4	1

「少ない人数で行う授業はいつもの人数で行う授業と比べてどうだったか？」
 ア 学習しやすかった
 イ どちらかといえば学習しやすかった
 ウ どちらかといえば学習しづらかった
 エ 学習しづらかった

授業者への聞き取りでは、少人数指導について【表7】ような効果があげられた。

【表7】少人数指導に関する教師の意識

「通常規模と比べて、少人数指導でどのような違いがあったか」
 ・机間指導がしやすく、生徒一人当たりにも声をかけてあげられる回数が増えた。
 ・生徒の理解の様子がよく分かり、理解が乏しいと感じられる生徒にはすぐに指導することができた。
 ・通常の授業では、あまり目立たない生徒や集中できない生徒にも頻りに声をかけてあげられた。
 ・常に教師に見られているという実感が生徒にあり、生徒の意欲的に取り組もうとする姿勢が感じられた。
 ・人数が少ないために、授業後に集めたプリントの評価が短時間で終わった。
 ・授業中の評価(生徒の意欲的な活動の評価)もしやすい。
 ・英語の苦手な生徒にとっては、指名される回数が増えたため緊張して、授業に集中できないという声もあった。

授業観察で分析したとおり、教師の声がけや目配りが通常規模の授業よりも行き届き、生徒の集中の持続や意欲の喚起につながったという実感が得られたことが分かる。また、普段の授業で困難を感じている授業中や授業後の評価活動についても、評価しやすいとの見通しを持つことができたようである。

(4) 単純分割少人数指導と意図的に分けた少人数指導の比較について

小学校算数科の授業では、3の段の学習について、意図的に分けた少人数指導を実施し、授業観察を行った。ただし、分け方については、理解や定着の度合いを目安としながらも、診断テスト等は行わず、コースの学習内容を示した上で児童に選択させた。きくコース(基礎)とさくらコース(発展)の授業の様子を比較したところ、以下のような状況が見られた。

ア 時間をかける箇所の違い

基礎コースでは、児童の理解の状況を確認しながら、復習を丁寧に行っていた。一方、発展コースでは、普段の授業で見られるように、理解が早くてどんどん先に進みたい児童が待たなければならないということもなく、テンポよく授業が進められた。そして、後半のプリント学習に時間をかけて取り組み、個別化を図るようにしていた。

イ 授業の練り合い場面

発展コースでは、解法の説明で「3を回数分たす方法」「一つ前の答えに3ずつたす方法」「九九による解答」がそれぞれ児童から出され、児童が説明を行っていた。一方、基礎コースでは、

「3を回数分たす方法」は全員が解答できたが、「一つ前の答えに3ずつたす方法」に気付いた児童は数名で、教師主導で理解が図られるよう指導していた。

基礎コースでは、普段、練り合い場面で発言することが少ないような児童も発言の機会があり、主体的な学習が促されているように感じた。しかし、思考の広がりや深まりを求められる場面では、教師の支援がより必要である。

- (5) 学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒に及ぼす影響についてのまとめ
今回の授業観察から明らかになったことをまとめると、以下のようになる。

少人数の方が、一つの指導に要する時間が短くなる。

少人数では、児童生徒が意欲的に学習に参加するようになる。

- ・発言や発表の機会が増える
- ・集中が持続する
- ・教師とのかかわりが密接になる
- ・発言や質問がしやすくなる

少人数では、教師が児童生徒一人一人に応じた指導が行いやすい。

- ・児童生徒一人一人の状況が把握しやすい
- ・個々のつぶやきや質問、表情などに教師が反応できる

理解や定着の程度に応じた少人数指導では、集団の特質が授業の進め方に影響する。

- ・基礎コースの方が復習中心、教師主導の傾向にある

このことから、少人数指導の工夫改善の方向性について、次のような知見を得ることができる。

ア 授業の時間配分の工夫について

「指導時間が短くなる」ということが、単に残りの時間を補充・発展学習に充てて学習の個別化を図るということにつながるわけではない。例えば、英語や体育などの技能系教科の場合、複数回活動（練習）の機会を設定することで、児童生徒に「次はこうしよう」という意欲を持たせることも可能である。何をねらってどのような時間配分で授業を展開するのか、通常規模の場合とは別に検討する必要があると考える。

イ 児童生徒の思考を促す指導の工夫について

少人数指導を行う利点は、授業を効率的に行うということだけではない。例えば、今回の授業観察で一人一人の児童生徒の様子を見た場合、少人数指導の方がより意欲的に授業にかかわろうとしている姿が見られた。これは、少人数の環境的要因（人が少ない、教師の目がよく届く、お互いの発言を聞きやすい等）と心理的要因（発言しやすい、意欲や集中が持続する等）が相互に働き合った結果ではないかと考えられる。

これまでの授業を振り返った場合、人数が多い授業では、全体としては多様な意見が出されているように見えても、受け身的な学習姿勢の児童生徒も多く、一人一人の内面の思考は活性化されていなかった面が見受けられる。少人数指導の際の児童生徒の意欲的・能動的な授業への取り組み姿勢を生かし、一人一人が考えざるを得ないような発問を工夫したり、互いの発表を聞き合い、練り合う場面を設定したりすることで、児童生徒一人一人に思考を促すような授業展開が可能になるのではないかと考えられる。

ウ 学習集団の特質にふさわしい指導方法の吟味について

今回の授業観察では、学習集団を意図的に分けた授業を1時間だけ取り上げたが、単純分割の授業とは違った状況が見られた。教科や領域等の学習内容によって、どのように学習集団を

分けるかといったことが、今後、実践として多く取り上げられることが予想される。その際、それぞれの学習集団の特質を明らかにし、その集団に適した指導方法について検討を加えていくことが、少人数指導の効果をさらに高めていく上で大切である。

3 指導形態、指導方法の工夫改善による教育効果に関する分析・考察のまとめ

小学校算数科における少人数指導の実践結果を見ると、その領域によって指導の効果が異なることに着目できる。数と計算の領域では、形態や分け方を工夫して行った少人数指導の方が効果が現れていることが認められる。図形の領域では、形態や分け方の工夫を試みてもなかなか効果が現れにくい現状が伺われる。量と測定と数量関係の領域では、学年によってその傾向が異なっている。これら指導の効果の違いについて、その領域の内容や特性を生かしながら理解から定着までの思考過程を分析していかなければならないと考える。

学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒に及ぼす影響としては、指導に要する時間の短縮や児童生徒の学習意欲の高まり、教師が一人一人の状況に応じた指導が可能になること等があげられる。また、授業観察から得られた知見として、授業展開の際の時間配分の検討や、児童生徒同士の練り合い場面の設定等思考過程を大切にす授業展開、学習集団の特質に適した指導方法の工夫等、幾つかの視点をまとめることができた。

今後の研究の方向性としては、少人数指導の形態や分け方が領域によって異なることを視野に入れながら、学年の状況や学習内容に応じた少人数指導の工夫について、さらに研究を進め進めたい。その際、今年度の成果と課題を整理した上で授業実践を行い、協同研究校や少人数学級実践校等からも情報提供等の協力を受けながら、各学校でより実践的に活用できる内容となるものを提示していきたい。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

少人数指導や少人数学級の指導について、第1年次の研究の結果、成果としてあげられるものは、次の点である。

(1) 少人数指導と少人数学級の効果に関する研究についての基本的な考え方

少人数指導に関する先行研究や少人数学級による指導を行っている他県の例を参考にしながら、少人数指導の現状や課題について理解を深めることができた。また、少人数指導の現状や課題から本研究で明らかにしたいことは、どのような指導形態が学習効果をあげるのか、指導方法をどのように工夫すればいいのかという2点であることを確認することができた。

(2) 指導形態の違いによる指導の効果についての調査及び分析・考察

学力向上フロンティアスクールを対象に、指導形態を工夫した授業の実施状況や通常指導と指導形態を工夫した指導のテストの結果等について調査することができた。また、調査結果の分析・考察をとおして、どのような指導形態が効果があるのかのヒントを得ることができた。

(3) 学習集団の人数や編成の仕方の違いが児童生徒に及ぼす影響についての分析・考察

少人数の学習と通常規模の学級の学習は、人数に違いが生じるが、その違いがどのように児童生徒や教師に影響を与えるのかについて、共同研究校の授業観察から一つの指導に要する時間が短くなることなど明らかになったところがあった。また、この結果を受けて少人数の授業を行う場合にどのようなところを留意すればいいのかをまとめることができた。

(4) 指導形態、指導方法の工夫改善による教育効果に関する分析・考察のまとめ

指導形態の違いによる指導の効果や学習集団の人数や編成の違いが児童生徒に及ぼす影響についてまとめることができた。

2 今後の課題

本年度の研究を踏まえ、効果的な少人数指導についての試案を作成し、それに基づいた実践をとおして、発達段階に応じた少人数指導や少人数学級の効果的な取り入れ方について提案することが第2年次の研究内容であり、今後の課題でもある。次年度の実践に当たっては、試案の作成に十分検討を加え、多くの学校で実践できるような内容を構想していきたい。

おわりに

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました共同研究校の先生方、児童生徒の皆さんに心からお礼を申し上げます。また、研究協力員としてご協力をいただきました先生方に心から感謝申し上げます。

【引用文献】

国立教育政策研究所紀要第131集（2001）,「学級規模に関する調査研究」,国立教育政策研究所, pp.69 - 70.76 - 77

高浦勝義（2004）,「指導方法の工夫改善による教育効果に関する比較調査研究 - 授業法の違いが児童生徒の学力、興味・関心・意欲及び学習態度の形成に及ぼす教育効果について（第二次・最終報告書） - 」,国立教育政策研究所, pp. 2 - 13

山形県教育庁義務教育課（2003）,「教育山形『さんさん』プラン これまでの評価」, pp. 2 - 4

【参考文献】

尾形慎治・森下幸子・藤村和彦（2002）,「少人数授業における指導の工夫改善に関する研究 - 授業観察と生徒への意識調査等を通して - 」,『平成14年度広島市教育センター研究紀要第22号』,広島市教育センター

加藤幸次（1997）,「従来型授業の長所と限界」,『「新しいパラダイム」による授業の創造 - 実践の工夫と技術 - 』,教育開発研究所

重松敬一・小嶋康弘（2004）,「算数・数学教育に問題解決学習の研究（9） - 小学校算数科における少人数習熟度別指導のコース別授業のあり方 - 」,『教育実践総合センター研究紀要 vol 13』,奈良教育大学教育学部附属教育実践総合センター

少人数指導と少人数数学級の指導の効果に関する調査の報告書

岩手県立総合教育センター

少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する調査の概要

1 調査の目的

岩手県立総合教育センターでの「少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する研究」を実施するに当たり、県内の小・中学校少人数学級指定校やすこやかサポートの配置校から、取組状況等について調査を実施することによって、本県の少人数教育の在り方を検討する資料を収集するとともに、少人数指導や少人数学級の効果的な指導方法の研究開発に役立てる。

2 調査協力依頼校

県内の小・中学校 176校

平成16年度小・中学校少人数学級指定校 23校（小学校10校 中学校13校）

平成15年度・16年度すこやかサポート配置校 139校（小学校139校）

平成16年度すこやかサポート（複式）配置校 23校（小学校23校）

3 調査の内容

小・中学校少人数学級指定校

校長、担当職員、該当学年の児童生徒（小学校1年生は除く）、該当する小学校1年生の保護者を対象に、少人数指導や少人数学級を行って初めての児童生徒の状況や指導の効果について調査を行う。

すこやかサポート配置校

校長、担当職員（担任）を対象に、「すこやかサポート制度」に対する考えや児童の様子及び活用の状況について調査を行う。

4 調査の方法

- (1) 調査用紙は、教育事務所、市町村教育委員会を経由して、当該小・中学校に送付するものとする。
- (2) 回答用紙は、当該小・中学校から市町村教育委員会、教育事務所を経由して当センターに着くものとする。

5 調査期間

平成16年6月下旬から7月中旬

考察

少人数学級指定校（小学校）

1 少人数学級の学習指導面における効果について（1-(1)、1-(2)、1-(3)、8-(1)、8-(2)）

少人数学級の学習指導面の効果については、全ての学校長が「効果が現れやすい」と思われるに回答している。特に効果があると思われる教科は算数であり、学校長・担当職員ともに100%近い回答結果である。ついで、学校長と担当職員と回答は違うが、国語、理科、図画工作、体育で効果があると回答している。この理由として、きめ細かな指導をすることができることや個々を生かす場面を多く設定できることをあげている。しかし、指導方法の工夫・改善ができると回答した人は少なく、少人数を生かした指導方法について今後研究を進めていく必要がある。

ただし、これは予想としての回答であり、今後学習指導面での効果については、学習定着度状況調査等諸テストの結果を分析して客観的に判断しなければならない。

2 少人数学級の生活指導面における効果について（2-(1)、2-(2)、9-(1)、9-(2)）

少人数学級の生活指導面の効果について、全ての学校長が「効果がある」と回答している。また、ほとんどの担当職員も「効果がある」と回答している。その理由として、教師側の観点からは早期に児童理解ができ、その子に合った指導ができることや家庭との連絡が取りやすいこと、児童側の観点からは人間関係を保つのに適切な人数であるという回答が多かった。

3 多人数集団の学習指導面における効果と少人数学級と多人数学級の教科等に関する比較について

（3-(1)、3-(2)、10-(1)、10-(2)、15-(1)、15-(2)、16-(1)、16-(2)）

多人数集団の方が学習効果があると思われる教科等としては、学校長、担当職員ともに学校行事や学級活動をあげている。教科指導では、少人数による指導の方が効果があると考えている。

また、児童の調査から、各教科については、少ない人数で行った方がいいと思っているが、道徳や休み時間や掃除は多くの人数で行った方がいいと思っていることが分かる。

この結果から、少人数の活動がどの場面においても効果があったり、好まれたりするとは限らないことが分かる。

4 少人数学級の効果が現れる学年と少人数指導の効果について

（4、5-(1)、5-(2)、11、11-(1)、11-(2)）

学習面で、少人数学級による指導の方が効果があると思われる学年について、学校長の回答は、第3学年が70%と一番多く、ついで第1学年、第4学年の順になっている。担当職員の回答は、第1学年が55%と一番多く、ついで第3学年、第2学年、第4学年の順になっている。この理由として、第3学年は個人差が現れ始める学年であること、第1学年は個別の指導を多く必要とする学年であることがあげられている。

生活面で、少人数学級による指導の方が効果があると思われる学年について、学校長の回答は、

第1学年が80%と一番多く、ついで第2学年の順になっている。担当職員の回答は、第1学年が68%と一番多く、ついで第2学年、第3学年、第4学年の順になっている。この理由として、生活面では、特に低学年に対して基本的な生活習慣の指導が行き届くことや問題行動に早めに対応できることがあげられている。

また、学習面で少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいかという質問に対しては、学校長、担当職員ともに少人数指導の方が効果が現れると回答している。少人数指導の方が効果が現れると答えた人のうち効果が現れる学年として、学校長の回答は、第3学年、第6学年（67%）の割合が一番大きく、ついで第4学年、第5学年の順になっている。また、担当職員の回答は、第5学年（62%）の割合が一番大きく、第4学年、第6学年の順になっている。

以上のことから、学校長と担当職員は、少人数学級は、学習面、生活面ともに効果が現れると認識しているが、全ての学年で少人数学級による効果が現れるとは考えていない。学習面、生活面ともに効果が現れるのは、他の学年に比べて学習面で個別指導が必要であり、基本的な生活習慣を身に付けさせたい第1学年・第2学年と考えている。主に学習面で効果が現れるのは、個人差が現れる第3学年と考えている。また、第4学年・第5学年・第6学年では少人数学級より少人数指導の方が効果が現れると考えている。

5 少人数学級や少人数指導の成果と課題及び効果的な活用方法等について（6、7、13、14）

少人数学級の成果について、学校長や担当職員の回答は、一人一人に目が行き届き指導の効率がよいなど個に応じた指導を進めることができることをあげている。課題としては、多様な学び合いができないこと、様々な人間関係の学びが弱い等多人数の良さを生かした活動を進めることができないことをあげている。

少人数指導の成果については、指導方法の工夫改善ができることや個別指導を充実できることをあげている。課題としては、教師同士の打ち合わせ時間を確保することが難しいことや教室の確保が難しいこと等あげられている。

少人数指導に関する効果的な活用方法として、単元導入はT T、習熟を図る部分は習熟度別での指導が効果的であるという意見があった。

6 少人数学級（第1学年）の保護者の調査から（17、18、19、20）

小学校1年生の保護者の95%が、少人数学級による指導について望ましいと回答している。その理由としては、担任の先生が一人一人に目をかけてくれることや子どもが先生と話せる機会が増える等、教師とのかかわりが多くなることをあげている。このことから、小学校1年生においては、教師とふれあう時間を多くして欲しいという保護者の気持ちを伺うことができる。

少人数学級指定校（中学校）

1 少人数学級の学習指導面における効果について（1-(1)、1-(2)、1-(3)、8-(1)、8-(2)）

少人数学級の学習指導面の効果については、全ての学校長が「効果が現れやすい」と思われるに回答している。特に効果がある教科として、学校長の100%、担当職員のは80%が数学、外国語をあげている。ついで、学校長と担当職員の回答は違うが、理科、国語、社会、美術、技術・家庭等があげられている。この理由として、きめ細かな指導をすることができることや個々を生かす場面を多く設定できることをあげている学校長や担当職員が多い。しかし、指導方法の工夫・改善ができるの回答は少なく、少人数を生かした指導方法について今後研究を進めていく必要がある。

ただし、これは予想としての回答であり、今後学習指導面での効果については、学習定着度状況調査等諸テストの結果を分析して客観的に判断しなければならない。

2 少人数学級の生活指導面における効果について（2-(1)、2-(2)、9-(1)、9-(2)）

少人数学級の生活指導面の効果について、全ての学校長が効果があると回答している。また、ほとんどの担当職員も効果があると回答している。その理由は、教師側の観点からは一人一人に接する時間が増え、そのことにより早期に心の悩み等に対応できること、生徒側の観点からは責任感や所属感が高まる人数であること等である。

3 多人数集団の学習指導面における効果と少人数学級と多人数学級の教科等に関する比較について（3-(1)、3-(2)、10-(1)、10-(2)、15-(1)、15-(2)、16-(1)、16-(2)）

多人数集団の方が学習効果があると思われる教科等は、学校長、担当職員ともに教科では音楽、保健体育、教科外の活動をあげている。音楽、保健体育ともに少人数学級よりも多人数の学級の方が学習効果があると思われている。

また、生徒の調査から、音楽以外の各教科については、少ない人数で行った方がいいと思っているが、教科や道徳以外の活動では、多くの人数で行った方がいいと思っていることが分かる。特に、学校行事は多くの人数で行った方がいいと思っている生徒が多い。少ない人数で学習や活動をした理由としては、分かりやすく教えてもらえるからというものが多く、多くの人数で学習や活動をした理由としては、たくさんの友だちと学習や活動をした方が楽しいからが多い。

この結果から、教師も生徒も音楽や保健体育以外の教科については、少ない人数での学習を望んでいるが他の活動では、多くの人数で行った方がいいと思っていることが分かる。このことから、少人数の活動がどの場面においても効果があったり、好まれていたりするわけではないことが分かる。また、生徒は教科の学習においては、個々に分かりやすく教えてもらうことを望んでおり、他の活動では、たくさんの友だちと一緒に活動することが楽しいと感じていることが分かる。

4 少人数学級の効果が現れる学年と少人数指導の効果について

(4、5-(1)、5-(2)、11、11-(1)、11-(2))

学習面で、少人数学級による指導の方が効果があると思われる学年について、学校長の回答は、第1学年が77%と一番多く、ついで第2学年(38%)、第3学年(31%)の順になっている。担当職員の回答も、第1学年が69%と一番多く、ついで第3学年(47%)、第2学年(45%)の順になっている。共に第1学年で指導の効果がたと回答した割合が半数を超えたが、第2学年、第3学年では半数を下回った。理由として、第1学年で基礎をしっかりと指導することが望ましいからと回答している。

生活面で、少人数学級による指導の方が効果があると思われる学年について、学校長、担当職員の回答とも第1学年が一番多く、ついで第2学年、第3学年の順になっている。効果があると回答した割合が半数を超えたのは第1学年のみだった。理由として、生活習慣等を身に付けさせることやトラブルにすぐに対応できることがあげられている。

学習面で少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいかという質問に対して、学校長の54%、担当職員の48%が少人数指導の方が効果が現れると回答している。少人数指導の方が効果が現れると回答した人のうち効果が現れる学年として、学校長の回答は、第3学年(71%)の割合が一番大きく、ついで第1学年、第2学年の順になっている。また、担当職員の回答は、第1学年(74%)の割合が一番大きく、第3学年、第2学年の順になっている。

以上のことから、少人数学級は、学習面、生活面ともに効果が現れると思われているが、全ての学年で少人数学級による指導の効果が現れるとは考えられていないことが分かる。特に、第2学年、第3学年における少人数学級の効果についての回答が半分に満たないことから、中学校では基礎・基本等を指導できる第1学年において少人数学級による指導を行うことが望ましいと考えていることが伺える。少人数指導の効果については、第1学年、第3学年の回答が多かった。

5 少人数学級や少人数指導の成果と課題及び効果的な活用方法等について(6、7、13、14)

少人数学級の成果は、生徒一人一人が使命感や責任感をもって活動できることや学級経営、学級指導での効果があること及び学級が落ち着いていること等である。課題は、学校行事などで多人数学級の時と同じような集団としての達成感をもたせることや学習場面において切磋琢磨する場面を位置付けることをあげている。

少人数指導の成果は、きめ細かな指導や個人差に応じた指導ができること、様々な学習形態に対応させて指導できること等である。課題は、評価や評定の在り方についての検討を行うことや教師同士の打ち合わせ時間を確保することが難しいこと及び教室の確保が難しいことである。

少人数指導に関する効果的な活用方法として、1C2Tの実践は、効果的であったことや単元末の習熟度別指導は効果的であること及び会話活動(英語)に有効であったこと等があげられている。また、少人数学級で少人数指導ができれば効果は大きいのではないかという記述もあった。

すこやかサポート配置校

1 「すこやかサポート」制度の学習指導面における効果について

(1-(1)、1-(2)、4-(1)、4-(2)、8-(2)、2-(1)- 、2-(1)- 、2-(2)- 、2-(2)-)

「すこやかサポート」制度について、全ての学校長が学習指導面で効果があると回答している。また、ほとんどの担任も学習指導面で効果があると回答している。その理由として、学校長、担任ともに教師から個別に指導を受ける時間が多くなってきていることや集中して授業を受けるようになってきていることをあげている。しかし、テストの結果がよくなってきていると感じている学校長、担任はどちらも約1割にとどまっており、テストの結果が即学力向上につながるものではないがテストの結果がよくなってきているという実感をもたせることができるような指導方法について検討していくことが今後の課題と考える。

また、平成15年度1学期、平成15年度3学期、平成16年度1学期における手厚い個別指導を要する児童の数や45分間座席についていることが難しい児童の数について調査した結果、その人数は確実に減っていることが分かった。人数が減った原因について、「すこやかサポート」が直接に作用したかどうかは明らかではないが、『「すこやかサポート」制度がそれらの児童に対して効果があったと思いますか』という設問において、ほとんどの学校長が効果があったと回答している。

「すこやかサポート」制度について、ほとんどの学校長や担任が学習指導面における効果があると回答していることや、手厚い指導を要する児童や45分間座席についていることが難しい児童の数が減ったことより、学習指導面で効果があったと考える。

2 少人数学級の生活指導面における効果について

(1-(3)、1-(4)、4-(3)、4-(4)、2-(3)- 、2-(3)-)

「すこやかサポート」制度について、ほとんどの学校長や担任は生活指導面で効果があると回答している。その理由として、学校長、担任ともに落ち着いた学校生活を送るようになってきていることを一番目にあげている。友だちとのトラブルが減ってきていると感じている学校長も多い。

また、平成15年度1学期、平成15年度3学期、平成16年度1学期における登校しぶり、不登校などの傾向が見られた児童の数について調査した結果、その人数は確実に減っていることが分かった。人数が減った原因については、「すこやかサポート」が直接に作用したかどうかは明らかではないが、『「すこやかサポート」制度がそれらの児童に対して効果があったと思いますか』という設問において、85%の学校長が効果があったと回答している。

「すこやかサポート」制度について、ほとんどの学校長や担任が生活指導面に効果があると回答していることや、登校しぶり、不登校などの傾向が見られた児童の数が減ったことより、生活指導面で効果があったと考える。

3 「すこやかサポート」の配置学年、配置対象、配置基準について（1-(5)、1-(6)、1-(7)）

「すこやかサポート」の配置学年や配置対象の学級規模について、「このままでよい」が45%、「見直した方がよい」が55%となっている。見直した方がよいと思っている学校長の理由は、第2学年も25人を越える学級に配置すべきであるとか、第3学年以上も30人を越える学級に配置すべきであるとか、第1学年は20人を越える学級、第2学年は25人を越える学級に配置すべきであるなど、いずれも学年や対象の規模を拡大することを望んでいる。

また、「すこやかサポート」の配置基準について、「今年度の配置基準でよい」が48%、「配置を増やしてほしい」が49%であり、「配置を減らしてもよい」の回答はなかった。昨年度の3学期に県教育委員会で行った同じ設問の調査では、「今年度の配置基準でよい」(37%)、「配置を増やしてほしい」(72%)となっており、前回の調査と比べると今回は、配置を増やしてほしいの割合が小さくなっている。

4 「すこやかサポート」の活用場面について（5-(1)、5-(2)）

「すこやかサポート」の活用場面は、生活場面では生活習慣にかかわる個別指導が一番多く、学校行事への補助や情緒的に不安定な子どもへの対応が次に多い。学習面では、TT指導での活用が多く、ついで、習熟度別指導、単純分割型の少人数指導の順になっている。昨年度の3学期に県教育委員会が行った調査と比較すると設問が違うので単純には比較できないものの習熟度別指導や少人数指導では取り組んでいる学校の割合がやや減少している。

また、「すこやかサポート」を活用した学習活動で効果的だと思う学習形態は、一斉指導を基本とした指導が一番で、ついで、TT指導、習熟度別指導の順になっている。現状では、「すこやかサポート」に入る講師の活用としては、同じ教室で行う指導の方が効果が現れると考えている担任が多いことが伺われる。「すこやかサポート」制度の課題に講師の資質向上を図るための研修の必要性について記述した学校長がいたが、講師の資質向上がなされれば、活用の幅も広がるのではないかと考える。

5 「すこやかサポート」制度の成果と課題について（3、6、7）

「すこやかサポート」制度の成果として、「個に応じた細やかな指導が可能になったこと」、「児童の理解が深まったこと」、「様々なトラブルに対応することができるようになったこと」等があげられている。

課題としては、「すこやかサポート」の講師と担任の打ち合わせ時間の確保や配置基準の規模の拡大、「すこやかサポート」の講師の資質向上等があげられている。

すこやかサポート（複式）配置校

1 複式学級における「すこやかサポート」制度の効果について

（1-(1)、1-(2)、1-(3)、1-(4)、4-(1)、4-(2)、4-(3)、4-(4)）

「すこやかサポート」制度は、ほとんどの学校長、担当職員が学習指導面、生活指導面ともに児童に効果があると回答している。学習面指導面では、個別指導の場面が多くなり、授業にも集中できるようになったと結果に示されている。またそのことと関連して、学校生活全体としても落ち着いた生活を送ることができるようになったと判断している。

このことから、複式学級における「すこやかサポート」制度は、学習指導面、生活指導面ともに効果があったと考えられる。

2 複式学級における「すこやかサポート」配置対象の学級規模（1-(5)、1-(6)）

学校長の回答結果を見ると7割以上がその配置対象の学級規模の基準の見直しを望んでいる。つまり、現状は、1学級16人の学級に配置しているが、14～15人の学級への配置を求める意見や10人超の学級への配置という意見もある。

また、第2学年、第3学年の組み合わせや第4学年、第5学年という組み合わせの変則複式学級は、教育課程上異教科の組み合わせで指導しなければならないので、担当者は苦勞している現状が見られる。そこで、教科によって単式で指導できるような体制を望む声が多く、「すこやかサポート」の配置を求めている。

さらに、特別に支援が必要な児童がいる場合は、たとえ少人数でも複数の指導者が求められている。

3 複式学級におけるすこやかサポートの活用状況（2-(2)、6）

教科に応じて単式指導している場合が多い。その場合、教室や学習スペースに余裕がある場合は、それぞれの学年が別々の場所で学習できる環境を設定した方が効果的という回答であった。

また、TT指導や習熟度別指導も部分的に実践されているが、「複数の目で見て指導できること」「きめ細かな指導ができること」は、どの指導形態でも生かされている。

4 複式学級におけるすこやかサポートによる指導の成果と課題（3、5）

成果は、単式化や個別指導の導入によって基礎基本の定着に役立っていること、教師とのふれあい場面の増加などから心の安定や落ち着いた生活を送れるようになってきていることである。

課題は、担任との打ち合わせや教材研究の時間の確保が難しいことである。「すこやかサポート」の1日の勤務時間が6時間程度であることと出勤する日数が限られていることが原因と思われる。また、校内外の研究・研修会への参加により指導力や資質向上を求める声も多い。

分 析

少人数学級指定校（小学校） 10校

【学校長用】

番 号	質 問 項 目
1 - (1)	少人数学級の学習指導面における効果
1 - (2)	少人数学級の方が学習効果があると思われる教科等
1 - (3)	1 - (2) を選んだ理由
2 - (1)	少人数学級の生活指導面における効果
2 - (2)	2 - (1) で肯定的な回答をした人の理由
3 - (1)	多人数集団の方が学習効果があると思われる教科等
3 - (2)	3 - (1) を選んだ理由
4	少人数学級の方が学習面で効果が現れる学年
	少人数学級の方が生活面で効果が現れる学年
5 - (1)	学習面で少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思うか
5 - (2)	5 - (1) で肯定的な回答をした人で少人数指導の効果が現れやすいと思う学年
6	少人数学級や少人数指導の成果と課題
7	少人数学級や少人数指導に関する効果的な活用方法等

【担当職員用】

8 - (1)	少人数学級の方が学習効果があると思われる教科等
8 - (2)	8 - (1) を選んだ理由
9 - (1)	少人数学級の生活指導面における効果
9 - (2)	9 - (1) で肯定的な回答をした人の理由
10 - (1)	多人数集団の方が学習効果があると思われる教科等
10 - (2)	10 - (1) を選んだ理由
11	少人数学級の方が学習面で効果が現れる学年
	少人数学級の方が生活面で効果が現れる学年
12 - (1)	学習面で少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思うか
12 - (2)	12 - (1) で肯定的な回答をした人で少人数指導の効果が現れやすいと思う学年
13	少人数学級や少人数指導の成果と課題
14	少人数学級や少人数指導に関する効果的な活用方法等

【児童用】

15 - (1)	少ない人数で行った方がいいと思う学習や活動
15 - (2)	少ない人数で学習や活動をしたい理由
16 - (1)	多くの人数で行った方がいいと思う学習や活動
16 - (2)	多くの人数で学習や活動をしたい理由

【1年生の保護者用】

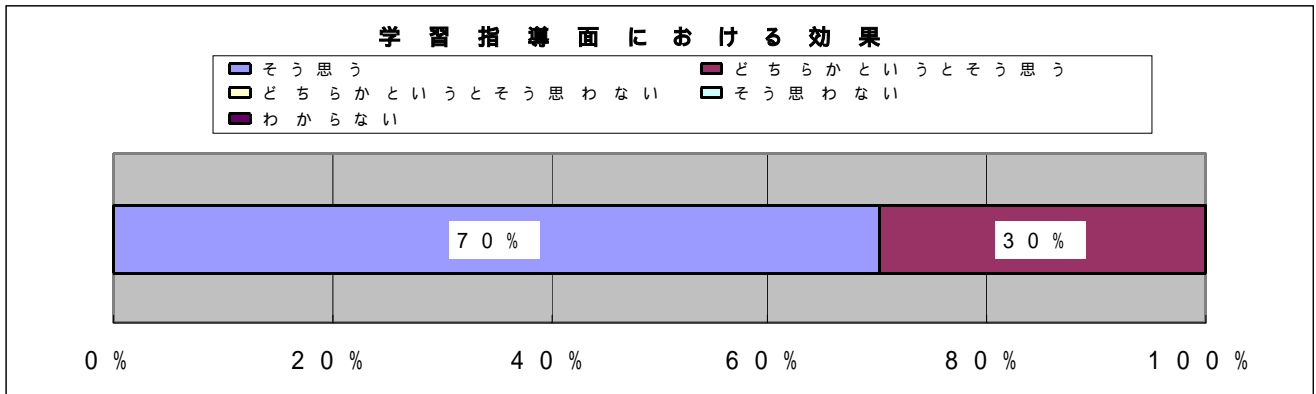
17	少人数学級による指導を行っていることを知っているか
18	小学校1年生で少人数の学級を編成して指導することの意識
19	18で肯定的な回答をした人の理由
20	18で否定的な回答をした人の理由

【学校長用】 10人 (Nは調査対象人数とする)

1 - (1) 少人数学級の学習指導面における効果

少人数学級での指導は、通常の人数の学級における指導と比べて、学習面において指導の効果が現れやすいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 10)

ア	そう思う	7 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	3
ウ	どちらかといえばそう思わない	0
エ	そう思わない	0
オ	分からない	0

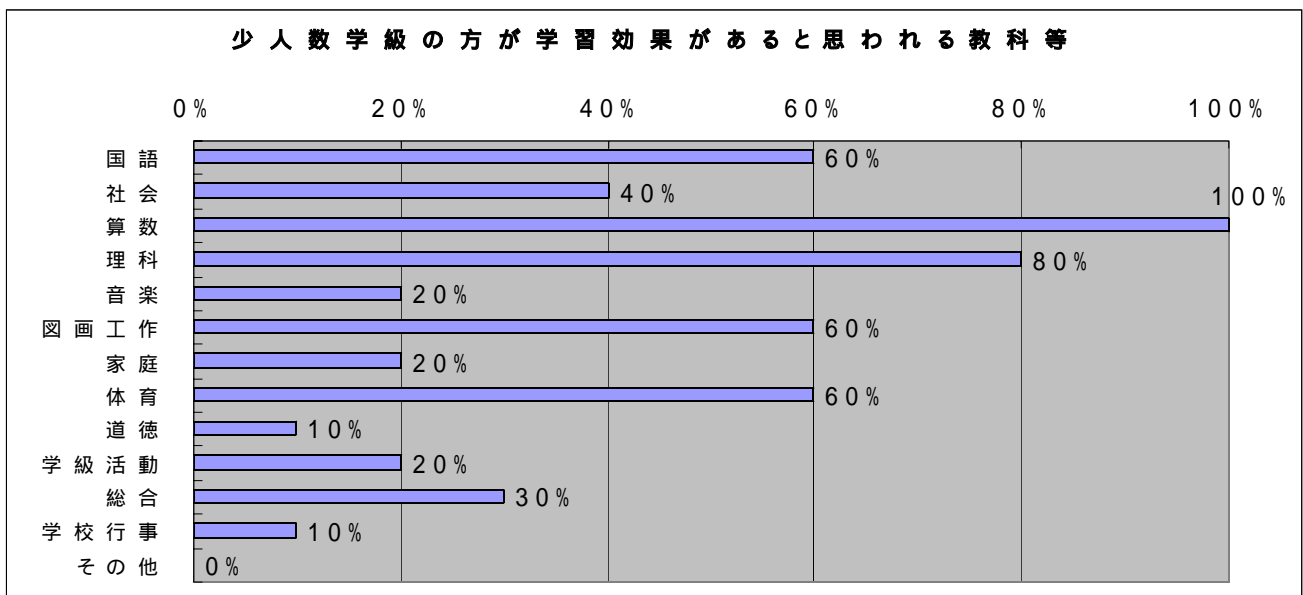


全ての学校長が、少人数学級による指導が、学習面での効果が現れやすいと思っている。

1 - (2) 少人数学級の方が学習効果があると思われる教科等

少人数学級の方が、通常の人数の学級における指導と比べて、学習効果があると思われる教科等の学習活動に印を付けてください。(複数回答可)(N = 10)

ア	国語	6人	イ	社会	4人	ウ	算数	10人	エ	理科	8人
オ	音楽	2人	カ	図画工作	6人	キ	家庭	2人	ク	体育	6人
ケ	道徳	1人	コ	学級活動	2人	サ	総合的な学習の時間	3人			
シ	学校行事	1人	ス	その他	0人						

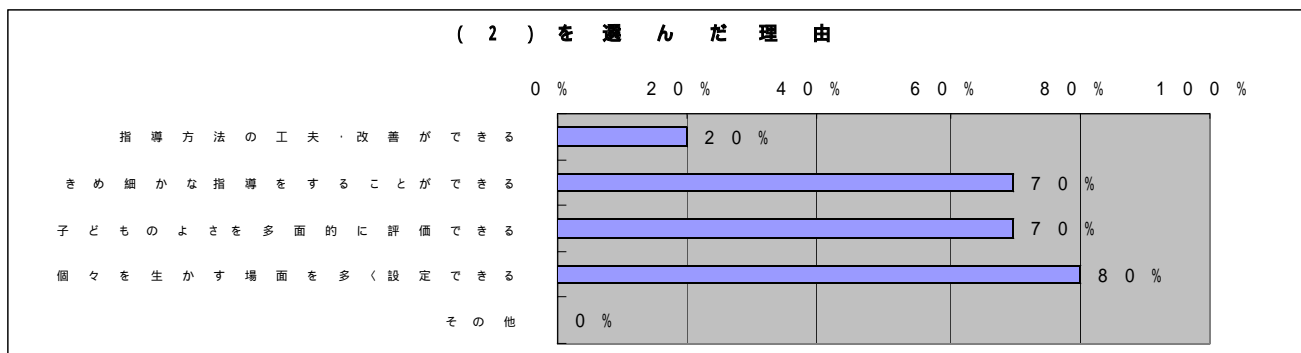


少人数学級の方が、学習効果があると思われる教科は、「算数」(100%)が一番多く、次に「理科」(80%)、続いて「国語」「図画工作」「体育」(それぞれ60%)である。道徳や学校行事等では、割合が小さい。

1 - (3) 1 - (2) で選んだ理由

上記(2)を選んだ理由に 印を付けてください。(複数回答可)(N=10)

ア 指導方法の工夫・改善ができる	2 (人)
イ きめ細かな指導をすることができる	7
ウ 子どものよさを多面的に評価できる	7
エ 個々を生かす場面を多く設定できる	8
オ その他	0

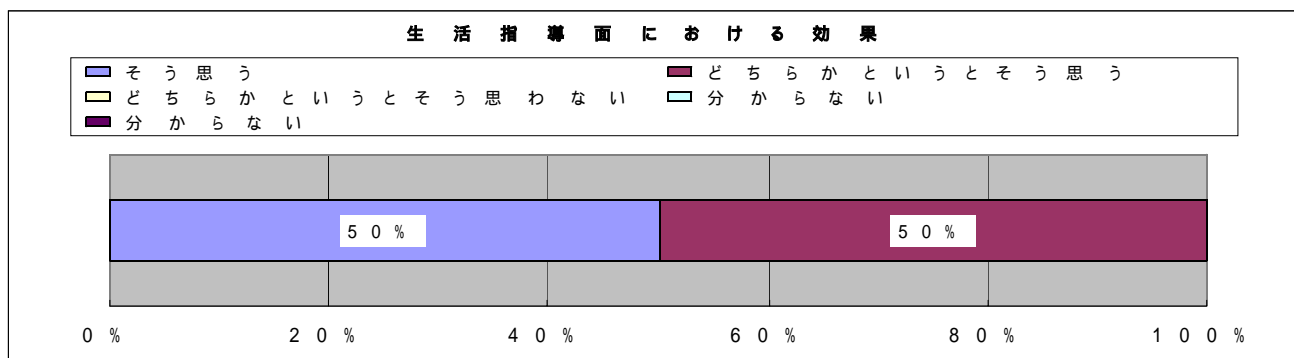


少人数学級の学習面での効果として、「個々を生かす場面を多く設定できる」(80%)が一番で、次に「きめ細かな指導をすることができる」と「子どものよさを多面的に評価できる」(それぞれ70%)となっている。指導方法の工夫・改善の効果は、20%である。

2 - (1) 少人数学級の生活指導面における効果

少人数学級での指導は、通常の人数の学級における指導と比べて、生活指導上、指導の効果が現れやすいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、 印を付けてください。(N=10)

ア そう思う	5 (人)
イ どちらかといえばそう思う	5
ウ どちらかといえばそう思わない	0
エ そう思わない	0
オ 分からない	0



全ての学校長が、少人数学級による指導は生活指導面での効果が現れやすいと思っている。

2 - (2) 2 - (1) で肯定的な回答をした人の理由

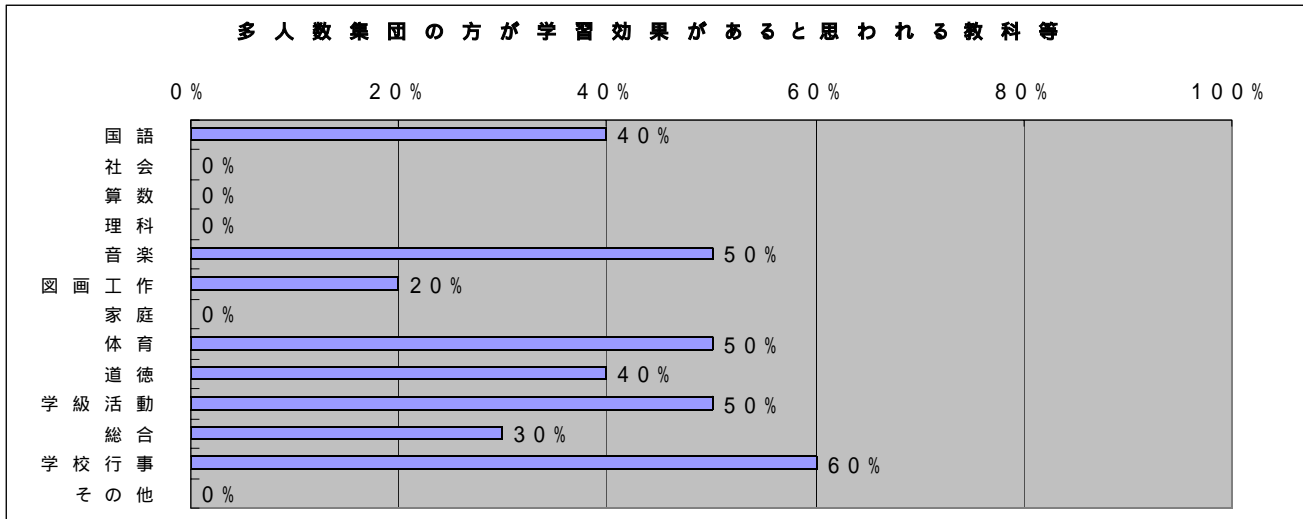
上記(1)について、アまたはイと回答した方のみお答え願います。どのようなことからそう思いましたか。例にならい、下の欄にご記入願います。

- ・個別に対応しやすい。
- ・問題行動に早く対応できる。
- ・人間関係(児童・保護者)を保つのに適切な人数である。
- ・実態把握がしやすい。

3 - (1) 多人数集団の方が学習効果があると思われる教科等

多人数集団（35人～40人程度）の方が学習効果があると思われる教科等の学習活動に 印を付けてください。（複数回答可）（N = 10）

ア 国語	4人	イ 社会	0人	ウ 算数	0人	エ 理科	0人
オ 音楽	5人	カ 図画工作	2人	キ 家庭	0人	ク 体育	5人
ケ 道徳	4人	コ 学級活動	5人	サ 総合的な学習の時間	3人		
シ 学校行事	6人	ス その他	0人				

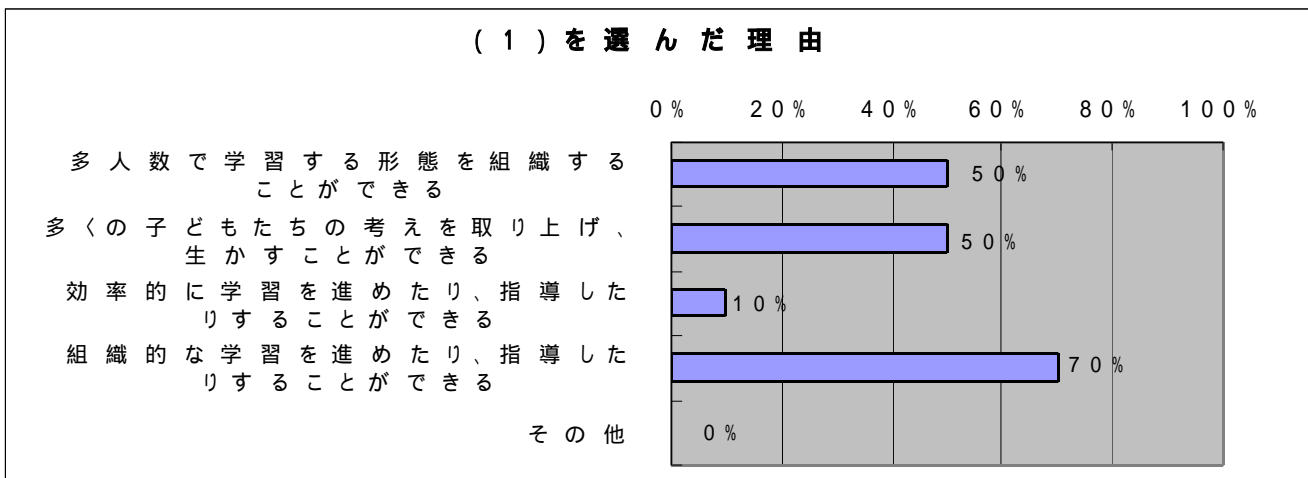


多人数集団の方が学習効果があると思われる教科は、「音楽」「体育」（50%）「国語」（40%）となっている。特に、「音楽」は少人数学級よりも効果があると思われる。教科よりも「学級活動」や「学校行事」での割合が大きい。

3 - (2) 3 - (1) を選んだ理由

上記(1)を選んだ理由に 印を付けてください。（複数回答可）（N = 10）

ア 多人数で学習する形態を組織することができる	5（人）
イ 多くの子どもたちの考えを取り上げ、生かすことができる	5
ウ 効率的に学習を進めたり、指導したりすることができる	1
エ 組織的な学習を進めたり、指導したりすることができる	7
オ その他	0



多人数集団の学習面での効果として、「組織的な学習を進めたり指導したりすることができる」（70%）が一番で、次に「多人数で学習する形態を組織することができる」「多くの子どもたちの考えを取り上げ、生かすことができる」（それぞれ50%）となっている。

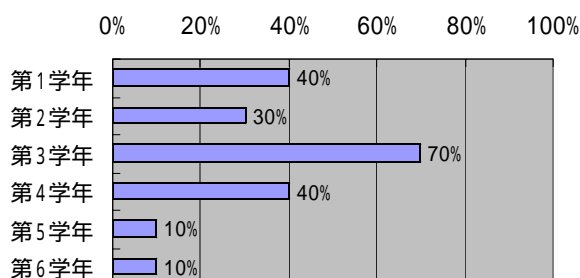
4 少人数学級の方が学習面及び生活面で効果が現れる学年とその理由

少人数学級で指導を行った場合、学習指導や生活指導の効果が現れるのは、何年生だと思いますか。また、その学年を選んだ理由について、下の欄にご記入願います。（複数学年回答可）

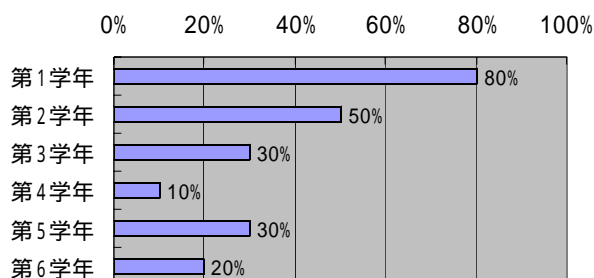
(N = 10)

学年	学習指導	生活指導
1	4 (人)	8 (人)
2	3	5
3	7	3
4	4	1
5	1	3
6	1	2

少人数学級で学習面で効果が現れる学年



少人数学級で生活面で効果が現れる学年



少人数学級で学習面で効果が現れる学年は、「第3学年」、「第1学年」、「第4学年」の順になっている。少人数学級で生活面で効果が現れる学年は、「第1学年」、「第2学年」、「第3学年」、「第5学年」の順になっている。学習面と生活面の両面を考えると第1学年から第3学年までが少人数学級の効果が現れると思われる。

理由

〔学習指導〕

- ・個人差が現れ始める段階（3年）なので、基礎を徹底指導したい。
- ・より個々の課題に応じた指導が必要である。
- ・個別指導を多く必要とする（1年）には効果がある。
- ・学習訓練の指導が行いやすい。
- ・一人一人の児童の特性に対応し、基礎基本の定着を図ることができる。
- ・学習のつまずきが最初に多く見られる学年（3年）である。
- ・発達段階や能力を考慮した指導ができる。（3、4年）
- ・学ぶ意欲を確かなものにするため。（3、4年）

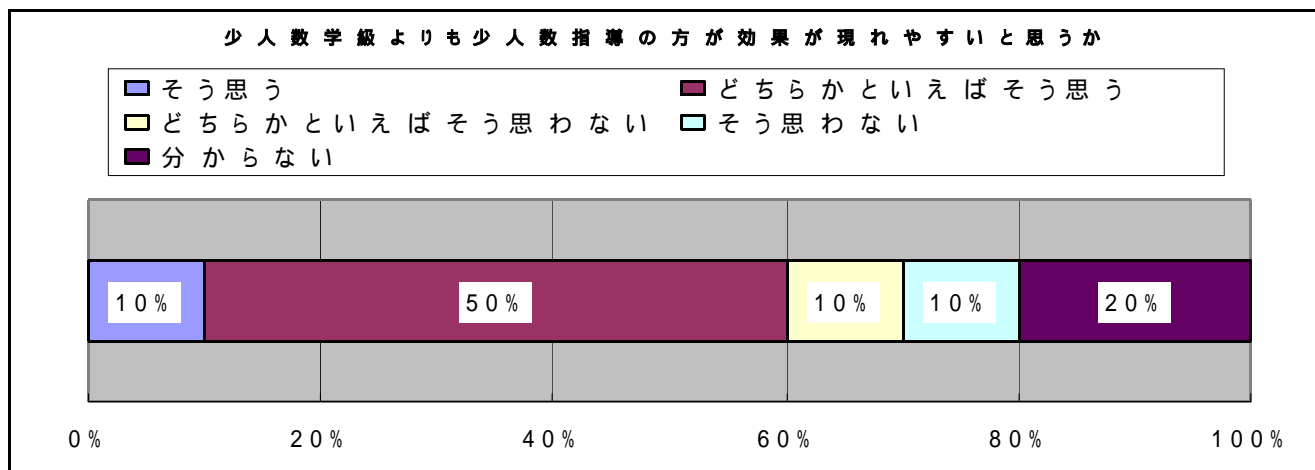
〔生活指導〕

- ・友人関係や家庭生活状況にも配慮したい。
- ・生活上の認識や判断が必要となり始める時期（3年）である。
- ・基本的な生活習慣の指導が行き届く。（低学年）
- ・一人一人のきめ細かな指導と集団的規律指導の両面の効果が期待できる。
- ・小学校生活への適応にとまどいを覚えている児童が多い中（1年）で効果的である。
- ・集団を意識しながらの規範意識。（1、2年）
- ・一人一人の個性を考え、認め合う集団づくり。（5、6年）

5 - (1) 学習面で少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思うか

学習指導について、少人数学級より教科の特性によって学習形態を変えることのできる少人数指導の方が、指導の効果が現れやすいと思いますか。(N = 10)

ア	そう思う	1 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	5
ウ	どちらかといえばそう思わない	1
エ	そう思わない	1
オ	分からない	2

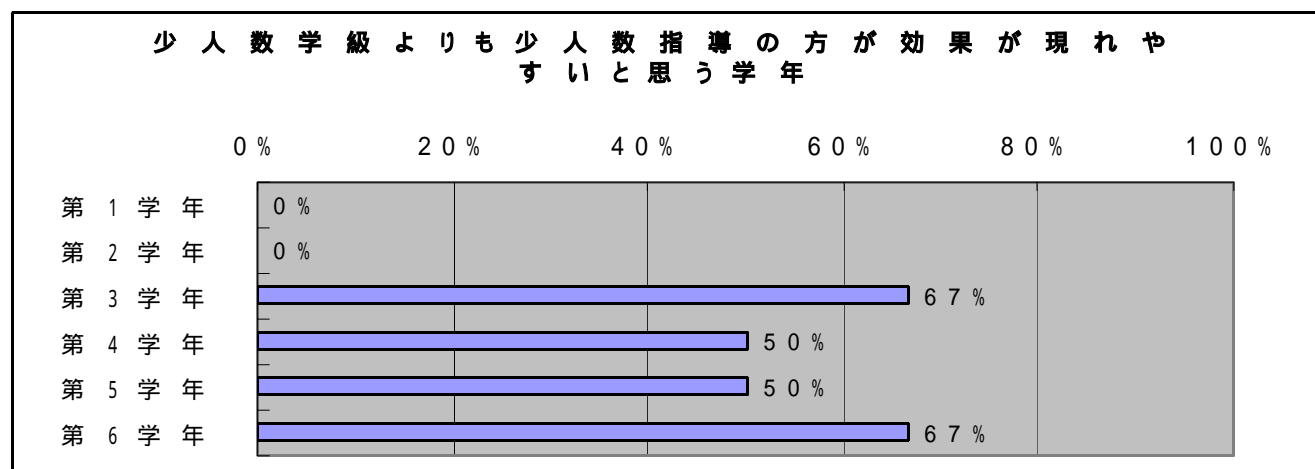


学習指導について、6割の学校長が少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れると思っている。

5 - (2) 5 - (1)で肯定的な回答をした人で少人数指導の効果が現れやすいと思う学年

上記(1)でアまたはイと回答した方のみお答え願います。指導の効果が現れやすいと思う学年に印を付けてください。(複数回答可)(N = 6)

ア	第1学年	0 (人)
イ	第2学年	0
ウ	第3学年	4
エ	第4学年	3
オ	第5学年	3
カ	第6学年	4



上記(1)で、少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思った学校長のうち、少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思う学年の一番は、「第3学年」「第6学年」である。ついで、「第4学年」「第5学年」の順になっている。低学年を選んだ学校長はいなかった。

6 少人数学級や少人数指導の成果と課題

学校経営上、少人数学級や少人数指導の成果と課題についてご記入願います。

〔少人数学級〕

成果

- ・一人一人に目が行き届き、指導の効率がよい。
- ・指導と評価、どの教科でも少人数学級のよさを生かせる。
- ・個性を生かした指導を進めることができる。

課題

- ・人間関係を固定化しない指導の工夫が必要である。
- ・行事や係活動での負担が増える。
- ・集団的、組織的学習活動が制約される。
- ・多様な学び合い、多様な人間関係の学びが弱い。

〔少人数指導〕

成果

- ・多様な指導形態により、効果が期待される。
- ・単元によって指導方法の工夫改善ができる。
- ・個別指導が充実し、学力向上が図られている。

課題

- ・教諭間の力量差、年齢差を当人同士だけでなく全体的な見地から調整・連携が必要となる。
- ・打ち合わせや教材準備に十分な時間をとれない。
- ・習熟度別学習を実施できるように工夫改善する。

7 少人数学級や少人数指導に関する効果的な活用方法等

少人数指導や少人数学級に関する効果的な活用方法等についてご意見がありましたらご記入願います。

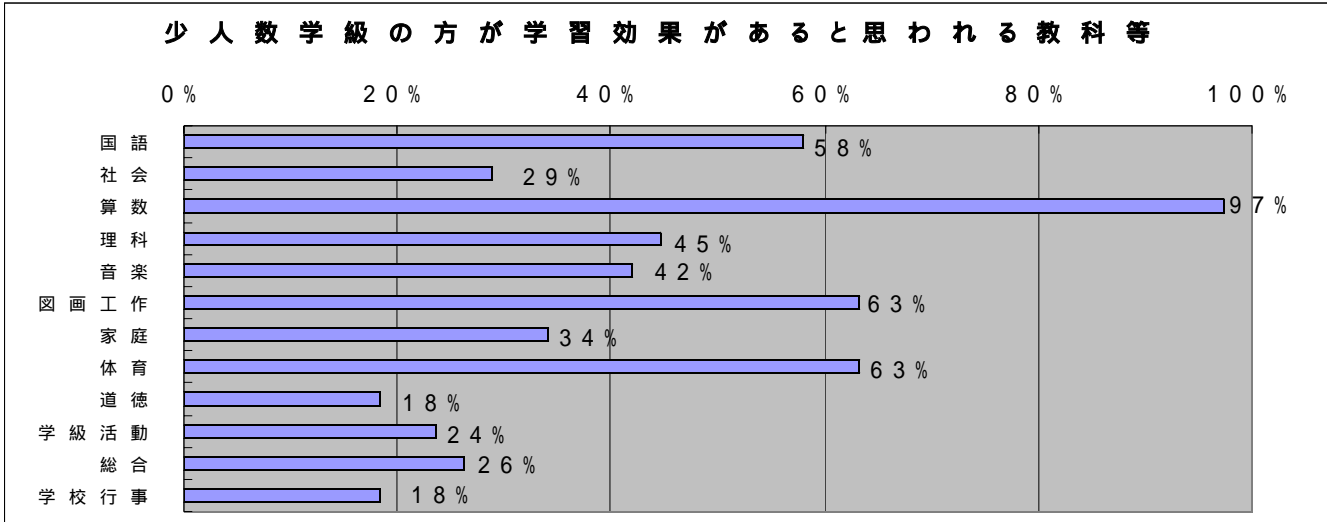
- ・少人数指導において、単元導入はT T、習熟を図る部分は習熟度別での指導が効果的である。
- ・1年は少人数学級、2年はT T指導などの少人数指導で効果を上げている。
- ・全学年で実施できるように人的、物的環境を整えるとより効果が上がる。
- ・低学年になるほど学級の成員は少ない方がよい。
- ・教師同士の細かな打ち合わせの場の確保に工夫が必要である。
- ・具体的な評価規準を整備することが大切である。

【担当職員用】 38人

8 - (1) 少人数学級の方が学習効果があると思われる教科等

少人数学級の方が、通常の数人の学級における指導と比べて、学習効果があると思われる教科等の学習活動に 印を付けてください。(複数回答可)(N = 38)

ア 国語	22人	イ 社会	11人	ウ 算数	37人	エ 理科	17人
オ 音楽	16人	カ 図画工作	24人	キ 家庭	13人	ク 体育	24人
ケ 道徳	7人	コ 学級活動	9人	サ 総合的な学習の時間	10人		
シ 学校行事	7人	ス その他	0人				

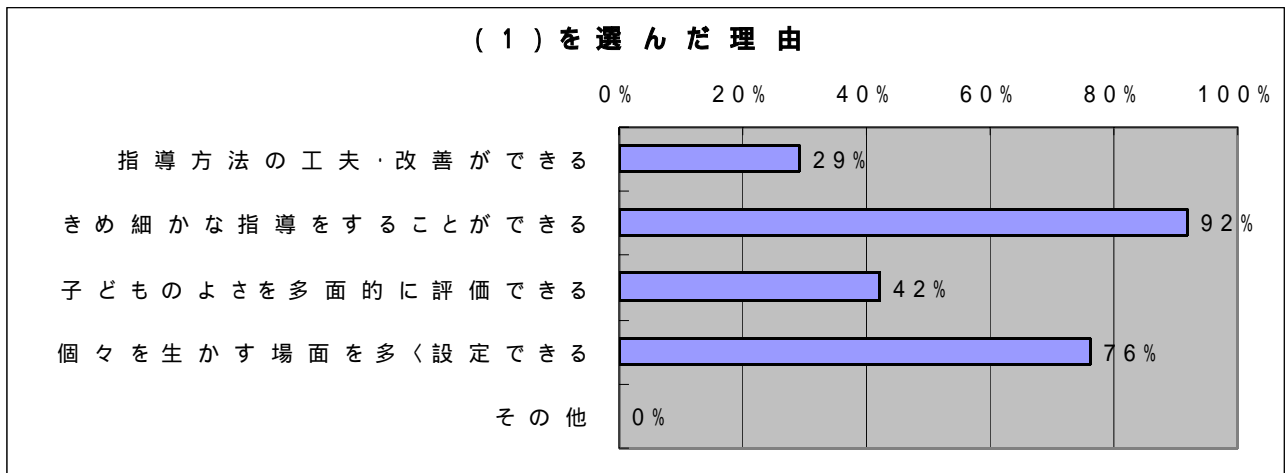


少人数学級の方が学習効果があると思われる教科は、「算数」(97%)が一番多く、次に「図画工作」「体育」(それぞれ63%)である。「道徳」や「特別活動」における割合は小さい。

8 - (2) 8 - (1) で選んだ理由

上記(2)を選んだ理由に 印を付けてください。(複数回答可)(N = 38)

ア 指導方法の工夫・改善ができる	11(人)
イ きめ細かな指導をすることができる	35
ウ 子どものよさを多面的に評価できる	16
エ 個々を生かす場面を多く設定できる	29
オ その他	0

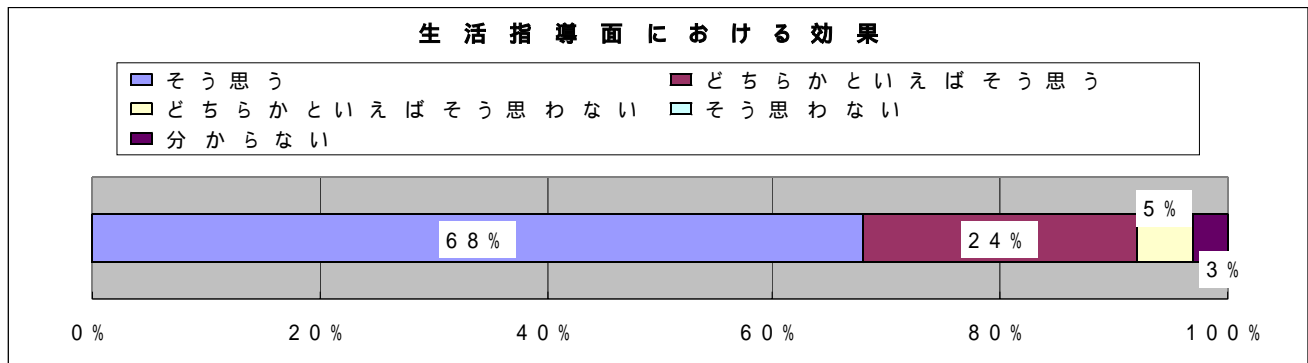


少人数学級の学習面での効果として、「きめ細かな指導をすることができる」(92%)が一番割合が大きく、次に「個々を生かす場面を多く設定できる」(76%)となっている。

9 - (1) 少人数学級の生活指導面における効果

少人数学級での指導は、通常の人数の学級における指導と比べて、生活指導上、指導の効果が現れやすいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 38)

ア そう思う	26 (人)
イ どちらかといえばそう思う	9
ウ どちらかといえばそう思わない	2
エ そう思わない	0
オ 分からない	1



92%の担当職員が、少人数学級による指導が生活指導面で効果があると思っている。どちらかといえば効果がないと思っている担当職員が5%いる。

9 - (2) 9 - (1) で肯定的な回答をした人の理由

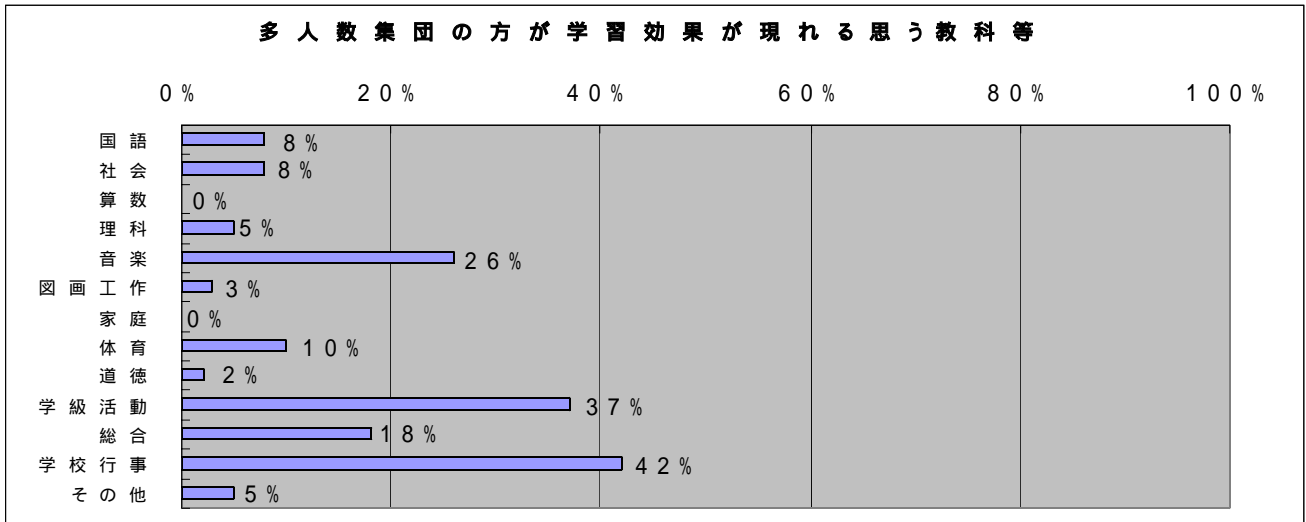
上記(1)について、アまたはイと回答した方のみお答え願います。どのようなことからそう思いましたか。例にならい、下の欄にご記入願います。

- ・個に応じた児童理解とその指導がしっかりできる。
- ・一人一人に目が届きやすくなり、ふれあう時間が多くなる。
- ・児童の変化に早期に気づき、把握することができる。
- ・児童がお互いに認め合う機会が多くなる。
- ・問題行動に対し早めに対応することができる。
- ・家庭との連携が取りやすい。
- ・子供たちの表情まで目を配ることができるので、児童理解がよりしっかりできる。
- ・一人一人の存在を認め合う機会が多い。
- ・低学年ではそのとおりであるが、高学年になるほど必ずしもそういえないこともある。
- ・日記等へのコメントもじっくりより丁寧に対応することができる。

10 - (1) 多人数集団の方が学習効果があると思われる教科等

多人数集団（35人～40人程度）の方が学習効果があると思われる教科等の学習活動に 印を付けてください。（複数回答可）（N = 38）

ア 国語 3人 イ 社会 3人 ウ 算数 0人 エ 理科 2人
 オ 音楽 10人 カ 図画工作 1人 キ 家庭 0人 ク 体育 4人
 ケ 道徳 8人 コ 学級活動 14人 サ 総合的な学習の時間 7人
 シ 学校行事 16人 ス その他 2人

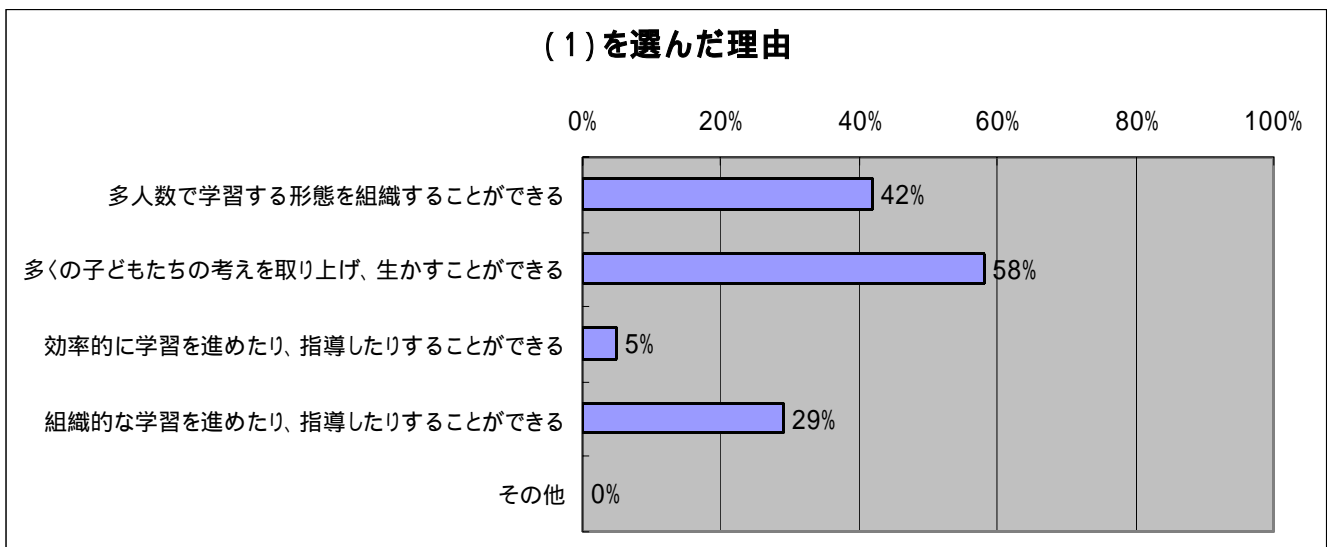


多人数集団の方が効果があると思われる教科は、「音楽」（26%）「体育」（10%）「国語」「社会」（8%）の順になっている。教科よりも「学級活動」や「学校行事」でその割合が高くなっている。

10 - (2) 10 - (1) を選んだ理由

上記(1)を選んだ理由に 印を付けてください。（複数回答可）（N = 38）

ア 多人数で学習する形態を組織することができる 16（人）
 イ 多くの子どもたちの考えを取り上げ、生かすことができる 22
 ウ 効率的に学習を進めたり、指導したりすることができる 2
 エ 組織的な学習を進めたり、指導したりすることができる 11
 オ その他 0



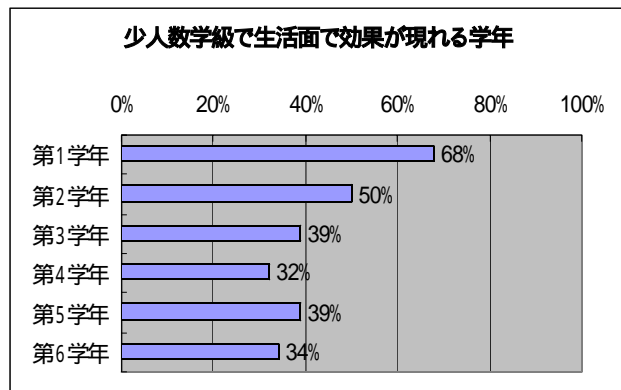
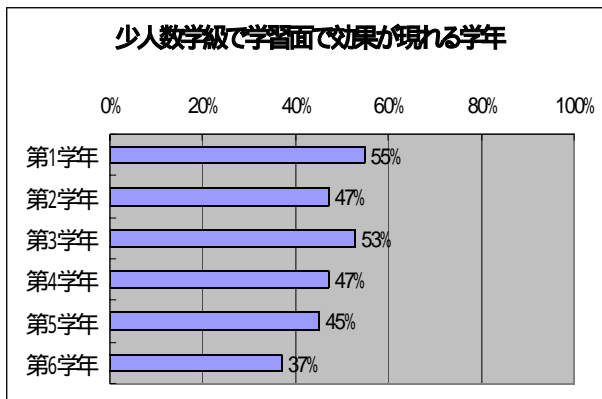
多人数集団の学習面の効果として、「多くの子どもたちの考えを取り上げ、生かすことができる」（58%）が一番で、次に「多人数で学習する形態を組織することができる」（42%）となっている。

11 少人数学級の方が学習面及び生活面で効果が現れる学年とその理由

少人数学級で指導を行った場合、学習指導や生活指導の効果が現れるのは、何年生だと思いますか。また、その学年を選んだ理由について、下の欄にご記入願います。（複数学年回答可）

N = 38

学年	学習指導	生活指導
1	21 (人)	26 (人)
2	18	19
3	20	15
4	18	12
5	17	15
6	14	13



少人数学級で指導を行った場合、学習面で効果が現れるのは「第1学年」「第3学年」「第2学年」「第4学年」の順となっているが、それほど大きな差はない。少人数学級で指導を行った場合、生活面で効果が現れる学年は、「第1学年」「第2学年」「第3学年」「第5学年」の順になっている。学習面と生活面の両面を考えると低学年が少人数学級の効果が現れていると思われる。

理由

〔学習指導〕

- ・個別指導の時間が増える。
- ・学習習慣の指導徹底。
- ・個人差に対応しなければならない時期（3年）である。
- ・基礎基本の定着を図ることができる。（1、2年）
- ・学力差が明確になり、多い人数での一斉指導では指導が難しい。
- ・集中して取り組むことができる。
- ・学校生活のリズムを身につけさせるためには、少人数がよい。
- ・算数の学習が難しく、個別指導を要する場面が多い。（4、5年）

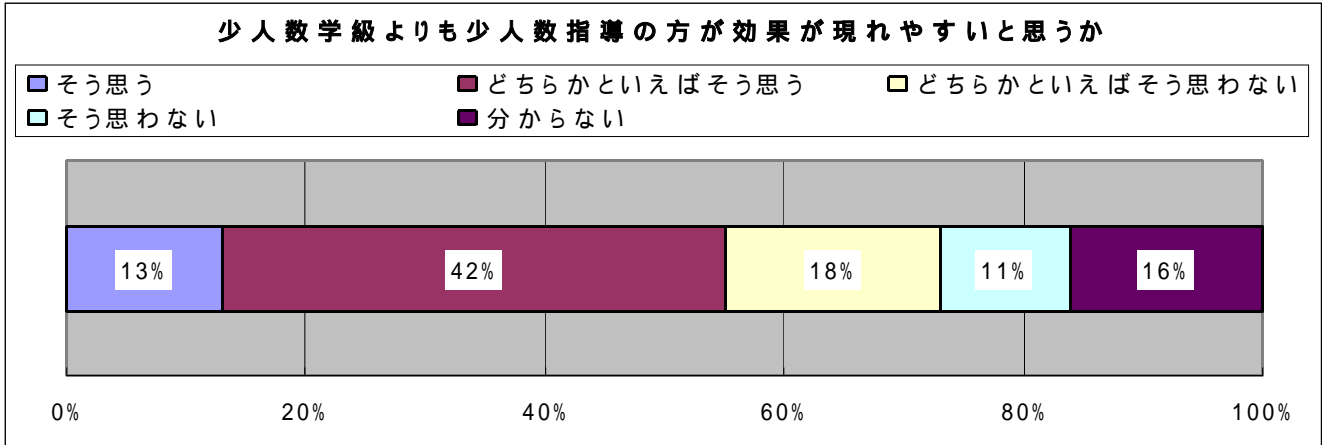
〔生活指導〕

- ・基本的な生活習慣をしっかり身につけさせたい。
- ・児童の言動に目が行き届く。
- ・問題行動にも早めに対応できる。
- ・児童の個性に合わせてきめ細かく指導できる。
- ・きまりや規則を身につけやすくさせられる。
- ・まだ学校生活の規律になじみきれない児童に対して、細やかな指導ができる。（1、2年）

12 - (1) 学習面で少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思うか

学習指導について、少人数学級より教科の特性によって学習形態を変えることのできる少人数指導の方が、指導の効果が現れやすいと思いますか。(N = 3 8)

ア	そう思う	5 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	16
ウ	どちらかといえばそう思わない	7
エ	そう思わない	4
オ	分からない	6

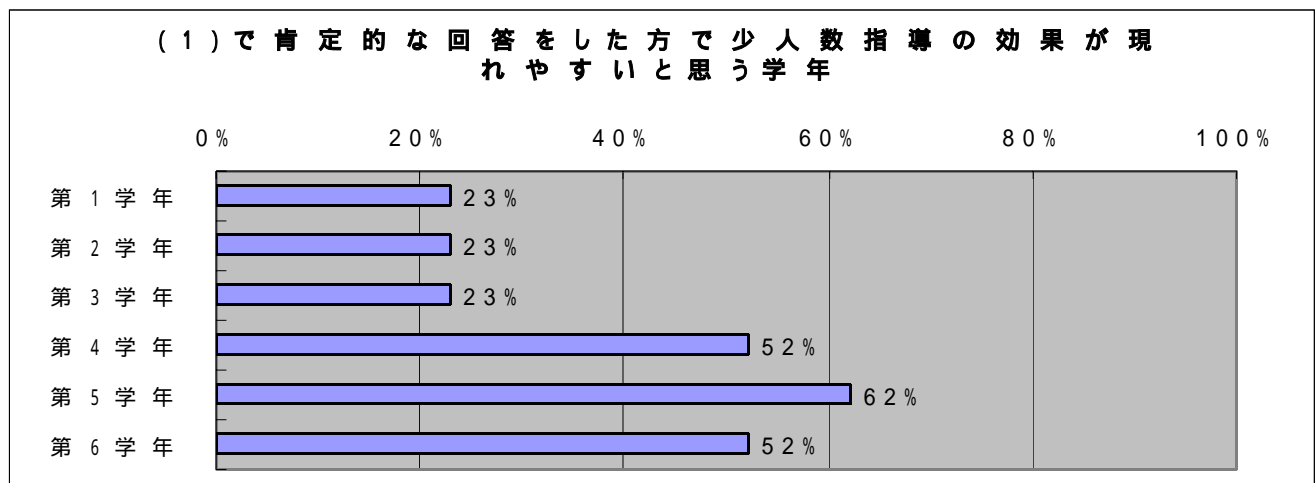


学習指導について、5割強の担当教師が少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思っている。

12 - (2) 12 - (1) で肯定的な回答をした人で少人数指導の効果が現れやすいと思う学年

上記(1)でアまたはイと回答した方のみお答え願います。指導の効果が現れやすいと思う学年に印を付けてください。(複数回答可)(N = 2 1)

ア	第1学年	5 (人)
イ	第2学年	5
ウ	第3学年	5
エ	第4学年	11
オ	第5学年	13
カ	第6学年	11



上記(1)で、少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思った担当教師は、「第5学年」「第6学年」「第4学年」の順になっている。

13 少人数学級や少人数指導の成果と課題

学校経営上、少人数学級や少人数指導の成果と課題についてご記入願います。

〔少人数学級〕

成果

- ・ 机間指導等個に応じた丁寧な指導ができる。
- ・ 児童の様子を把握しやすい。
- ・ 児童の悩みを把握し、個別の相談に対応しやすい。

課題

- ・ 習熟度別指導の体制が取りにくい。
- ・ 学習や生活において、小集団の多様性が図りにくい。
- ・ 人間関係が固定化したり、こじれたりしたときの対応が困難である。
- ・ 指導方法や内容により、多くの意見を取り上げたい場面がある。
- ・ 低学年では30人程度でもまだまだ大変である。20人位を望む。

〔少人数指導〕

成果

- ・ 児童の実態によって、個別的・弾力的な指導ができる。
- ・ 複数の教師による指導により、児童の多様な願いに対応しやすい。
- ・ 目的に応じてグループ編成ができる。

課題

- ・ 分割小集団にした場合の教室の確保が難しい。
- ・ 打ち合わせの時間が必要である。
- ・ 指導展開の工夫が必要である。
- ・ 生活指導面での対応が難しい。
- ・ グループ編成の方法（特に習熟度別）

14 少人数学級や少人数指導に関する効果的な活用方法等

少人数指導や少人数学級に関する効果的な活用方法等についてご意見がありましたらご記入願います。

- ・ 低学年において少人数学級の必要性をより感じる。
- ・ 内容、目的、方法によって少人数が効果的な場面と多人数が効果的な面がある。
- ・ 25名くらいの学習集団がちょうどよい人数だと思う。
- ・ 少人数学級で、教科に応じて少人数指導を行うことが一番効果的であると思う。
- ・ 算数は、習熟度別の少人数指導が効果的だと思う。

【児童用】785人

17 - (1) 少ない人数で行った方がいいと思う学習や活動

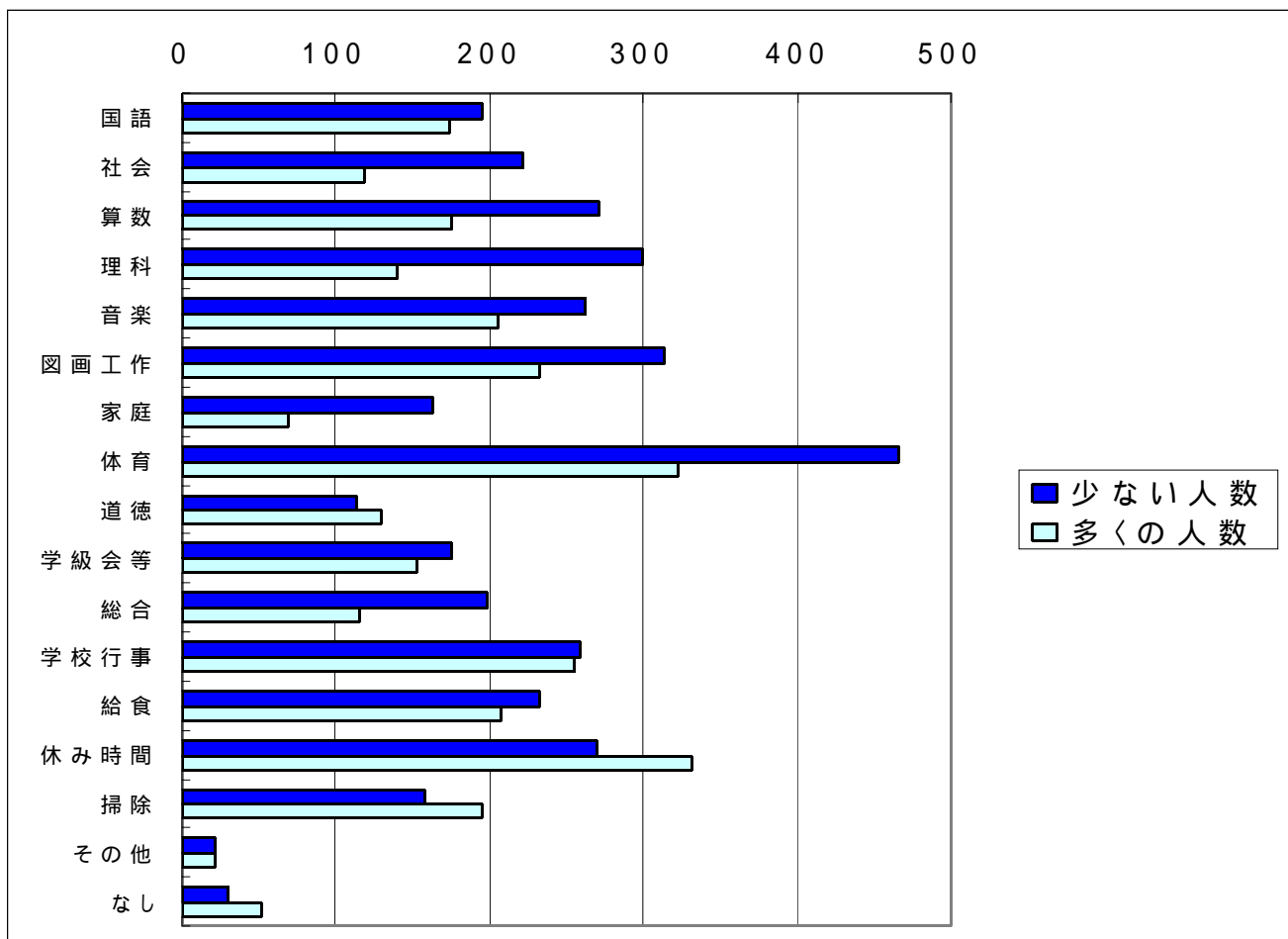
学校生活の中で少ない人数(25人~30人程度)で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思う学習やその他の活動に 印を付けてください。(印はいくつ付けてもかまいません)(N=785)

ア 国語	195人	イ 社会	222人	ウ 算数	272人	エ 理科	299人
オ 音楽	263人	カ 図画工作	314人	キ 家庭	163人	ク 体育	466人
ケ 道徳	114人	コ 学級会や学級での活動	175人				
サ 総合的な学習の時間	198人	シ 学校行事(運動会など)	259人				
ス 給食(準備も含めて)	233人	セ 休み時間	270				
ソ そうじ	158人	タ その他	22人	チ なし	31人		

18 - (1) 多く的人数で行った方がいいと思う学習や活動

昨年的人数で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思うものに 印を付けてください。(印はいくつ付けてもかまいません)(N=785)

ア 国語	173人	イ 社会	118人	ウ 算数	176人	エ 理科	140人
オ 音楽	206人	カ 図画工作	233人	キ 家庭	70人	ク 体育	323人
ケ 道徳	129人	コ 学級会や学級での活動	153人				
サ 総合的な学習の時間	116人	シ 学校行事(運動会など)	256人				
ス 給食(準備も含めて)	208人	セ 休み時間	331人				
ソ そうじ	195人	タ その他	22人	チ なし	51人		



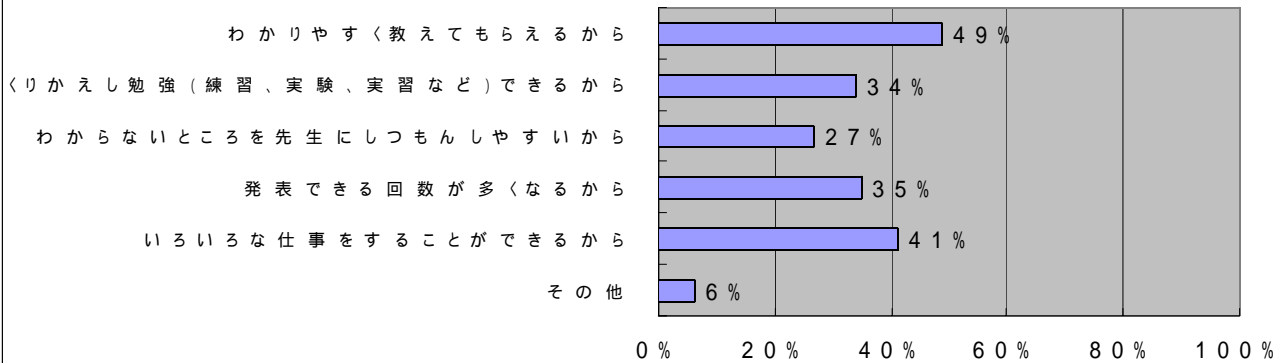
児童の多くは全ての教科で、多く的人数よりも少ない人数で学習を行った方がいいと思っている。「道徳」や「休み時間」や「掃除」などは多く的人数で行った方がいいと思っている。「学級会等」や「学校行事」などの特別活動においては大きな差はない。

15 - (2) 少ない人数で学習や活動をしたい理由

少ない人数（25人～30人程度）で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思う理由に 印を付けてください。（ 印はいくつ付けてもかまいません ）(N = 785)

ア	わかりやすく教えてもらえるから	385 (人)
イ	くりかえし勉強（練習、実験など）することができるから	264
ウ	わからないところを先生にしつもんしやすいから	208
エ	発表できる回数が増えるから	276
オ	いろいろな仕事ができるようになるから	325
カ	その他	44

少ない人数で学習や活動をしたい理由



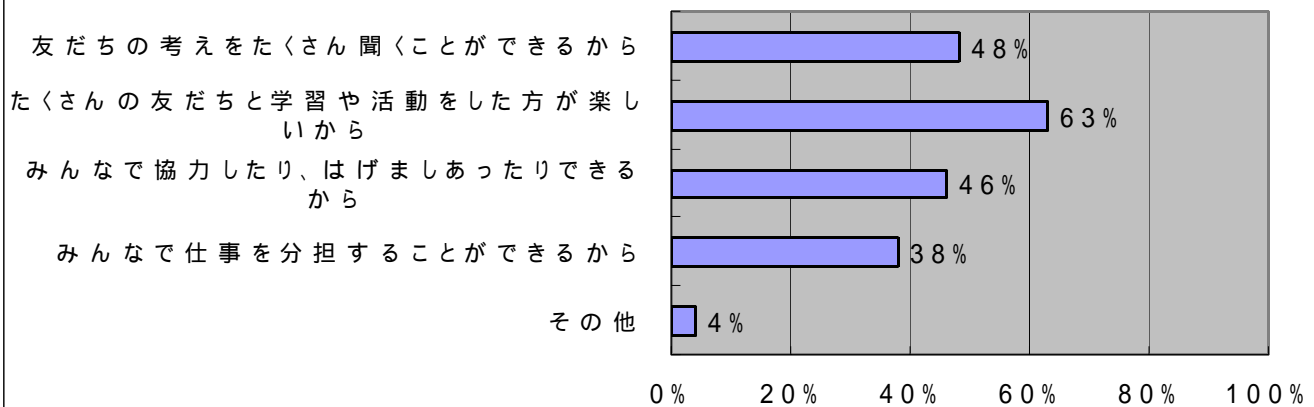
児童の少ない人数で学習や活動をしたい理由は、「わかりやすく教えてもらえるから」（49%）が多く、次に「いろいろな仕事をするすることができるから」（41%）となっている。

16 - (2) 多くの人数で学習や活動をしたい理由

多くの人数（さくねんの学級の数）で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思う理由に 印を付けてください。（ 印はいくつ付けてもかまいません ）(N = 785)

ア	友だちの考えをたくさん聞くことができるから	378 (人)
イ	たくさんの友だちと学習や活動をした方が楽しいから	494
ウ	みんなで協力したり、はげましあったりできるから	358
エ	みんなで仕事を分担することができるから	300
オ	その他	34

多くの人数で学習や活動をしたい理由



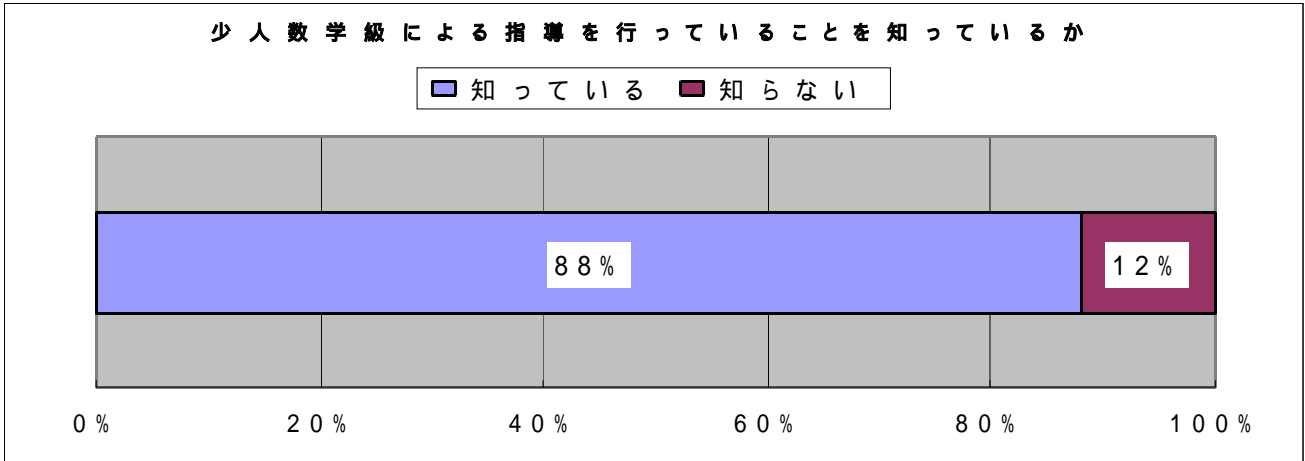
児童の多くの人数で学習や活動をしたい理由は、「たくさんの友だちと学習や活動をした方が楽しいから」（63%）が多く、次に「友だちの考えをたくさん聞くことができるから」（48%）となっている。

【1年生の保護者用】 185人

17 少人数学級による指導を行っていることを知っているか

あなたのお子様の学年で少人数学級による指導を行うために、通常のクラスの数より1クラス多く編成し、1クラスの人数を減らして授業を進めていることを知っていますか。次の中から該当するものを選び、印を付けてください。(N = 185)

- | | |
|---------|---------|
| ア 知っている | 162 (名) |
| イ 知らない | 23 |

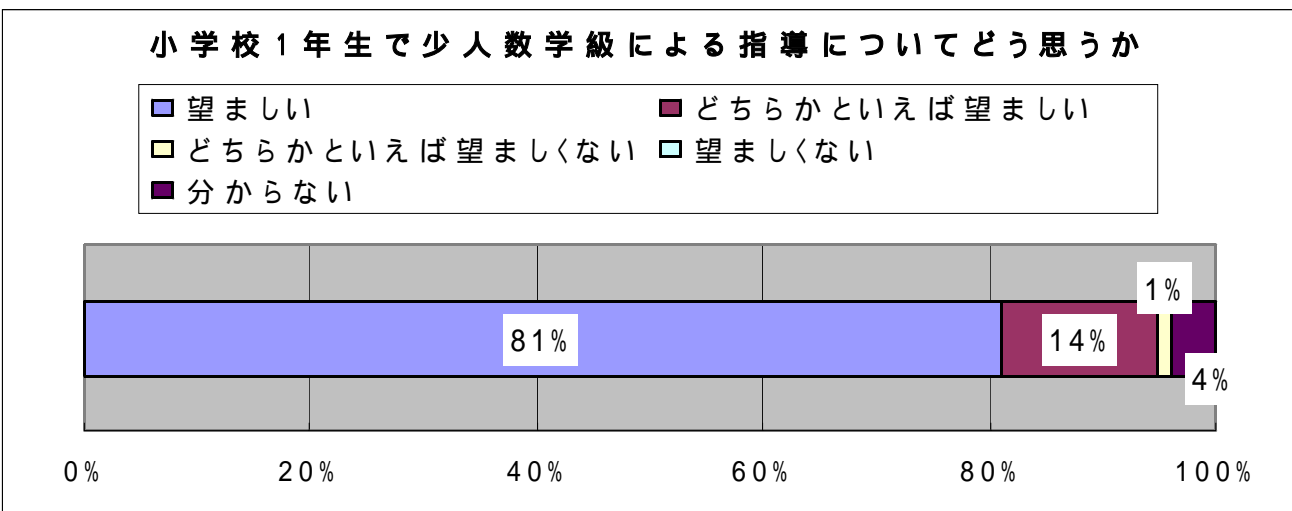


88%の保護者が、少人数学級による指導を行っていることを知っていた。12%の保護者が知らなかった。

18 小学校1年生少人数の学級を編成して指導することの意識

このように、小学校1年生において少人数の学級を編成して授業を進めることについてどう思いますか。次の中から該当するものを選び、印を付けてください。(N = 185)

- | | |
|-------------------|---------|
| ア 望ましい | 151 (人) |
| イ どちらかといえば望ましい | 25 |
| ウ どちらかといえれば望ましくない | 2 |
| エ 望ましくない | 0 |
| オ 分からない | 7 |



小学校1年生で少人数学級を編成して指導することは、95%の保護者が望ましいと思っている。

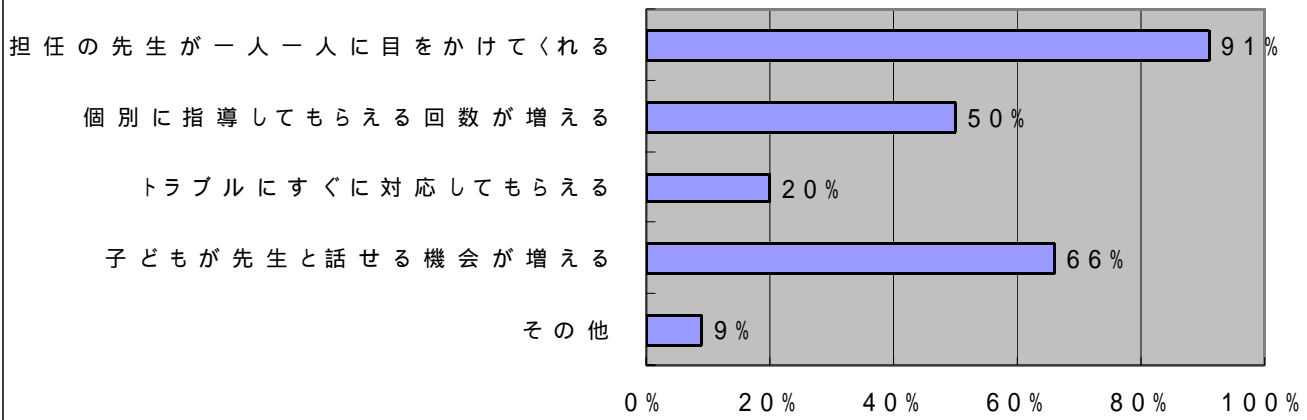
小

19 18で肯定的な回答をした人の理由

上記18について、アまたはイと回答した方のみお答え願います。そう思う理由について該当するものをすべて選んで 印を付けてください。(N = 176)

ア	担任の先生が一人一人に目をかけてくれる	160 (人)
イ	個別に指導してもらえる回数が増える	88
ウ	トラブルにすぐに対応してもらえる	67
エ	子どもが先生と話せる機会が増える	116
オ	その他	15

18で肯定的な回答をした人の理由



保護者の少人数指導が望ましいと思っている理由は、「担任の先生が一人一人に目をかけてくれる」(91%)が一番で、次に「子どもが先生と話せる機会が増える」(66%)となっている。先生とのかかわりについて回答した保護者が多かった。

20 18で否定的な回答をした人の理由

上記18について、ウまたはエと回答した方のみお答え願います。どのようなことからそのように思いましたか。下の欄にご記入願います。

- ・人数が多い方が友だちもたくさんでき、スポーツをしたり、何かを製作したり、考えたりするときに楽しいと思う。

少人数数学級指定校（中学校） 13校

【学校長用】

番 号	質 問 項 目
1 - (1)	少人数数学級の学習指導面における効果
1 - (2)	少人数数学級の方が学習効果があると思われる教科等
1 - (3)	1 - (2) を選んだ理由
2 - (1)	少人数数学級の生活指導面における効果
2 - (2)	2 - (1) で肯定的な回答をした人の理由
3 - (1)	多人数集団の方が学習効果があると思われる教科等
3 - (2)	3 - (1) を選んだ理由
4	少人数数学級の方が学習面で効果が現れる学年 少人数数学級の方が生活面で効果が現れる学年
5 - (1)	学習面で少人数数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思うか
5 - (2)	5 - (1) で肯定的な回答をした人で少人数指導の効果が現れやすいと思う学年
6	少人数数学級や少人数指導の成果と課題
7	少人数数学級や少人数指導に関する効果的な活用方法等

【担当職員用】

8 - (1)	少人数数学級の方が学習効果があると思われる教科等
8 - (2)	8 - (1) を選んだ理由
9 - (1)	少人数数学級の生活指導面における効果
9 - (2)	9 - (1) で肯定的な回答をした人の理由
10 - (1)	多人数集団の方が学習効果があると思われる教科等
10 - (2)	10 - (1) を選んだ理由
11	少人数数学級の方が学習面で効果が現れる学年 少人数数学級の方が生活面で効果が現れる学年
12 - (1)	学習面で少人数数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思うか
12 - (2)	12 - (1) で肯定的な回答をした人で少人数指導の効果が現れやすいと思う学年
13	少人数数学級や少人数指導の成果と課題
14	少人数数学級や少人数指導に関する効果的な活用方法等

【生徒用】

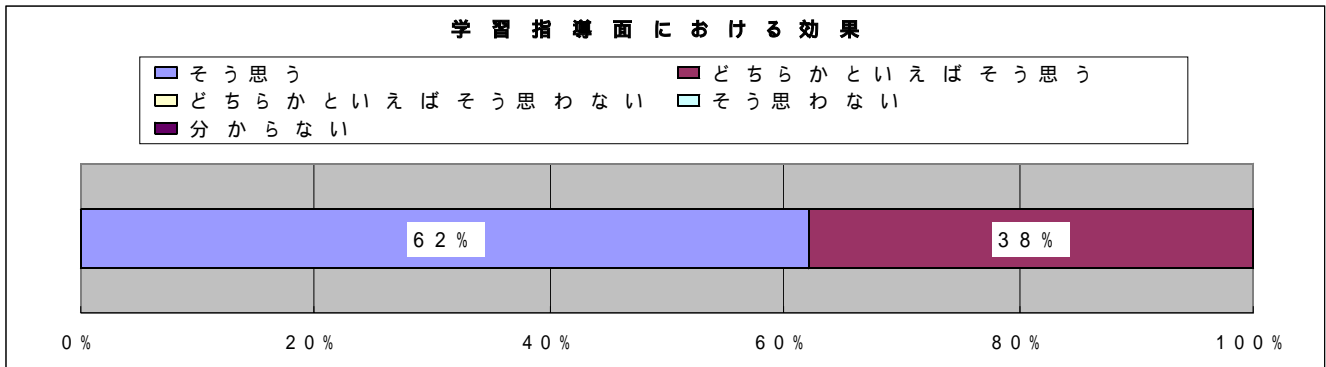
15 - (1)	少ない人数で行った方がいいと思う学習や活動
15 - (2)	少ない人数で学習や活動をしたい理由
16 - (1)	多くの人数で行った方がいいと思う学習や活動
16 - (2)	多くの人数で学習や活動をしたい理由

【学校長用】 13人 (Nは調査対象人数とする)

1 - (1) 少人数学級の学習指導面における効果

少人数学級での指導は、通常の人数の学級における指導と比べて、学習面において指導の効果が現れやすいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 13)

ア	そう思う	8 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	5
ウ	どちらかといえばそう思わない	0
エ	そう思わない	0
オ	分からない	0

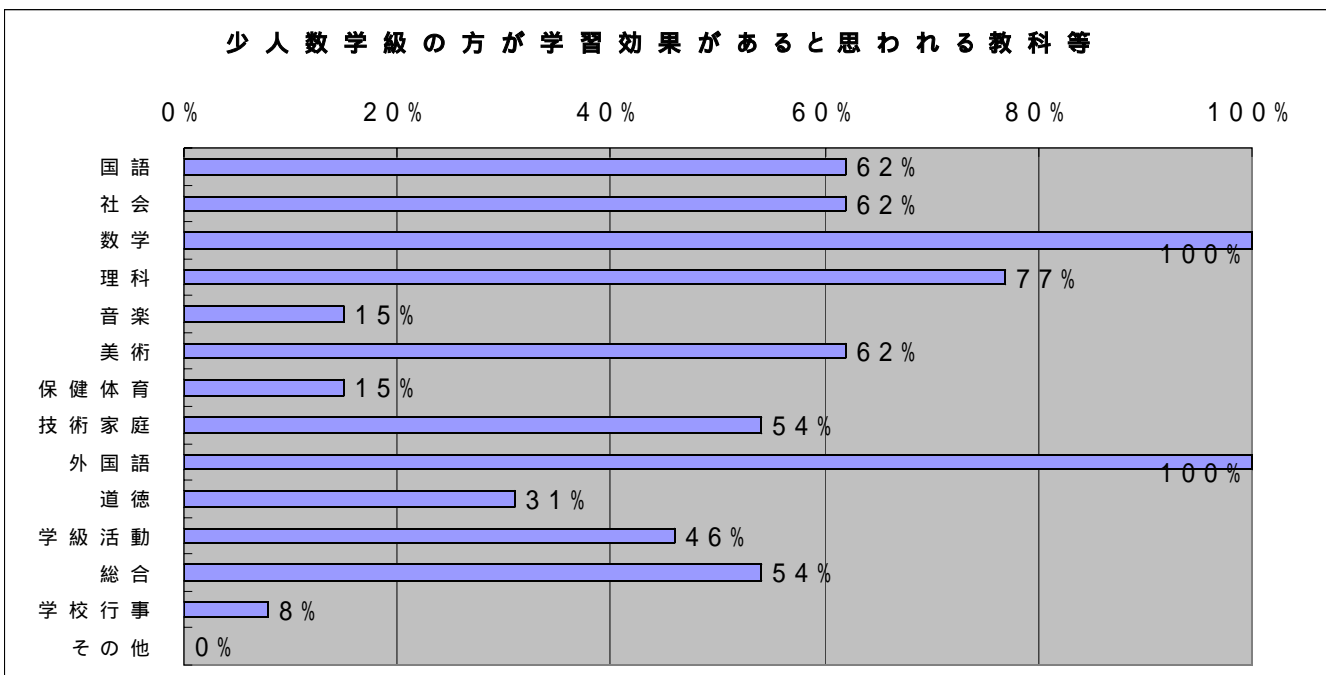


全ての学校長が、少人数学級による指導は、学習指導面において効果が現れやすいと思っている。

1 - (2) 少人数学級の方が学習効果があると思われる教科等

少人数学級の方が、通常の人数の学級における指導と比べて、学習効果があると思われる教科等の学習活動に印を付けてください。(複数回答可)(N = 13)

ア	国語	8人	イ	社会	8人	ウ	数学	13人	エ	理科	10人
オ	音楽	2人	カ	美術	8人	キ	保健体育	2人	ク	技術・家庭	7人
ケ	外国語	13人	コ	道徳	4人	サ	学級活動	6人			
シ	総合的な学習の時間	7人	ス	学校行事	1人	セ	その他	0人			

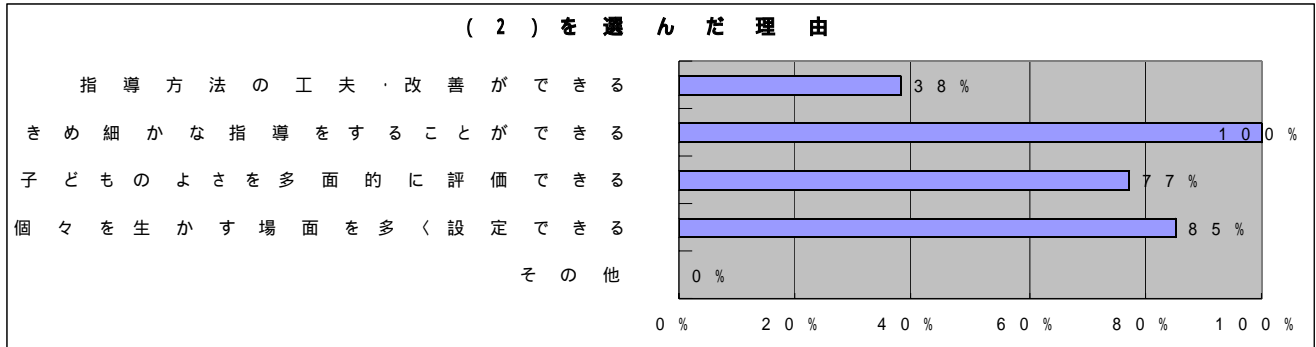


少人数学級の方が、学習効果があると思われる教科の一番は、「算数」「外国語」(100%)であり、次に「理科」(77%)、「国語」「社会」「美術」となっている。「音楽」「保健体育」「道徳」「学校行事」における割合が小さくなっている。

1 - (3) 1 - (2) で選んだ理由

上記(2)を選んだ理由に 印を付けてください。(複数回答可)(N = 13)

ア 指導方法の工夫・改善ができる	5 (人)
イ きめ細かな指導をすることができる	13
ウ 子どものよさを多面的に評価できる	10
エ 個々を生かす場面を多く設定できる	11
オ その他	0

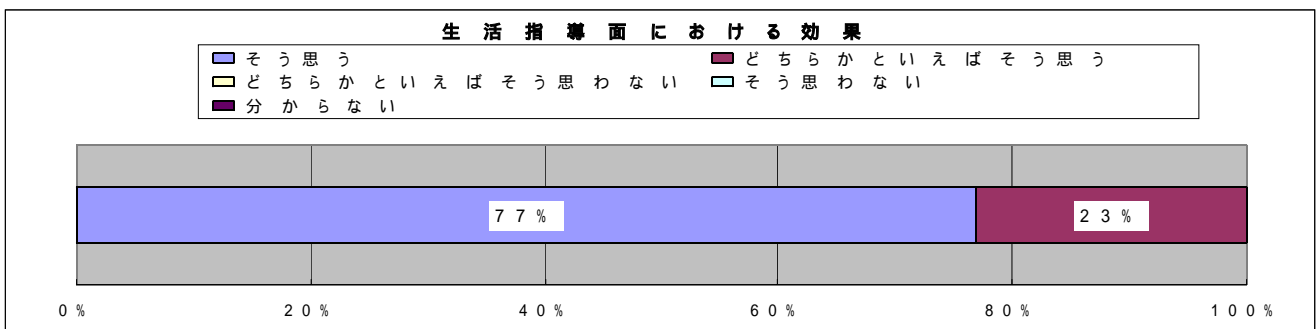


少人数学級の学習面の効果として、「きめ細かな指導をすることができる」(100%)が一番で、次に「個々を生かす場面を多く設定できる」(85%)となっている。「指導方法の工夫・改善ができる」は、38%と低い数値である。

2 - (1) 少人数学級の生活指導面における効果

少人数学級での指導は、通常の人数の学級における指導と比べて、生活指導上、指導の効果が現れやすいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、 印を付けてください。(N = 13)

ア そう思う	10 (人)
イ どちらかといえばそう思う	3
ウ どちらかといえばそう思わない	0
エ そう思わない	0
オ 分からない	0



全ての学校長が、少人数学級による指導が生活指導面での効果が現れやすいと思っている。

2 - (2) 2 - (1) で肯定的な回答をした人の理由

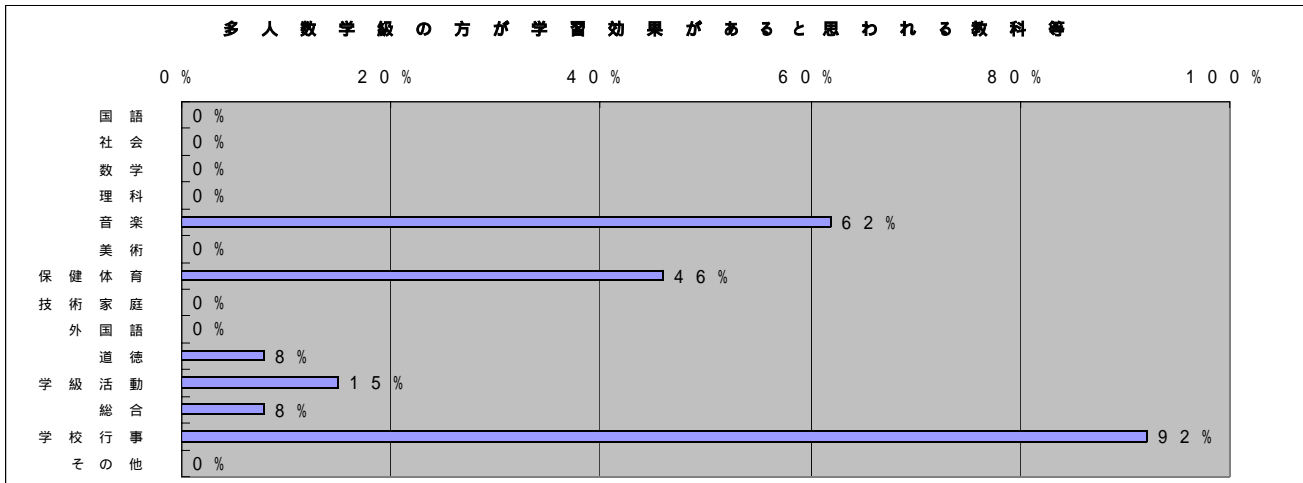
上記(1)について、アまたはイと回答した方のみお答え願います。どのようなことからそう思いましたか。例にならい、下の欄にご記入願います。

- ・ 細やかな指導と早めの対応。
- ・ 全体をまとめやすい。
- ・ 一人一人に接する時間が増え、指導の時間も確保できる。
- ・ 担任とのコミュニケーションがより深く図られる。
- ・ しつけをはじめ心の悩み等対応すべきことが多い。
- ・ 責任感や所属感が高まる。

3 - (1) 多人数集団の方が学習効果があると思われる教科等

多人数集団（35人～40人程度）の方が学習効果があると思われる教科等の学習活動に 印を付けてください。（複数回答可）（N = 13）

ア 国語	0人	イ 社会	0人	ウ 数学	0人	エ 理科	0人
オ 音楽	8人	カ 美術	0人	キ 保健体育	6人	ク 技術・家庭	0人
ケ 外国語	0人	コ 道徳	1人	サ 学級活動	2人		
シ 総合的な学習の時間	1人	ス 学校行事	12人	セ その他	0人		

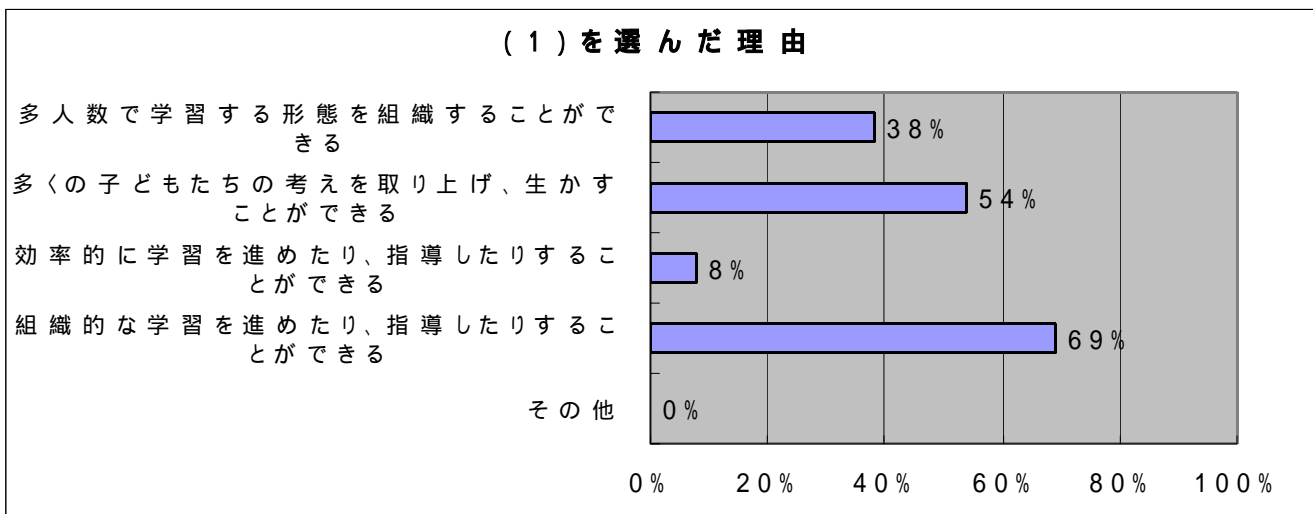


多人数集団の方が学習効果があると思われる教科は、「音楽」（62%）「保健体育」（46%）となっている。どちらの教科も少人数学級による指導よりも割合が大きくなっている。「学校行事」でもその割合が大きくなっている。

3 - (2) 3 - (1) を選んだ理由

上記(1)を選んだ理由に 印を付けてください。（複数回答可）（N = 13）

ア 多人数で学習する形態を組織することができる	5 (人)
イ 多くの子どもたちの考えを取り上げ、生かすことができる	7
ウ 効率的に学習を進めたり、指導したりすることができる	1
エ 組織的な学習を進めたり、指導したりすることができる	9
オ その他	0



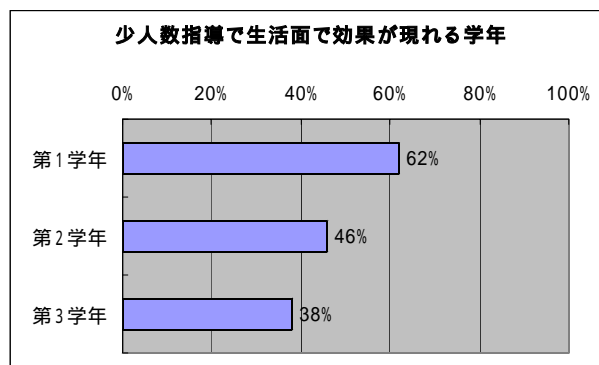
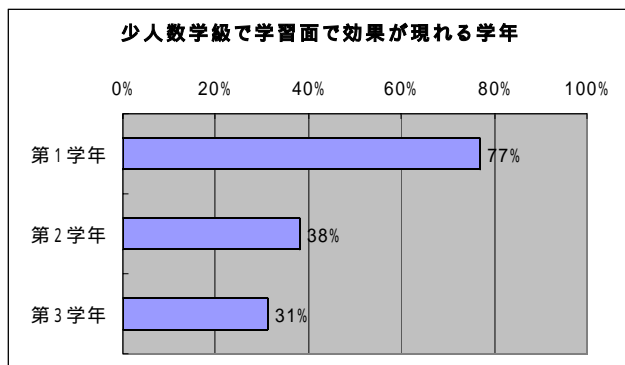
多人数集団の学習面での効果の理由として、「組織的な学習を進めたり指導したりすることができる」（69%）が一番で、次に「多くの子どもたちの考えを取り上げ、生かすことができる」（54%）となっている。

4 少人数学級の方が学習面及び生活面で効果が現れる学年とその理由

少人数学級で指導を行った場合、学習指導や生活指導の効果が現れるのは、何年生だと思いますか。また、その学年を選んだ理由について、下の欄にご記入願います。（複数学年回答可）

(N = 13)

学年	学 習 指 導	生 活 指 導
1	10 (人)	8 (人)
2	5	6
3	4	5



少人数学級の方が、学習面で効果が現れると考えられている学年は、「第1学年」であり、「第2学年」「第3学年」での割合は小さくなっている。生活指導の効果が現れるのも「第1学年」が一番で、順に「第2学年」「第3学年」となっている。学習面と生活面どちらも「第1学年」の割合が大きくなっている。

理由

〔学習指導〕

- ・基礎基本の定着を図ることができる。(1年)
- ・入学時の実態を適切に把握し、指導に生かせる。(1年)
- ・個別指導の時間を多く必要とする。(1年)
- ・個人差(学力差)に応じたきめ細かな指導ができる。
- ・学習内容が難しくなるので、きめ細かな指導を必要とする。(2年)
- ・学力差の解消や進路指導の充実に向け取り組める。(3年)
- ・学習方法について徹底して指導できる。(1年)

〔生活指導〕

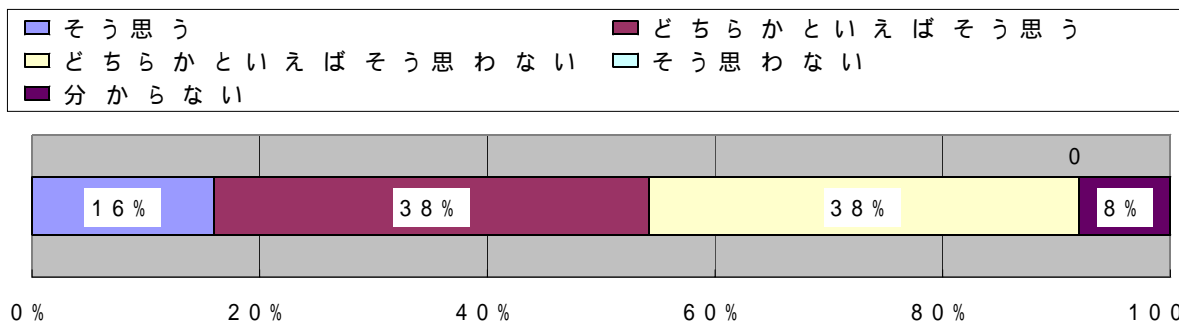
- ・生活習慣を身につけさせる。
- ・様々な問題に対応しやすい。
- ・集団の一員である事を役割に責任を持たせ、指導できる。(1年)
- ・個に応じた指導支援ができる。
- ・次のリーダーとして明確な目標をしっかりと持たせることができる。
- ・多感な時期であり様々な問題に細かく対応できる。(2年)
- ・学級づくりの基本部分をしっかりと行える。(1年)

5 - (1) 学習面で少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思うか

学習指導について、少人数学級より教科の特性によって学習形態を変えることのできる少人数指導の方が、指導の効果が現れやすいと思いますか。(N = 13)

ア	そう思う	2 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	5
ウ	どちらかといえばそう思わない	5
エ	そう思わない	0
オ	分からない	1

少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思うか



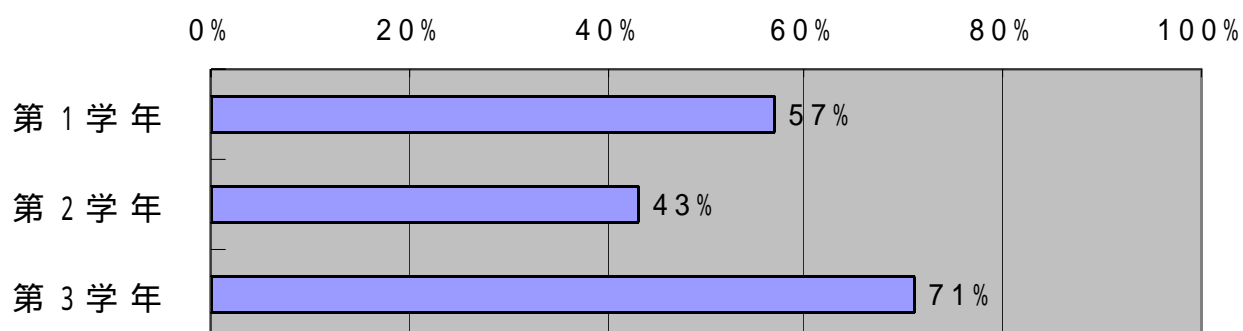
学習指導について、54%の学校長が少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れると思っている。

5 - (2) 5 - (1)で肯定的な回答をした人で少人数指導の効果が現れやすいと思う学年

上記(1)でアまたはイと回答した方のみお答え願います。指導の効果が現れやすいと思う学年に印を付けてください。(複数回答可)(N = 7)

ア	第1学年	4 (人)
イ	第2学年	3
ウ	第3学年	5

(1)で肯定的な回答をした方で少人数指導の効果が現れやすいと思う学年



少人数指導の方が少人数学級よりも指導の効果が現れやすいと答えた学校長が考える学年は、「第3学年」である。ついで「第1学年」「第2学年」の順になっている。

6 少人数学級や少人数指導の成果と課題

学校経営上、少人数学級や少人数指導の成果と課題についてご記入願います。

〔少人数学級〕

成果

- ・生徒理解が行き届く。
- ・学級経営、学級指導の面で効果がある。
- ・学級が落ち着いている。
- ・学習の定着の面でも効果が上がっている。

課題

- ・指導方法の工夫、改善に取り組む必要がある。
- ・合唱活動等でも多人数学級に匹敵する達成感をもたせること。

〔少人数指導〕

成果

- ・きめ細やかな指導、個人差に応じた指導ができる。
- ・満足感や自信を持たせる事ができる。
- ・学習指導面で効果がある。
- ・T Tの連携が上手くとれると効果は上がる。

課題

- ・様々な指導形態について工夫する必要がある。
- ・教師同士の打ち合わせが必要である。
- ・余裕教室が少ない。
- ・評価や評定の在り方について検討が必要である。

7 少人数学級や少人数指導に関する効果的な活用方法等

少人数指導や少人数学級に関する効果的な活用方法等についてご意見がありましたらご記入願います。

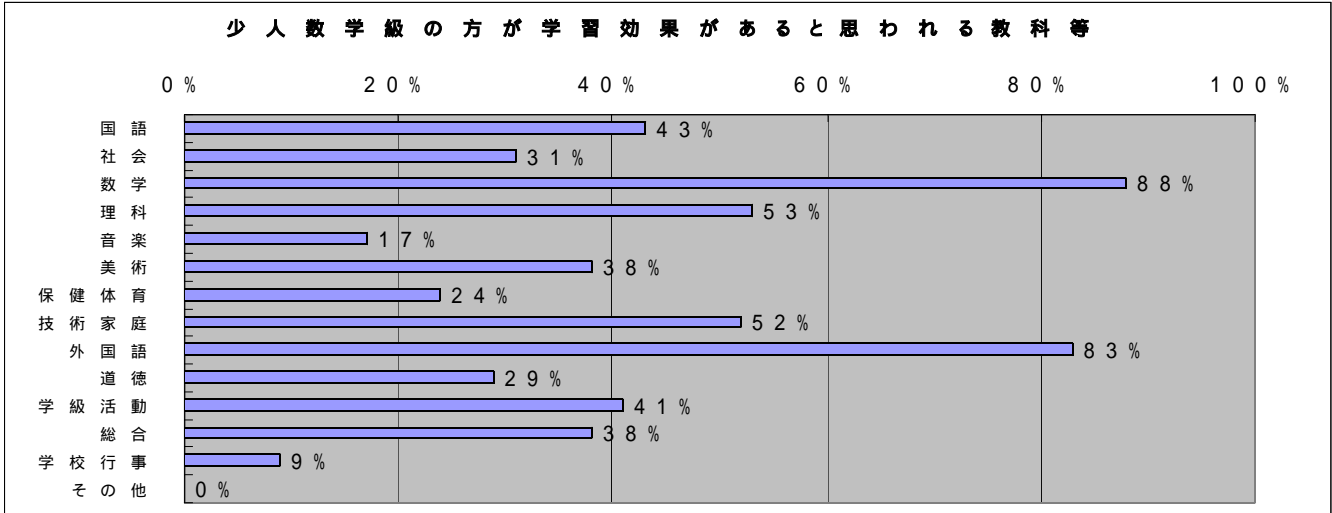
- ・1 C 2 Tの実践は、効果的であった。
- ・少人数学級に併せて少人数指導もできれば、効果は大きい。
- ・教員一人一人の負担が大きいので、定員の見直しが必要。
- ・少人数指導や少人数学級の特質をさらに研修し、共通理解をして、より効果的な指導をめざし、その工夫改善に努めなければならない。
- ・実験実習を伴う教科において、安全上の配慮をより一層徹底できる。
- ・少人数指導は、教科により必要な単元で実施するのが効果的である。
- ・T T指導より少人数指導の方が効果的な場面が多い。

【担当職員用】 58人

8 - (1) 少人数学級の方が学習効果があると思われる教科等

少人数学級の方が、通常の数人の学級における指導と比べて、学習効果があると思われる教科等の学習活動に 印を付けてください。(複数回答可)(N = 58)

ア 国語	25人	イ 社会	18人	ウ 数学	51人	エ 理科	31人
オ 音楽	10人	カ 美術	22人	キ 保健体育	14人	ク 技術・家庭	30人
ケ 外国語	48人	コ 道徳	17人	サ 学級活動	24人		
シ 総合的な学習の時間	22	ス 学校行事	5人	セ その他	0人		

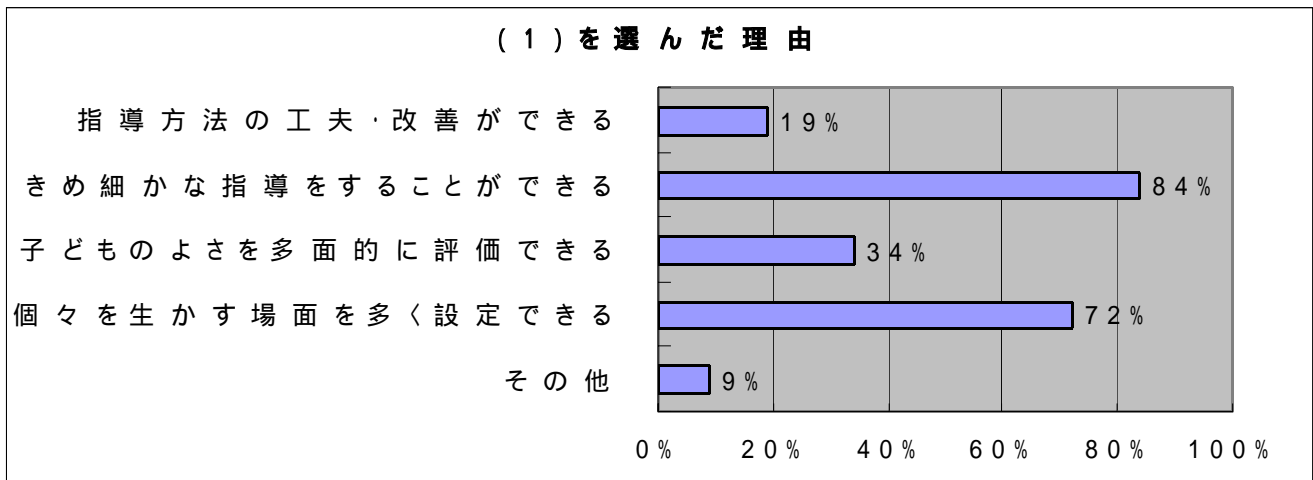


少人数学級の方が学習効果があると思われる教科は、「数学」が88%と一番多く、次に「外国語」(83%)、「理科」(53%)となっている。「音楽」(17%)や「学校行事」(9%)での割合は小さい。

8 - (2) 8 - (1) で選んだ理由

上記(2)を選んだ理由に 印を付けてください。(複数回答可)(N = 58)

ア 指導方法の工夫・改善ができる	11(人)
イ きめ細かな指導をすることができる	49
ウ 子どもよさを多面的に評価できる	20
エ 個々を生かす場面を多く設定できる	42
オ その他	5



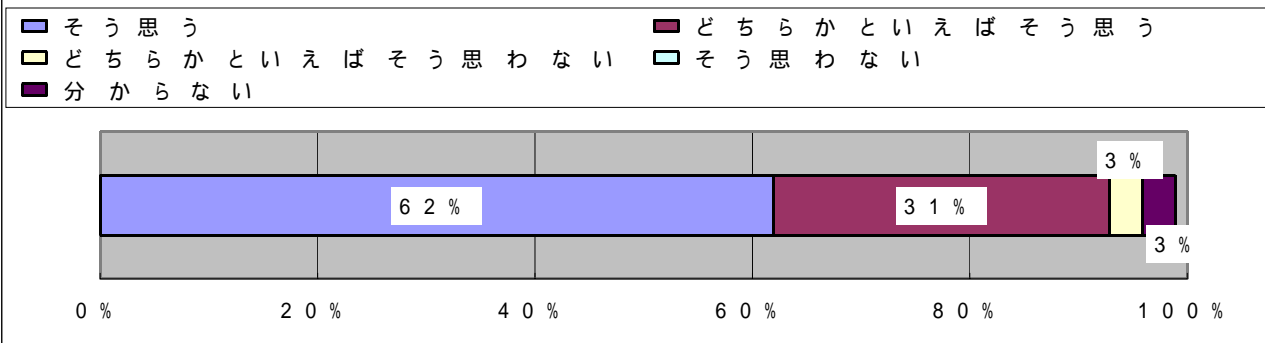
少人数学級の学習面での効果として、「きめ細かな指導をすることができる」(84%)が一番で、次に「個々を生かす場面を多く設定できる」(72%)となっている。小学校と同じような傾向にある。

9 - (1) 少人数学級の生活指導面における効果

少人数学級での指導は、通常の人数の学級における指導と比べて、生活指導上、指導の効果が現れやすいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 58)

ア そう思う	36 (人)
イ どちらかといえばそう思う	18
ウ どちらかといえばそう思わない	2
エ そう思わない	0
オ 分からない	2

少人数学級での指導で生活指導上の効果



93%の担当職員が、少人数学級による指導が生活指導面で効果があると思っている。どちらかといえば効果がないと思っている担当職員は3%である。

9 - (2) 9 - (1) で肯定的な回答をした人の理由

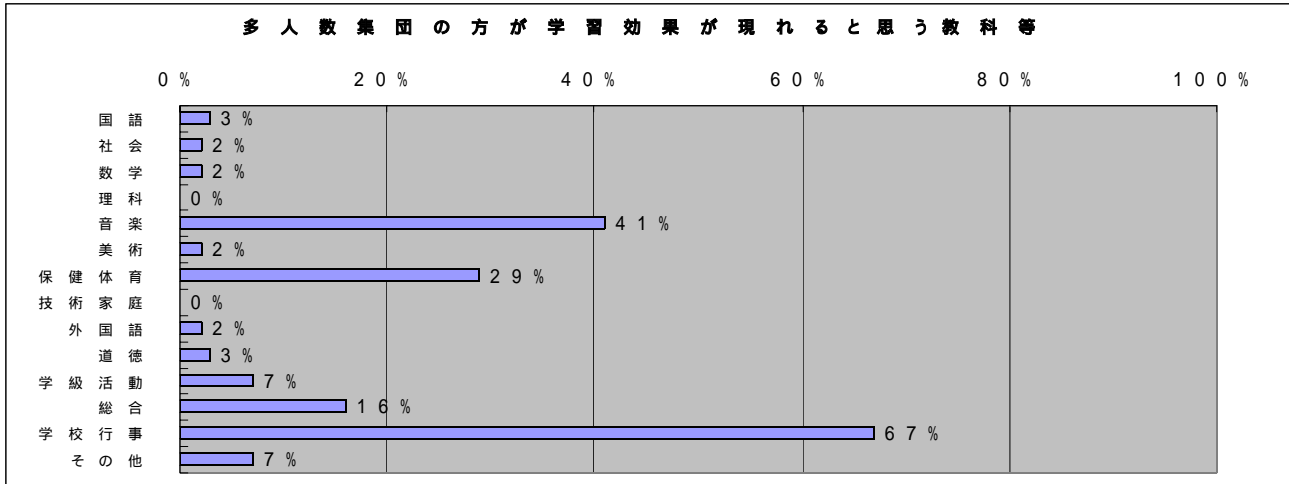
上記(1)について、アまたはイと回答した方のみお答え願います。どのようなことからそう思いましたか。例にならない、下の欄にご記入願います。

- ・個別指導(個人ノート、面談)を細やかにできる。
- ・集団指導がしやすい。
- ・集団の中の一員として責任を意識する事ができる。
- ・不登校生徒への対応
- ・問題行動の早期発見、対応ができる。
- ・生徒の表情が見え、声がかかりやすい。小さな変化にも気付くことができる。
- ・友人関係、部活動など日常のトラブルや悩みにすぐ対応できる。
- ・一人一人の生徒との会話を大切にすることができる。
- ・目が行き届くので、大きなトラブルに発展することが少ない。
- ・お互いに注意しあえる環境を作りやすい。
- ・細かな指導が必要な生徒に時間をかけることができる。
- ・家庭との連携が取りやすく、家庭の教育力を有効に生かせる。

10 - (1) 多人数集団の方が学習効果があると思われる教科等

多人数集団 (35人 ~ 40人程度) の方が学習効果があると思われる教科等の学習活動に 印を付けてください。(複数回答可)(N = 58)

ア 国語	2人	イ 社会	1人	ウ 数学	1人	エ 理科	0人
オ 音楽	24人	カ 美術	1人	キ 保健体育	17人	ク 技術・家庭	0人
ケ 外国語	1人	コ 道徳	2人	サ 学級活動	4人		
シ 総合的な学習の時間	9人	ス 学校行事	39人	セ その他	4人		

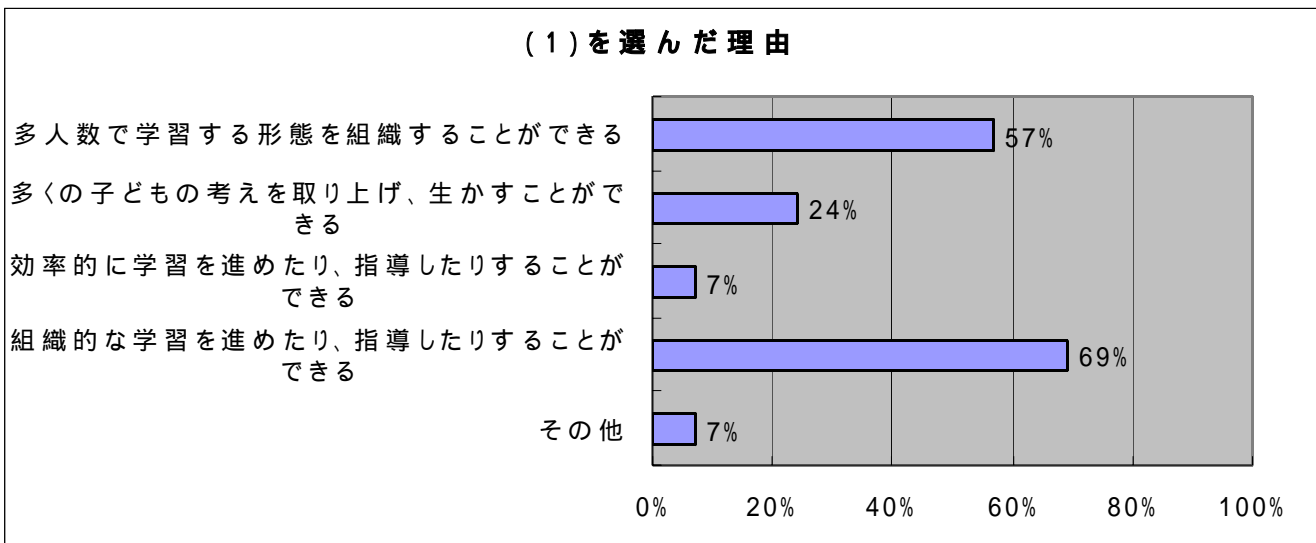


多人数集団の方が効果があると思われる教科は、割合が大きい順に「音楽」(41%) 「保健体育」(29%) の順になっている。これらの教科は、少人数指導よりも学習効果があると思われる。他の教科における多人数集団の効果は、割合が小さい。「学校行事」は、多人数集団の方が学習効果があると思われる。

10 - (2) 10 - (1) を選んだ理由

上記(1)を選んだ理由に 印を付けてください。(複数回答可)(N = 58)

ア 多人数で学習する形態を組織することができる	33 (人)
イ 多くの子どもたちの考えを取り上げ、生かすことができる	14
ウ 効率的に学習を進めたり、指導したりすることができる	4
エ 組織的な学習を進めたり、指導したりすることができる	25
オ その他	4



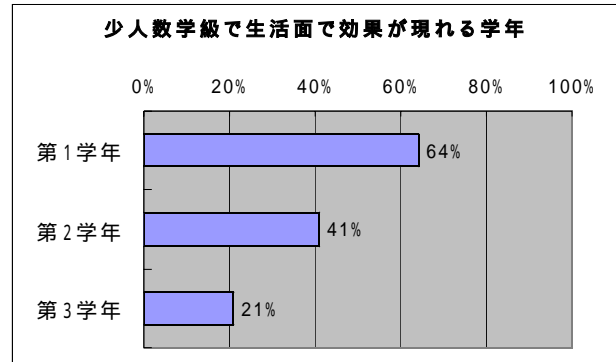
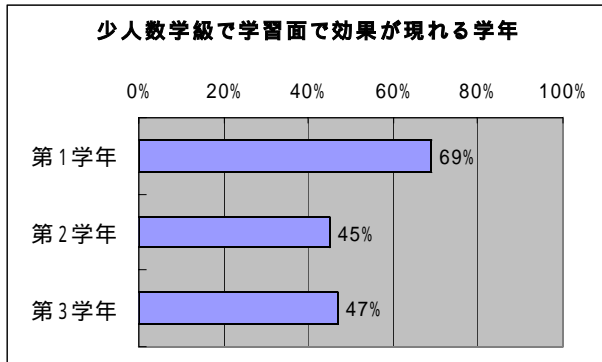
多人数集団の学習面の効果として、「組織的な学習を進めたり、指導したりすることができる」(69%) が一番で、次に「多人数で学習する形態を組織することができる」(57%) となっている。

11 少人数学級の方が学習面及び生活面で効果が現れる学年とその理由

少人数学級で指導を行った場合、学習指導や生活指導の効果が現れるのは、何年生だと思いますか。また、その学年を選んだ理由について、下の欄にご記入願います。（複数学年回答可）

(N = 58)

学年	学 習 指 導	生 活 指 導
1	40 (人)	37 (人)
2	26	24
3	27	19



少人数学級の方が学習面で効果が現れると考えられている学年は、「第1学年」「第3学年」「第2学年」の順となっているが、それほど大きな差はない。少人数学級で生活面で効果が現れるのは「第1学年」「第2学年」「第3学年」の順になっている。学習面と生活面のどちらも「第1学年」の割合が大きく、「第2学年」と「第3学年」ではどちらも半分を下回っている。

理由

〔学習指導〕

- ・学力に応じた個別指導が必要（3年）
- ・習熟度に合わせて指導が進められる。（3年）
- ・基礎をしっかり指導できる。（1年）
- ・より細かな指導・評価をすることができる。
- ・学習習慣や規律の徹底が図られる。（1年）
- ・進路を意識し、意欲的になる時期である。（3年）

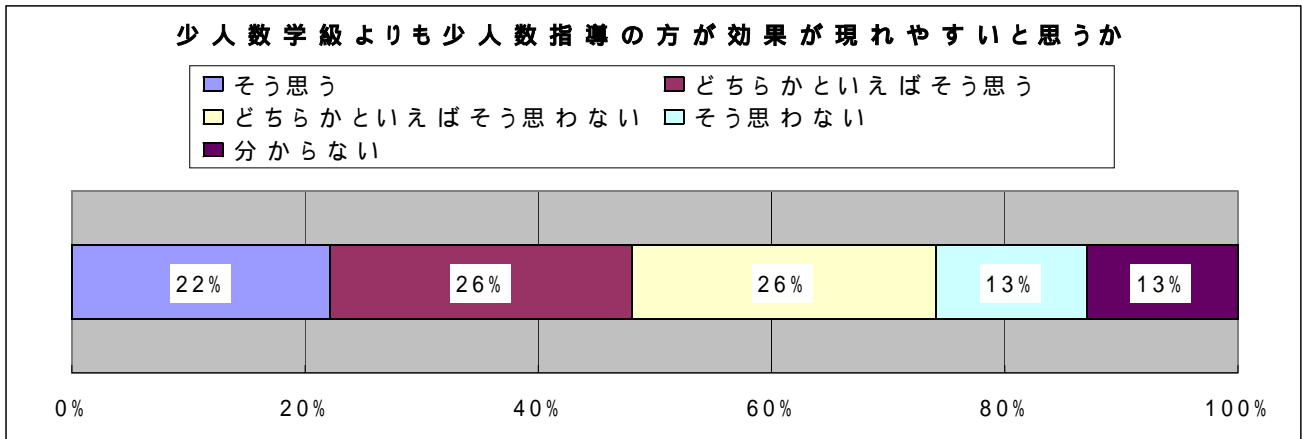
〔生活指導〕

- ・基本的な生活習慣を指導、徹底できる。（1年）
- ・生徒理解や指導に早く対応できる。
- ・個を生かした指導ができる。
- ・トラブルにすぐに対応できる。
- ・一人一人の個性を把握することが早くできる。（1年）
- ・不登校生徒への対応
- ・責任感をもって活動するように指導しやすくなる。
- ・自分の役割や仕事を意識させた生活をさせやすい。
- ・家庭との連携も密になる。
- ・教育相談に対応しやすい。

12 - (1) 学習面で少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思うか

学習指導について、少人数学級より教科の特性によって学習形態を変えることのできる少人数指導の方が、指導の効果が現れやすいと思いますか。(無回答が2人よりN = 56)

ア	そう思う	12 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	15
ウ	どちらかといえばそう思わない	15
エ	そう思わない	7
オ	分からない	7

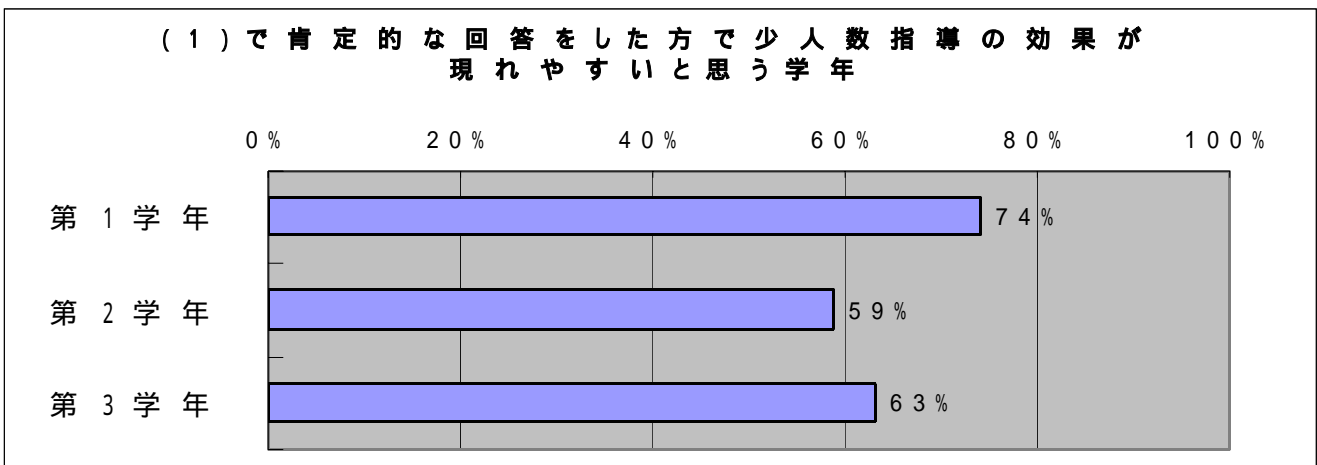


学習指導について、48%の担当職員が少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと思っている。

12 - (2) 12 - (1) で肯定的な回答をした人で少人数指導の効果が現れやすいと思う学年

上記(1)でアまたはイと回答した方のみお答え願います。指導の効果が現れやすいと思う学年に印を付けてください。(複数回答可)(N = 27)

ア	第1学年	20 (人)
イ	第2学年	16
ウ	第3学年	17



上記5 - (1) で、少人数学級よりも少人数指導の方が効果が現れやすいと答えた担当職員が、効果が現れやすいと思う学年の一番は、「第1学年」である。ついで「第3学年」「第2学年」となっている。学校長は、第3学年が効果が現れやすいと答えており、相違が見られる。

13 少人数学級や少人数指導の成果と課題

学校経営上、少人数学級や少人数指導の成果と課題についてご記入願います。

〔少人数学級〕

成果

- ・個別指導に効果的
- ・各自が使命感責任感をもって活動できる。
- ・事務的な業務が減り、生徒を指導する時間が増えた。

課題

- ・集団としての雰囲気弱くなる。
- ・人数が必要な活動が大変である。(合唱など)
- ・施設、設備面での対応に問題が生じる。
- ・人との関わりについて円滑に行えるよう指導が必要である。
- ・切磋琢磨させる場面が必要である。

〔少人数指導〕

成果

- ・生徒の集中力が増す。
- ・習熟度別指導がやりやすい。
- ・色々な形態に対応させて指導することができる。
- ・生徒の活躍の場面が増えた。

課題

- ・事前準備が大変
- ・打ち合わせの時間が必要である。
- ・指導教員の不足
- ・小集団になることへの生徒達の不安

14 少人数学級や少人数指導に関する効果的な活用方法等

少人数指導や少人数学級に関する効果的な活用方法等についてご意見がありましたらご記入願います。

- ・単元末の習熟度別指導は効果的であると思う。
- ・会話活動(英語)に有効である。
- ・教師の数を増やす事が何よりも大切
- ・少人数学級では、生徒一人一人に責任と自覚を持たせるような活動場面が必要である。
- ・少人数指導においては、習熟度別に分けて指導すると成果が上がる。その際、基礎コースには熟練教師を担当させることが望ましい。
- ・早い時期に少人数学級を実現して、安定した学習環境を整えることが学習指導上も生活指導上も有効である。

【生徒用】1585人

15 - (1) 少ない人数で行った方がいいと思う学習や活動

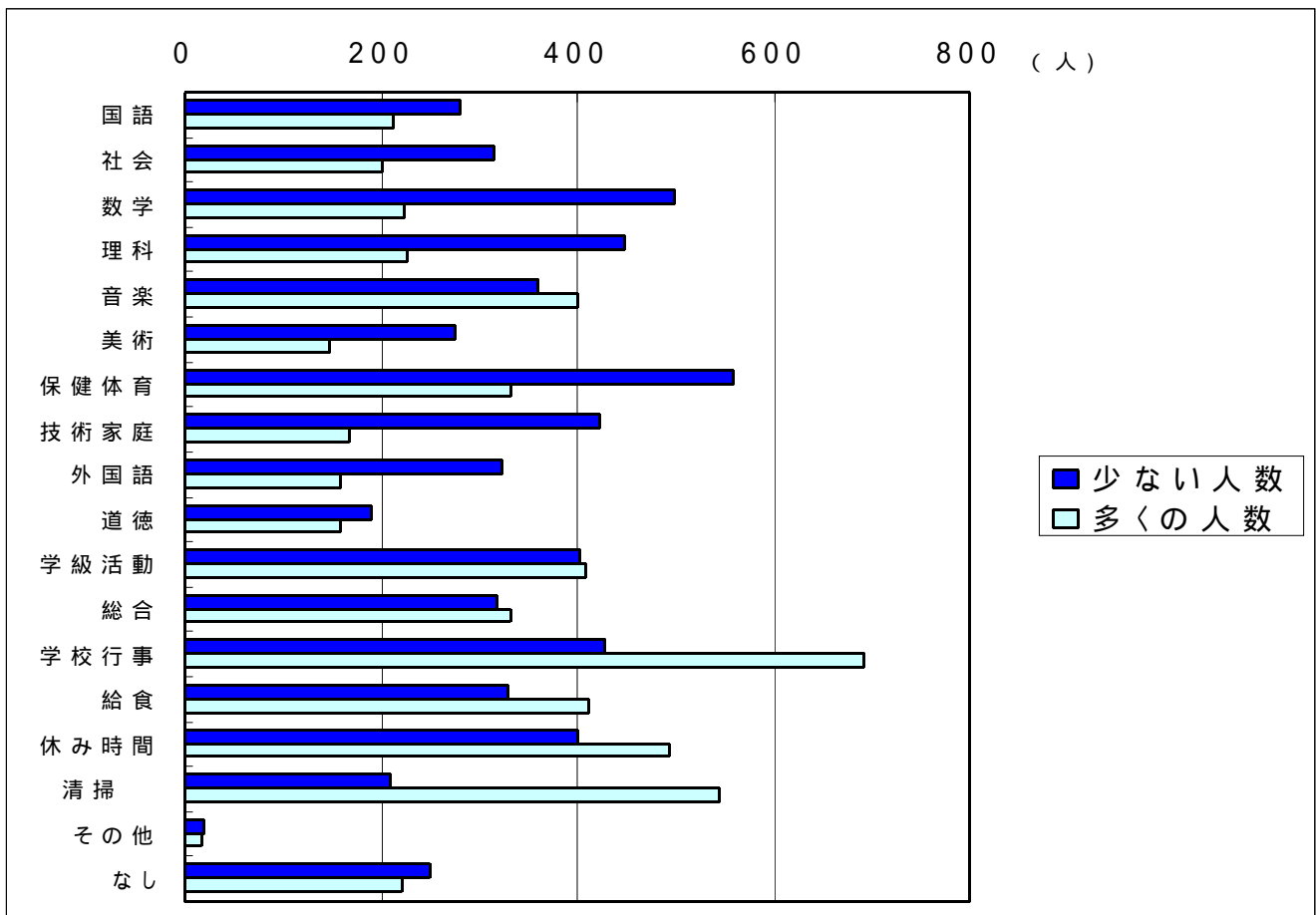
学校生活の中で少ない人数(25人~30人程度)で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思う学習やその他の活動に 印を付けてください。(印はいくつ付けてもかまいません)(N=1585)

ア	国語	282人	イ	社会	315人	ウ	数学	498人	エ	理科	447人
オ	音楽	359人	カ	美術	274人	キ	保健体育	559人	ク	技術・家庭	424人
ケ	外国語	322人	コ	道徳	190人	サ	学級活動	403人			
シ	総合的な学習の時間	319人	ス	学校行事(体育祭など)	429人						
セ	給食(準備も含めて)	330人	ソ	休み時間	401人						
タ	清掃	210人	チ	その他	21人	ツ	なし	249人			

15 - (1) 多くの人数で行った方がいいと思う学習や活動

昨年の人数で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思うものに 印を付けてください。(印はいくつ付けてもかまいません)(N=1585)

ア	国語	212人	イ	社会	202人	ウ	数学	225人	エ	理科	227人
オ	音楽	401人	カ	美術	147人	キ	保健体育	332人	ク	技術・家庭	168人
ケ	外国語	159人	コ	道徳	158人	サ	学級活動	409人			
シ	総合的な学習の時間	331人	ス	学校行事(体育祭など)	692人						
セ	給食(準備も含めて)	411人	ソ	休み時間	494人						
タ	清掃	545人	チ	その他	17人	ツ	なし	221人			

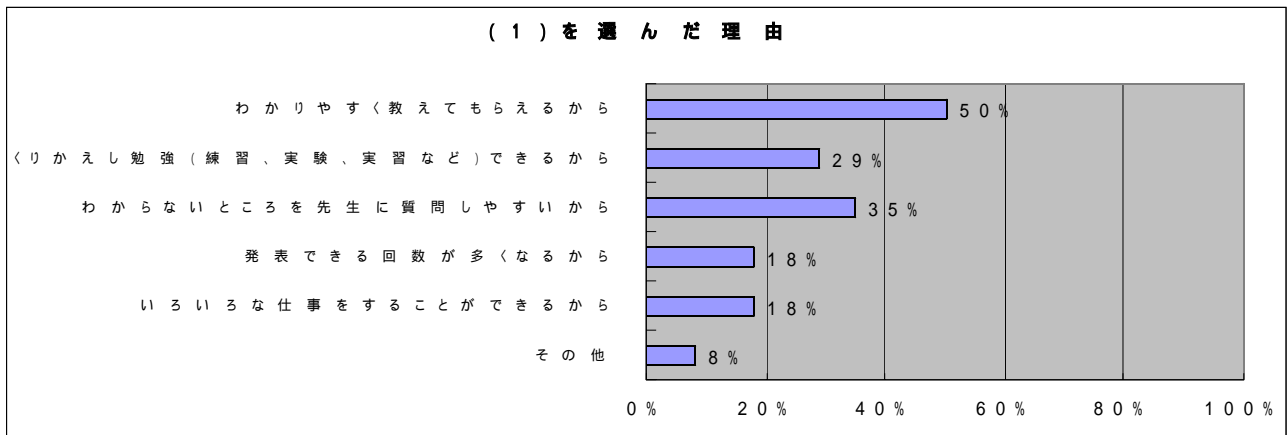


音楽以外の教科は少ない人数で学習した方がいいと思っている生徒が多い。しかし、「特別活動」や「総合的な学習の時間」、「道徳」の時間及び「休み時間」等、教科の学習以外の時間は、多くの人数で行った方がいいと思っている。

15 - (2) 少ない人数で学習や活動をしたい理由

少ない人数（25人～30人程度）で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思う理由に 印を付けてください。（ 印はいくつ付けてもかまいません）(N = 1 5 8 5)

ア	わかりやすく教えてもらえるから	7 8 9 (人)
イ	くりかえし勉強（練習、実験など）することができるから	4 6 1
ウ	わからないところを先生に質問しやすいから	5 5 8
エ	発表できる回数が増えるから	2 8 1
オ	いろいろな仕事ができるようになるから	2 8 4
カ	その他	1 3 2

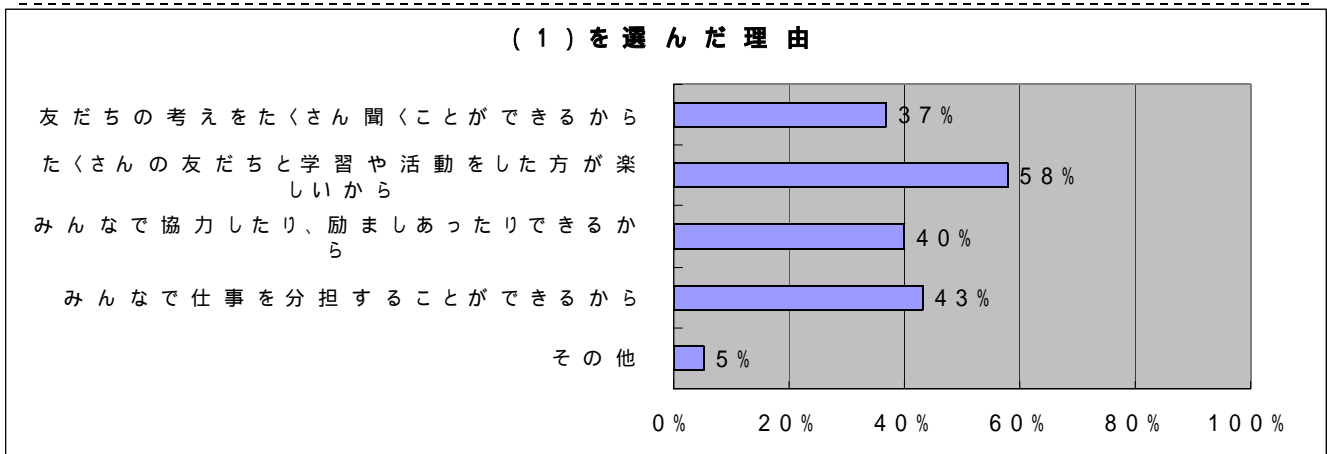


少ない人数で学習や活動をしたい理由は、「わかりやすく教えてもらえるから」（50%）が多く、次に「わからないところを先生に質問しやすいから」（35%）となっている。先生とのかかわりで少ない人数の方が学習効果があると考えている生徒が多い。

16 - (2) 多くの人数で学習や活動をしたい理由

多くの人数（昨年の学級の数）で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思う理由に 印を付けてください。（ 印はいくつ付けてもかまいません）(N = 1 5 8 5)

ア	友だちの考えをたくさん聞くことができるから	5 8 9 (人)
イ	たくさんの友だちと学習や活動をした方が楽しいから	9 2 3
ウ	みんなで協力したり、はげましあったりできるから	6 3 7
エ	みんなで仕事を分担することができるから	6 8 4
オ	その他	8 0



多くの人数で学習や活動がしたい理由は、「たくさんの友だちと学習や活動をした方が楽しいから」（58%）が多く、次に「みんなで仕事を分担することができるから」（43%）となっている。

すこやかサポート配置校 139校

【学校長用】

番 号	質 問 項 目
1 - (1)	「すこやかサポート」制度の学習指導面における効果
1 - (2)	1 - (1) で肯定的な回答した人の理由
1 - (3)	「すこやかサポート」制度の生活指導面における効果
1 - (4)	1 - (3) で肯定的な回答をした人の理由
1 - (5)	すこやかサポートの配置学年や配置対象の学級規模
1 - (6)	見直しをした方がいいと思っている人の理由（記述）
1 - (7)	すこやかサポートの配置基準
2 - (1) -	手厚い個別指導を要する児童の数
2 - (1) -	手厚い個別指導を要する児童に対しての効果
2 - (2) -	45分間座席についていることが難しい児童の数
2 - (2) -	45分間座席についていることが難しい児童に対しての効果
2 - (3) -	登校しぶり、不登校などの傾向が見られた児童の数
2 - (3) -	登校しぶり、不登校などの傾向が見られた児童に対しての効果
3	「すこやかサポート」による指導を行っての成果と課題

【担当職員用】

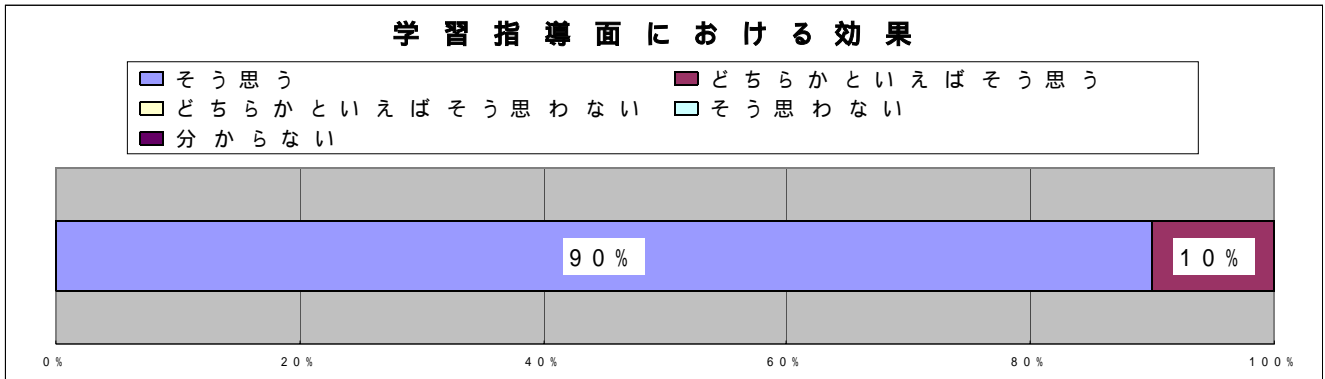
4 - (1)	「すこやかサポート」制度の学習指導面における効果
4 - (2)	4 - (1) で肯定的な回答をした人の理由
4 - (3)	「すこやかサポート」制度の生活指導面における効果
4 - (4)	4 - (3) で肯定的な回答をした人の理由
5 - (1)	「すこやかサポート」の活用場面
5 - (2)	「すこやかサポート」を活用した学習活動で効果的だと思う学習形態
6	「すこやかサポート」の効果（記述）
7	「すこやかサポート」の効果的な活用方法（記述）

【学校長用】 139人 (Nは調査対象人数とする)

1 - (1) 「すこやかサポート制度」の学習指導面における効果

「すこやかサポート」制度は、学習指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 139)

ア	そう思う	125 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	14
ウ	どちらかといえばそう思わない	0
エ	そう思わない	0
オ	分からない	0

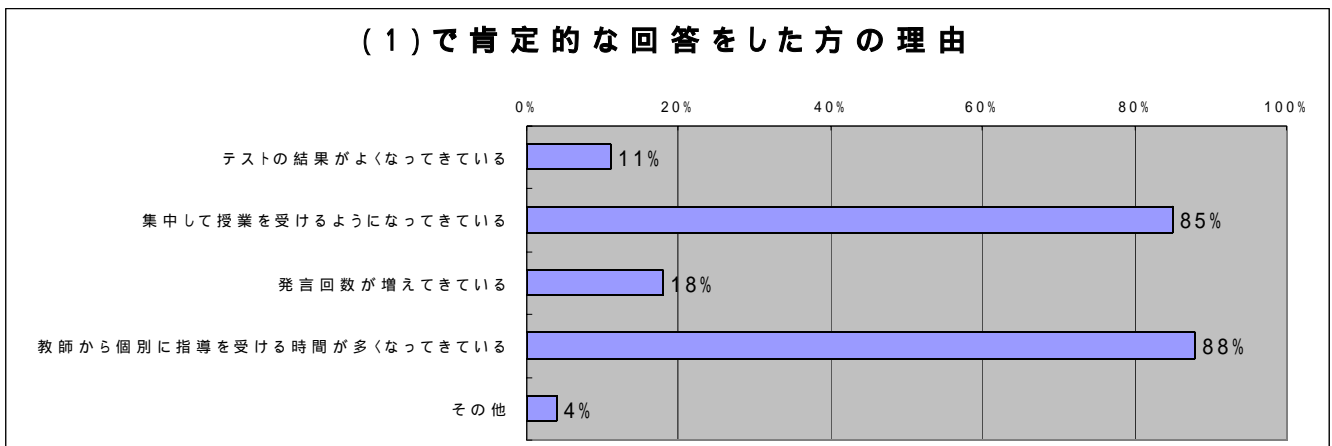


全ての学校長が、「すこやかサポート」制度が、学習面での効果的があると思っている。導入されて2年目になるが、その必要性が増してきている。

1 - (2) (1)で肯定的な回答をした人の理由

上記(1)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思えますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで印を付けてください。(複数回答可)(N = 139)

ア	テストの結果がよくなってきている	15 (人)
イ	集中して授業を受けるようになってきている	118
ウ	発言回数が増えてきている	25
エ	教師から個別に指導を受ける時間が多くなってきている	123
オ	その他	5

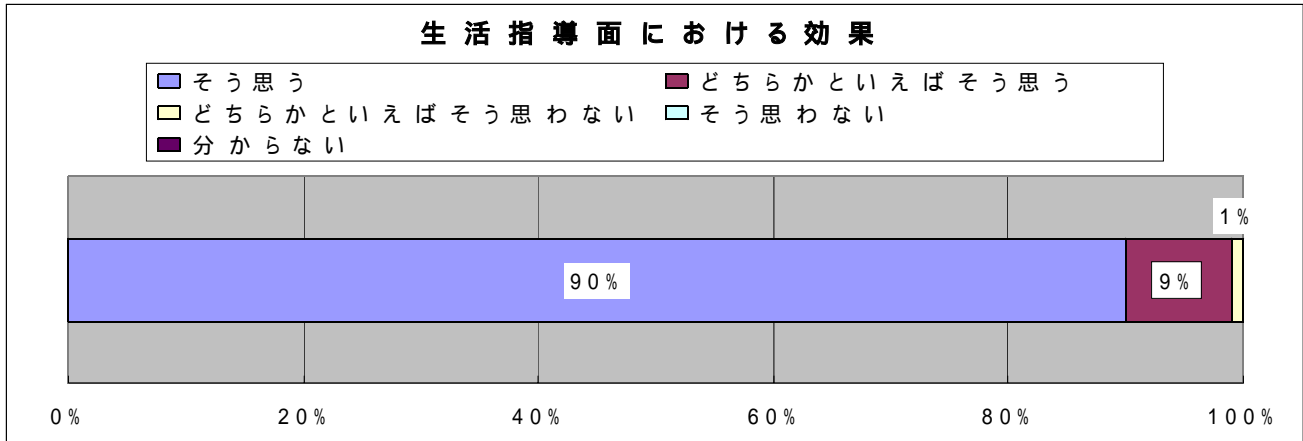


「すこやかサポート」の学習面に関する効果として、「教師から個別に指導を受ける時間が多くなってきている」(88%)、「集中して授業を受けるようになってきている」(85%)の二つが上位にあげられている。

1 - (3) 「すこやかサポート」制度の生活指導面における効果

「すこやかサポート」制度は、生活指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 139)

ア	そう思う	126 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	12
ウ	どちらかといえばそう思わない	1
エ	そう思わない	0
オ	分からない	0

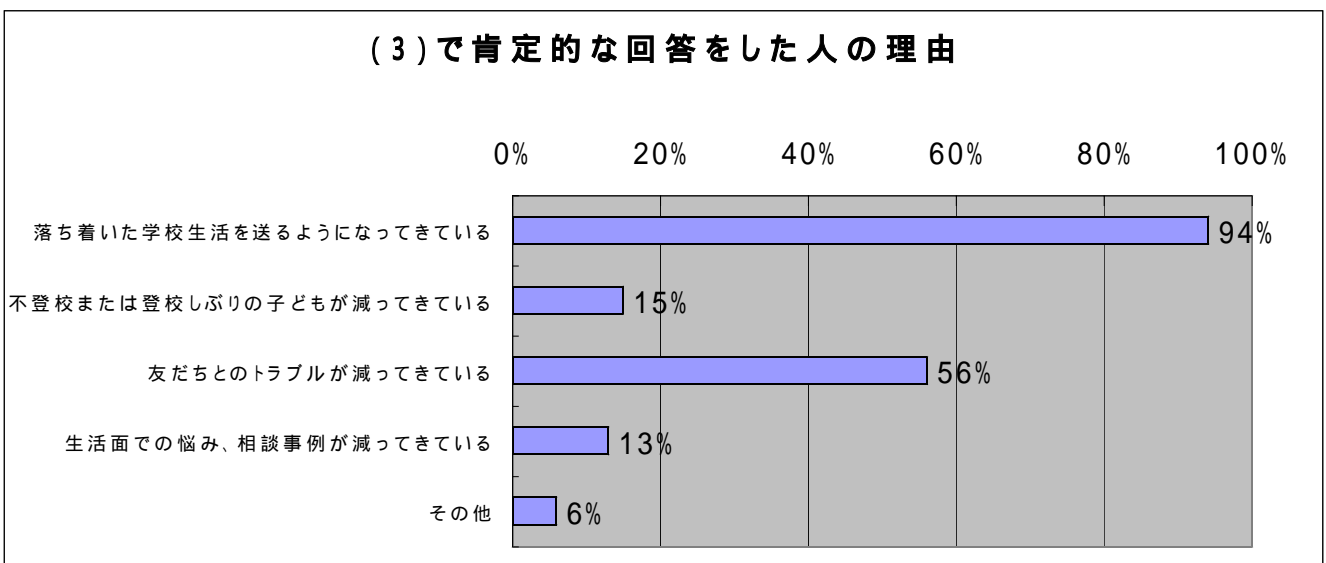


ほとんどの学校長が、「すこやかサポート」制度が生活指導面で効果があると思っている。

1 - (4) 上記(3)で肯定的な回答をした人の理由

上記(3)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思いますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで印を付けてください。(複数回答可)(N = 138)

ア	落ち着いた学校生活を送るようになってきている	131 (人)
イ	不登校または登校しぶりの子どもが減ってきている	21
ウ	友だちとのトラブルが減ってきている	78
エ	生活面での悩み、相談事例が減ってきている	18
オ	その他()	9

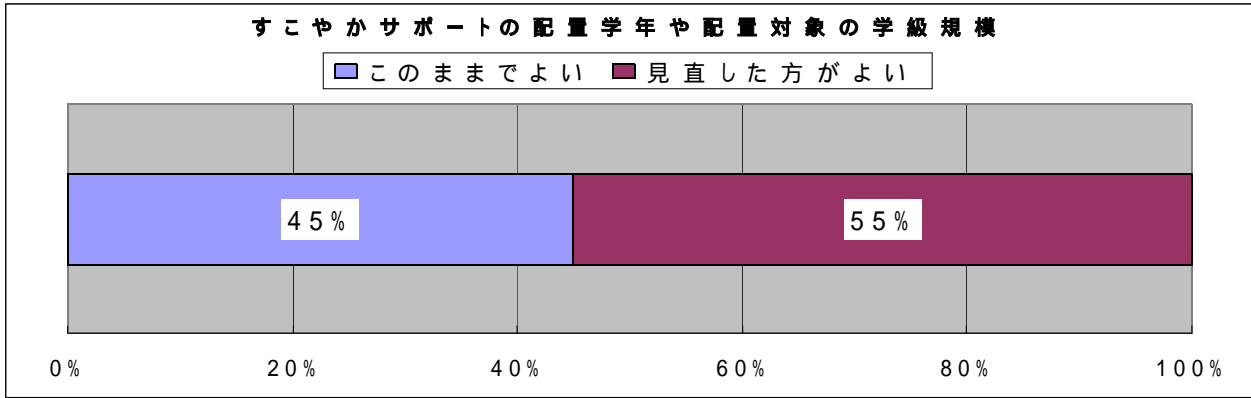


「すこやかサポート」の生活面に関する効果として、「落ち着いた学校生活を送るようになってきている」(94%)が多く、次に「友だちとのトラブルが減ってきている」(56%)となっている。

1 - (5) すこやかサポートの配置学年や配置対象の学級規模

今年度は、25人を超す1年生の学級と35人を超す2年生の学級にすこやかサポートの先生を配置しています。この配置学年や配置対象の学級規模についてどう思いますか。あなたの考えに近い方を選び、印を付けてください。(N = 139)

- | | |
|------------|--------|
| ア このままでよい | 62 (人) |
| イ 見直した方がよい | 77 |



「すこやかサポート」の配置について、見直した方がよいと思っている学校長が、半数を超えている。現状は、25人を超す第1学年の学級と35人を超す第2学年の学級に配置しているが、更に見直しをかけてほしいと感じている学校長が多い。

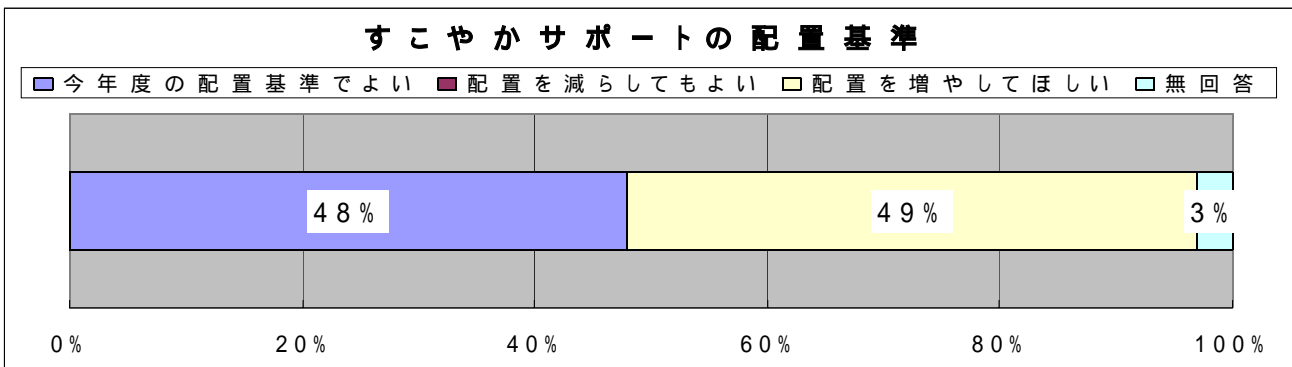
1 - (6) 見直した方がよいと思っている人の理由

- ・ 2年生も25人超学級への配置
- ・ 2年生は30人超学級への配置
- ・ 3年生以上も30人超学級への配置
- ・ 1年は20人超、2年は25人超学級への配置
- ・ 1年は20人超、2年は30人超学級への配置
- ・ 2、3年生は30人超学級への配置

1 - (7) すこやかサポートの配置基準

今年度は、配置基準について1~2学級に1人、3~4学級に2人、5学級以上に3人という基準で配置していますがこれについてどう思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 139)

- | | |
|---------------|--------|
| ア 今年度の配置基準でよい | 67 (人) |
| イ 配置を減らしてもよい | 0 |
| ウ 配置を増やしてほしい | 68 |
| 無回答 | 4 |



「今年度の配置基準でよい」(48%)と「配置を増やしてほしい」(49%)と思っている学校長がほぼ同じくらいである。

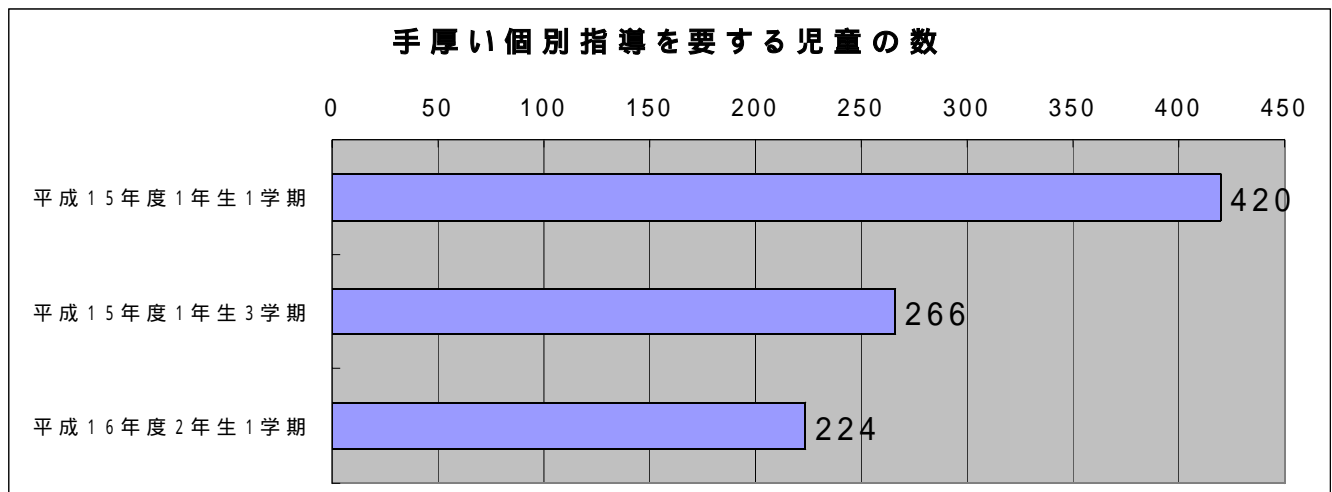
2 - (1) - 手厚い個別指導を要する児童の数

(2 - (1) ~ 2 - (3) までの調査対象校は、「すこやかサポート」を昨年度第 1 学年で配置され、引き続き今年度第 2 学年で配置されている 4 3 校とする)

学習内容の理解に時間のかかる児童に対する個別指導にかかわって、手厚い個別指導を要する児童の数と「すこやかサポート」制度の活用の効果についてご記入願います。(N = 4 3)

手厚い個別指導を要する児童の数を記入願います。

平成 1 5 年度 第 1 学年 1 学期	4 2 0 (人)
平成 1 5 年度 第 1 学年 3 学期	2 6 6
平成 1 6 年度 第 2 学年 1 学期	2 2 4

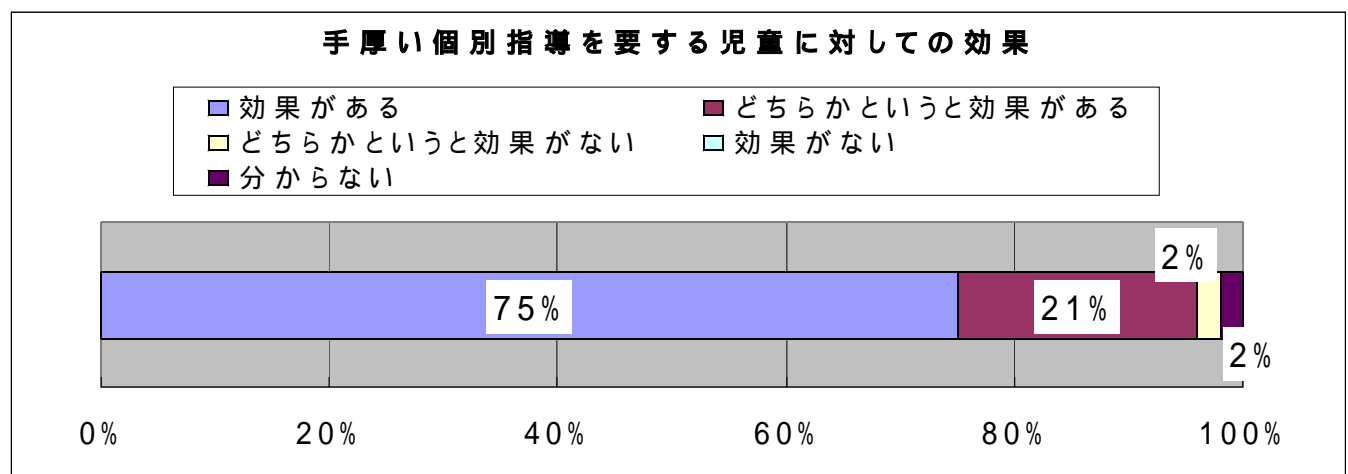


手厚い個別指導を要する児童の数が、昨年度の 1 学期は 4 2 0 人、3 学期は 2 6 6 人、今年度の 1 学期は 2 2 4 人と確実に減ってきている。

2 - (2) - 手厚い個別指導を要する児童に対しての効果

「すこやかサポート」制度は、手厚い個別指導を要する児童の数を減らすのに効果があると思いますか。(N = 4 3)

ア 効果がある	3 2 (人)
イ どちらかというの効果がある	9
ウ どちらかというの効果がない	1
エ 効果がない	0
オ 分からない	1



「すこやかサポート」が手厚い個別指導を要する児童に対して「効果がある」(7 5 %)、「どちらかというの効果がある」(2 1 %)となっており、ほとんどの学校長が効果があると思っている。

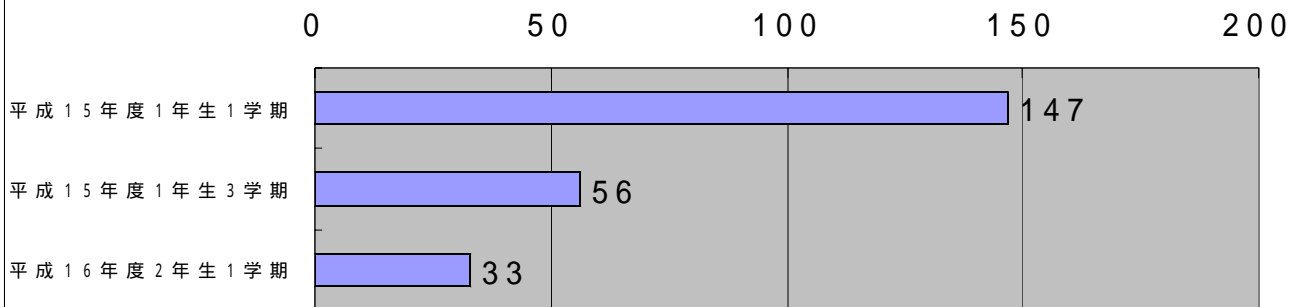
2 - (2) - 4 5 分間座席についていることが難しい児童の数

4 5 分間座席に着いていることが難しい児童の数と「すこやかサポート」制度の活用の効果についてご記入願います。(N = 4 3)

4 5 分間座席に着いていることが難しい児童の数をご記入願います。

平成 1 5 年度 第 1 学年 1 学期	1 4 7 (人)
平成 1 5 年度 第 1 学年 3 学期	5 6
平成 1 6 年度 第 2 学年 1 学期	3 3

4 5 分間座席についていることが難しい児童の数



4 5 分間座席についていることが難しい児童の数が、昨年度の 1 学期は 1 4 7 人、3 学期は 5 6 人、今年度の 1 学期は 3 3 人と確実に減ってきている。

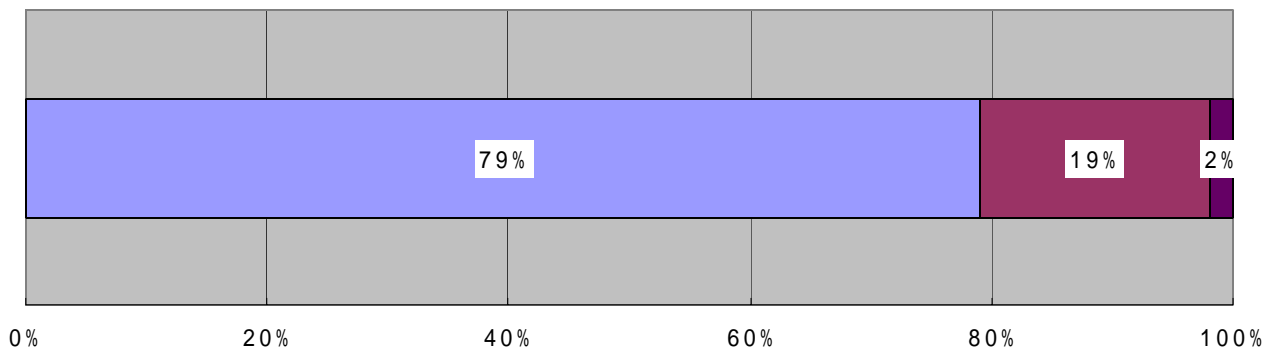
2 - (2) - 4 5 分間座席についていることが難しい児童に対しての効果

「すこやかサポート」制度は、4 5 分間座席についていることが難しい児童を減らすのに効果があると思いますか。(4 5 分間座席についていることが難しい児童がいない学校を除くので N = 4 2)

ア 効果がある	3 3 (人)
イ どちらかというと効果がある	8
ウ どちらかというと効果がない	0
エ 効果がない	0
オ 分からない	1

4 5 分間座席についていることが難しい児童に対しての効果

■ 効果がある ■ どちらかというと効果がある □ どちらかというと効果がない
□ 効果がない ■ 分からない



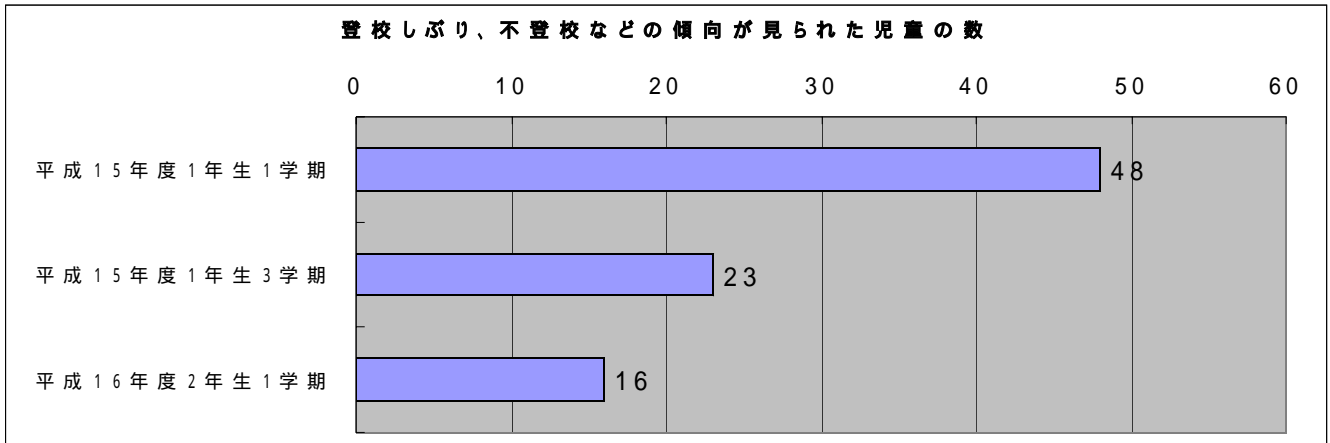
「すこやかサポート」が 4 5 分間座席についていることが難しい児童に対して「効果がある」(7 9 %) 「どちらかというと効果がある」(1 9 %) となっており、ほとんどの学校長が効果があると思っている。

2 - (3) - 登校しぶり、不登校などの傾向が見られた児童の数

登校しぶり、不登校などの傾向がみられた児童の数と「すこやかサポート」制度の活用の効果についてご記入願います。(N = 4 3)

登校しぶり、不登校などの傾向がみられた児童の数をご記入願います。

平成 1 5 年度	第 1 学年 1 学期	4 8 (人)
平成 1 5 年度	第 1 学年 3 学期	2 3
平成 1 6 年度	第 2 学年 1 学期	1 6

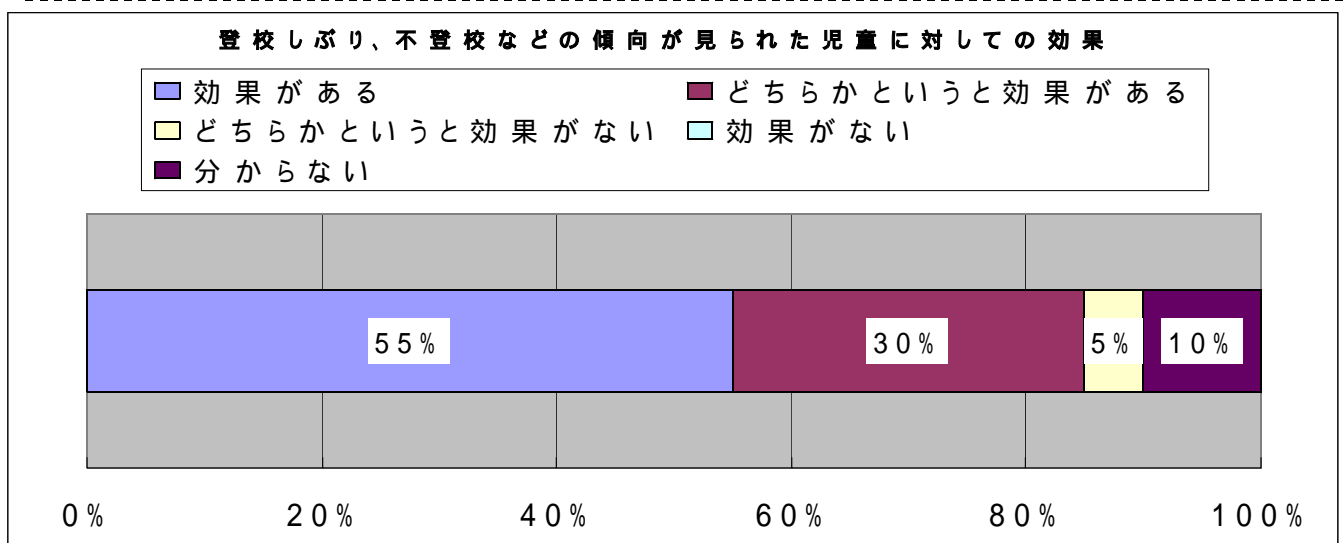


登校しぶり、不登校などの傾向が見られた児童の数は、昨年度の 1 学期は 4 8 人、3 学期は 2 3 人、今年度の 1 学期は 1 6 人と確実に減ってきている。

2 - (3) - 登校しぶり、不登校などの傾向が見られた児童に対しての効果

「すこやかサポート」制度は、登校しぶり、不登校などの傾向が見られた児童を減らすのに効果があると思いますか。(登校しぶり、不登校などの傾向が見られた児童がいない学校を除くので N = 4 0)

ア	効果がある	2 2 (人)
イ	どちらかというと効果がある	1 2
ウ	どちらかというと効果がない	2
エ	効果がない	0
オ	分からない	4



「すこやかサポート」が登校しぶり、不登校などの傾向が見られた児童に対して「効果がある」(5 5 %) 「どちらかというと効果がある」(3 0 %) との回答が多く、8 5 % の学校長が効果があると思っている。効果がないと思っている学校長は 5 % にとどまっている。

3 「すこやかサポート」による指導を行っての成果と課題

成果

- ・入学当初の児童の細かい動きまでサポートされることにより、学校生活への適応が速やかに行われた。
- ・他の児童と著しく学習状況が異なる児童に対し、その子に適した指導をすることができ、能力の向上が図られた。
- ・様々なトラブルにも対応可能。
- ・個々の児童に指導が行き渡り、児童理解に役立っている。
- ・児童が授業に集中できる。
- ・校外活動などの安全が図られる。
- ・基礎的な学習内容では、じっくり時間をかけて分かる授業を展開できる。
- ・2人の先生に見てもらえるので安心して学校生活が送れる。
- ・生活面での問題が少なくなっている。
- ・複数の先生が観察、評価するので児童理解もよくできる。
- ・集団生活への適応がよくできた。
- ・集団生活への不適応傾向児童の個別指導の充実が図られた。
- ・担任が全体指導に集中できるため、授業を円滑に進めることができる。
- ・規律を守れない児童やADHD児と思われる児童へしっかり対応できた。
- ・休み時間にも子ども達に目が行き届き、向き合える時間が多くなり学習指導にも成果がでる。

課題

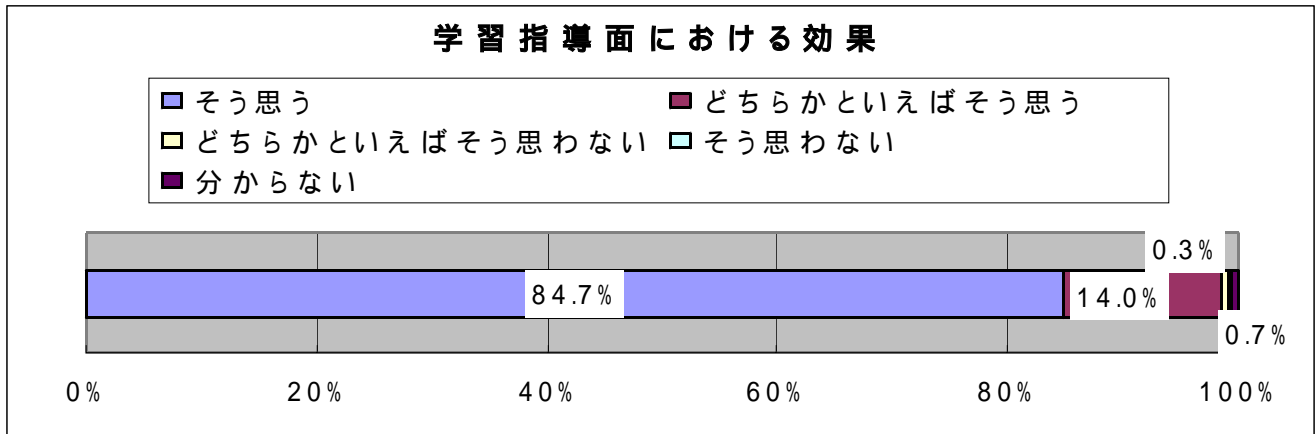
- ・打ち合わせ時間の確保が難しい。
- ・常時、学級に配置される体制であって欲しい。
- ・1学級に1人の配置が望ましい。
- ・講師の資質（指導力）向上のため研修の機会も考えていただきたい。
- ・児童の登校日は出勤できるように日数の拡大を図って欲しい。
- ・年齢や経験による差が大きい。
- ・学級担任と勤務態様が異なるので、全体的な視野に立った指導という点では不十分である。
- ・学習指導面での効果をさらに高めるためには、打ち合わせの時間設定が必要である。
- ・すこやかサポート教員にすぐ援助を求める傾向があり、児童の自主、自立の姿勢も配慮しながら指導したい。

〔担当職員用〕 336人

4 - (1) 「すこやかサポート」制度の学習指導面における効果

「すこやかサポート」制度は、学習指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 336)

ア	そう思う	285 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	47
ウ	どちらかといえばそう思わない	1
エ	そう思わない	1
オ	分からない	2

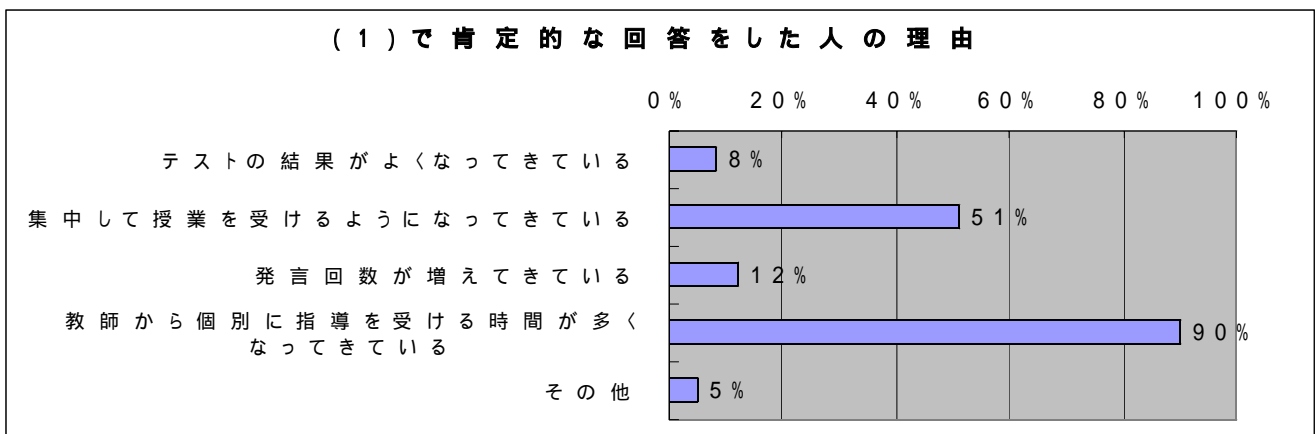


ほとんどのすこやかサポートが入っている学級の担任は、「すこやかサポート」制度が学習面において効果があると思っている。効果がないと考えている担任は、2人しかいなかった。

4 - (2) (1)で肯定的な回答をした人の理由

上記(1)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思いますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで印を付けてください。(複数回答可)(N = 332)

ア	テストの結果がよくなってきている	25 (人)
イ	集中して授業を受けるようになってきている	170
ウ	発言回数が増えてきている	40
エ	教師から個別に指導を受ける時間が多くなってきている	297
オ	その他	16

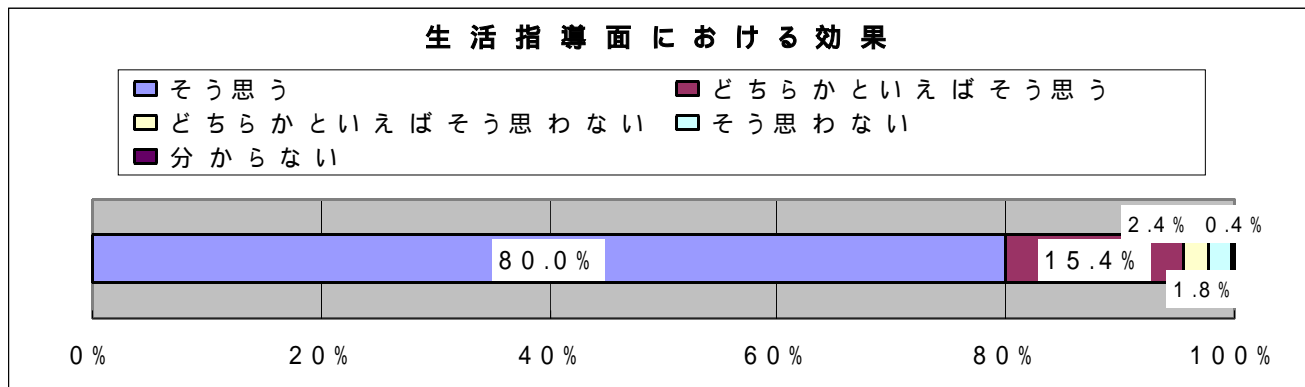


「すこやかサポート」の学習面に関する効果として、「教師から個別に指導を受ける時間が多くなってきている」(90%)、「集中して授業を受けるようになってきている」(51%)の二つが上位にあげられている。学校長と同じような回答であった。

4 - (3) 「すこやかサポート」の生活指導面における効果

「すこやかサポート」制度は、生活指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 3 3 6)

ア	そう思う	2 6 9 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	5 2
ウ	どちらかといえばそう思わない	8
エ	そう思わない	6
オ	分からない	1

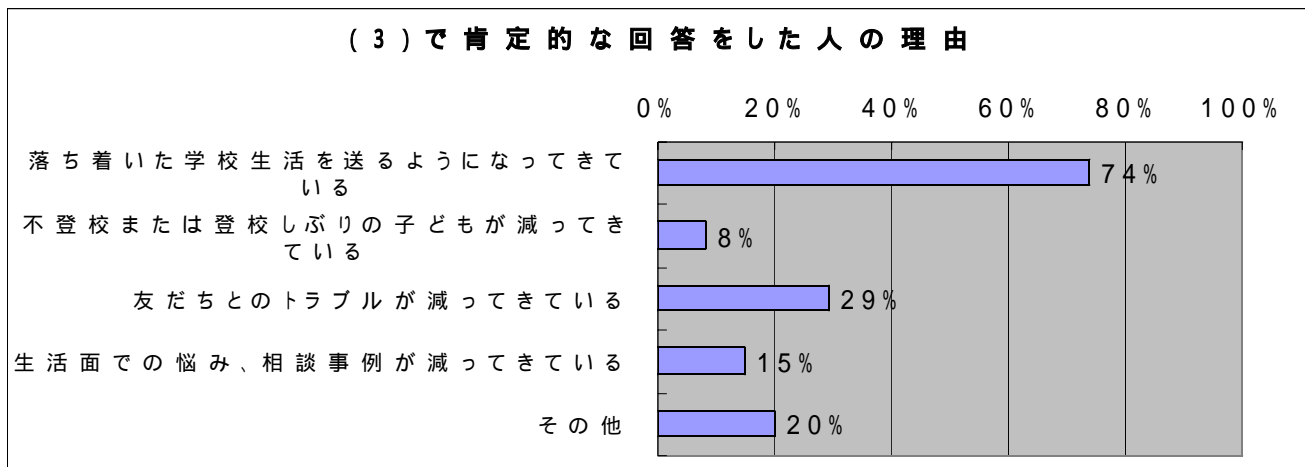


「すこやかサポート」制度が生活指導面で効果があると考えている担当が、「そう思う」(8 0 . 0 %) 「どちらかといえばそう思う」(1 5 . 4 %) と 9 5 % を越えるが、学習面での効果とくらべると効果がないと考えている担当が多い。

4 - (4) (3) で肯定的な回答をした人の理由

上記(3)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思われますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで印を付けてください。(複数回答可)(N = 3 2 1)

ア	落ち着いた学校生活を送るようになってきている	2 4 0 (人)
イ	不登校または登校しぶりの子どもが減ってきている	2 7
ウ	友だちとのトラブルが減ってきている	9 4
エ	生活面での悩み、相談事例が減ってきている	4 9
オ	その他	6 6



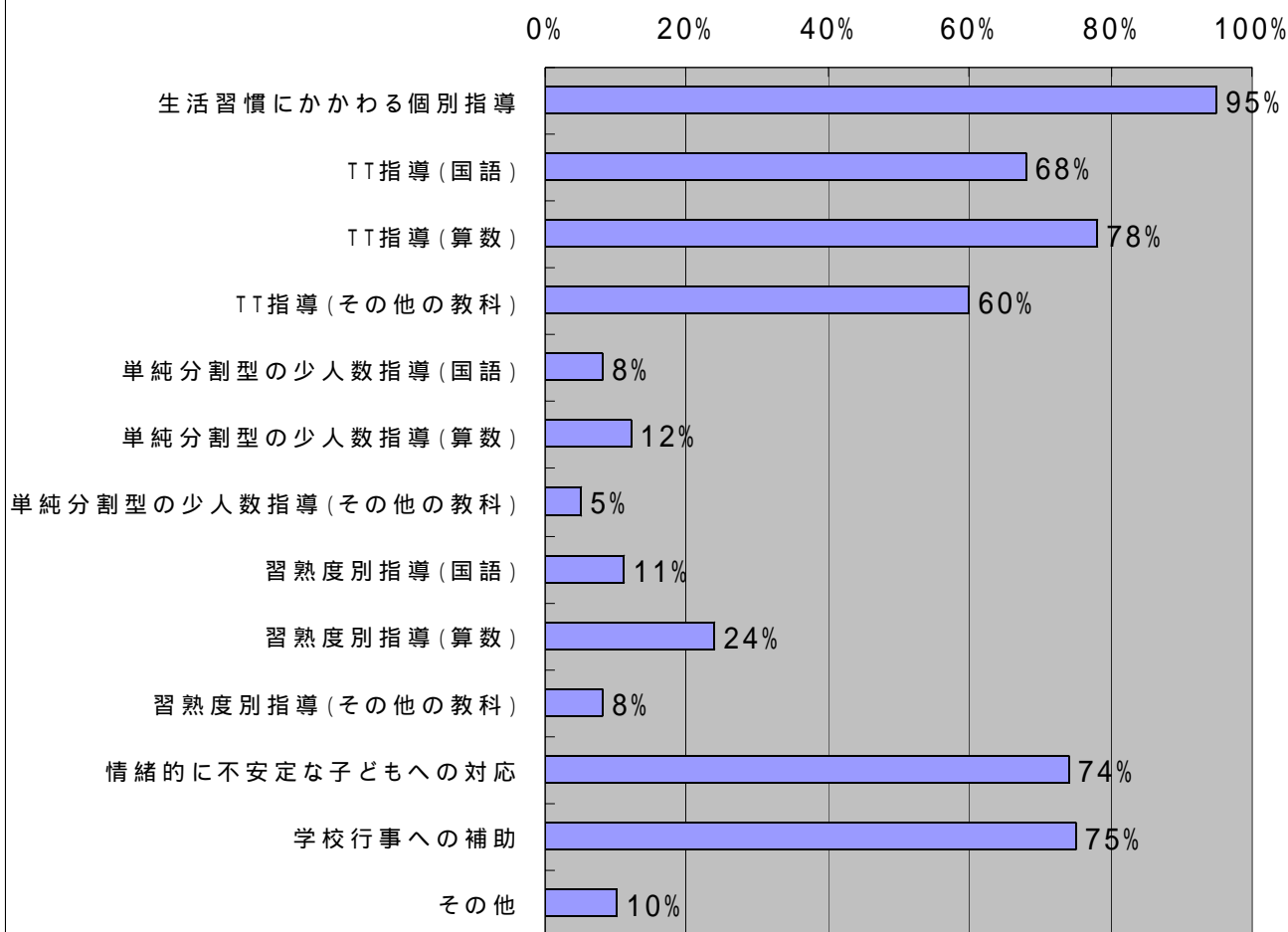
「すこやかサポート」の生活面に関する効果として、「落ち着いた学校生活を送るようになってきている」(7 4 %) が多く、次に「友だちとのトラブルが減ってきている」(2 9 %) となっている。学校長の回答と同じような傾向にあるが、学校長の回答よりその比率は低い。

5 - (1) 「すこやかサポート」の活用場面

「すこやかサポート」制度を、特にどのような場面で活用しましたか。次の中から該当するものをすべて選び、印を付けてください。(複数回答可)(N = 336)

ア	生活習慣にかかわる個別指導(トイレ 給食 清掃 安全等)	318人
イ	教科におけるTT指導(更に下記から選択)	
	実施した教科 (ア) 国語 229人 (イ) 算数 263人 (ウ) その他 203人	
ウ	教科における出席番号などで分ける単純分割型の少人数指導	
	実施した教科 (ア) 国語 26人 (イ) 算数 39人 (ウ) その他 18人	
エ	教科における習熟度別指導(更に下記から選択)	
	実施した教科 (ア) 国語 37人 (イ) 算数 80人 (ウ) その他 26人	
オ	情緒的に不安定な子ども等への対応 (ADHD 児と思われる児童、LD 児と思われる児童、 集中力に欠ける子ども等)	248人
カ	学校行事の補助	253人
ク	その他	32人

「すこやかサポート」の活用場面



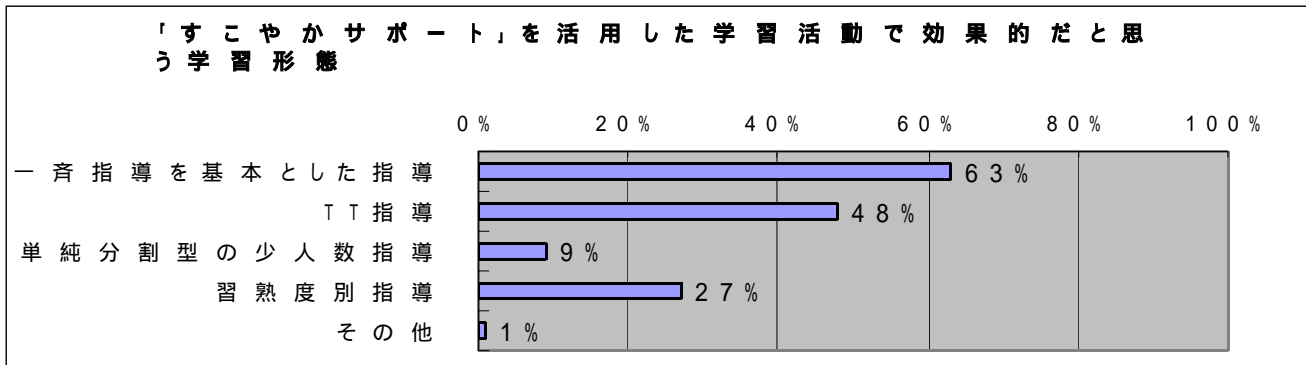
「すこやかサポート」の活用場面として、生活面では、「生活習慣にかかわる個別指導」(95%)が多く、次に、「学校行事への補助」(75%)「情緒的に不安定な子どもへの対応」(74%)となっている。生活面での活用が多くなされている。

また、学習面では、TT指導での活用が多くなっている。少人数指導や習熟度別指導での活用はそれほどなされていない。

5 - (2) 「すこやかサポート」を活用した学習活動で効果的だと思う学習形態

「すこやかサポート」制度を活用した学習活動で、どのような学習形態による指導が、効果的だと思いますか。(複数回答可)(N = 336)

ア	一斉指導を基本とした指導	212 (人)
イ	TT指導	160
ウ	教科における出席番号などで分ける単純分割型の少人数指導	8
エ	習熟度別指導	92
オ	その他(2



「すこやかサポート」を活用した学習活動で効果的だと思う学習形態は、「一斉指導を基本とした指導」(63%)が一番多く、次に「TT指導」(48%)が多くなっている。2 - (1)の活用場面と同じような傾向にある。

6 「すこやかサポート」の効果

- ・低学年における生活指導、学習指導の充実
- ・担任の視点とはまた違った観点から児童を把握できる。
- ・相談相手が増えることで、児童の心の安定が図られる。
- ・学習の遅れがちな子どもや作業の遅れがちな子どもに対応できる。
- ・音楽で、一人がピアノを弾き、もう一人が児童のそばで歌を聴いたり、リズムを数えたりできる。
- ・入学間もない子どもたちの不安を取り除いてもらえる。
- ・LD児、ADHD児と思われる児童への個別指導ができる。
- ・給食や清掃指導など担任の目が届かないところをサポートできる。
- ・学年全員の児童を把握してもらえるので、子どもたちも安心して接することができる。
- ・時には一緒に、または分担して指導に当たることによって、児童の着実な成長を期待できる。
- ・低学年児童は、身辺処理能力の個人差が大きいので、サポートしてもらうことで、学校生活に徐々に適応していく。
- ・学級全体がほぼ同じペースで活動を進める事ができる。
- ・事故、病気等の発生時に手分けしながら対処する事ができる。
- ・じっといすに座ってられない児童や話を聞く事ができない児童に声をかけてもらい、授業に集中させてもらうことができた。
- ・児童は、授業で分からないときには、いつでも聞けるという安心感を持って学習に取り組むことができる。
- ・多くの場面で声をかけてもらうことができ、児童の生活や学習に安心感が生まれる。
- ・基本的な生活習慣が身に付いていない児童が多く、手厚く指導、支援することができた。

7 「すこやかサポート」の効果的な活用方法

- ・事前打ち合わせや事後の反省の時間が十分に確保されることで、さらに効果が上がると考える。
- ・すこやかサポート活用例(単級、複数学級)があればよい。
- ・15:00以降も勤務してもらえると指導についての話し合いが十分でき、効果が上がると思う。
- ・1、2年のみならず3年以上でも効果があると思う。
- ・サポートという考え方だけでなく、その学級の副担任的な指導や勤務体制が望ましいと考える。
- ・せめて児童が下校する時刻までは勤務時間にして欲しい。

すこやかサポート（複式）配置校 23校

【学校長用】

番 号	質 問 項 目
1 - (1)	「すこやかサポート」制度の学習指導面における効果
1 - (2)	1 - (1) で肯定的な回答した人の理由
1 - (3)	「すこやかサポート」制度の生活指導面における効果
1 - (4)	1 - (3) で肯定的な回答をした人の理由
1 - (5)	すこやかサポートの配置対象の学級規模
1 - (6)	見直しをした方がいいと思っている人の理由（記述）
2 - (1)	複式学級における「すこやかサポート」の活用状況（記述）
2 - (2)	複式学級における「すこやかサポート」の効果的な活用方法（記述）
3	複式学級における「すこやかサポート」による指導を行っての成果と課題（記述）

【担当職員用】

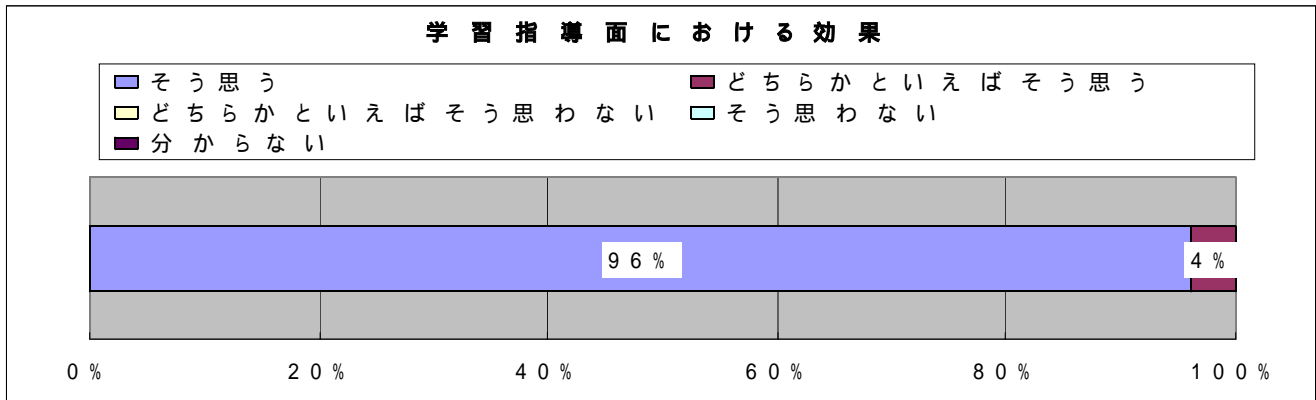
4 - (1)	「すこやかサポート」制度の学習指導面における効果
4 - (2)	4 - (1) で肯定的な回答をした人の理由
4 - (3)	「すこやかサポート」制度の生活指導面における効果
4 - (4)	4 - (3) で肯定的な回答をした人の理由
5	複式学級における「すこやかサポート」の効果（記述）
6	複式学級における「すこやかサポート」の効果的な活用方法（記述）

【学校長用】 23人 (Nは調査対象人数とする)

1 - (1) 学習指導面における効果

「すこやかサポート」制度は、学習指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 23)

ア	そう思う	22 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	1
ウ	どちらかといえばそう思わない	0
エ	そう思わない	0
オ	分からない	0

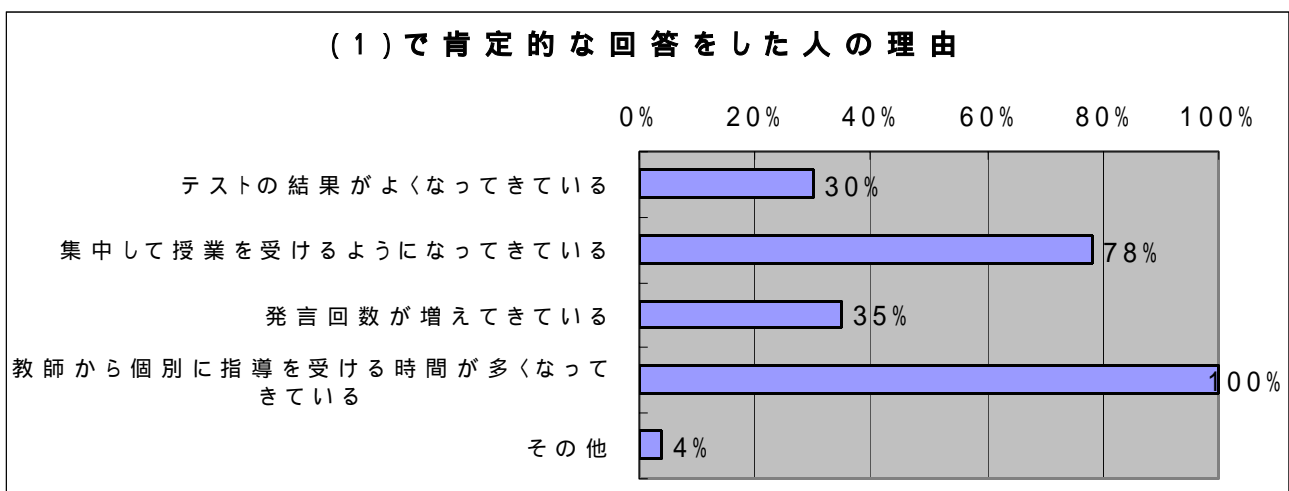


全ての学校長が、複式学級における「すこやかサポート」制度が、学習面で効果的だと思っている。しかも、96%の学校長が強くそう思っている。

1 - (2) (1)で肯定的な回答をした人の理由

上記(1)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思いますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで印を付けてください。(複数回答可)(N = 23)

ア	テストの結果がよくなってきている	7 (人)
イ	集中して授業を受けるようになってきている	18
ウ	発言回数が増えてきている	8
エ	教師から個別に指導を受ける時間が多くなっている	23
オ	その他	1

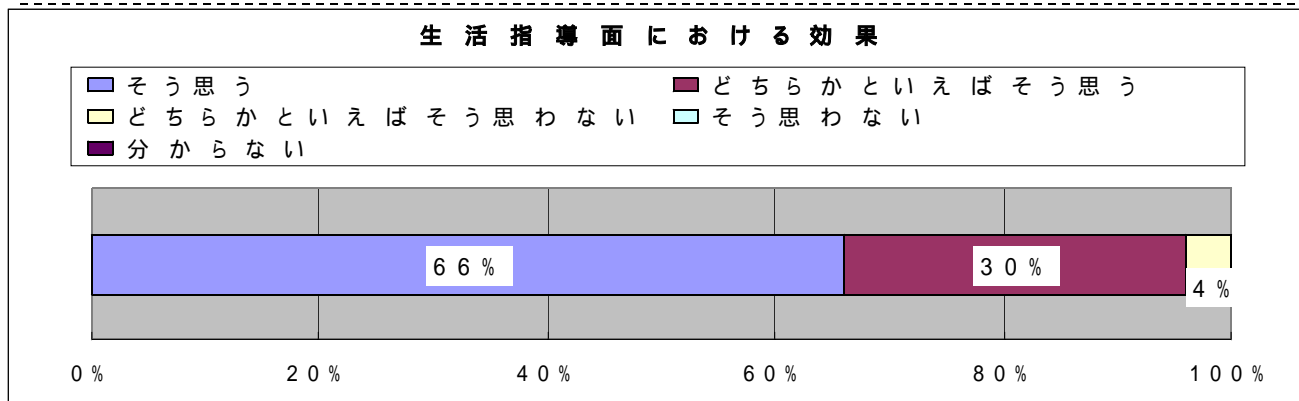


複式学級における「すこやかサポート」の学習面に関する効果として、全ての学校長が「教師から個別に指導を受ける時間が多くなっている」(100%)を選んでいる。また、「集中して授業を受けるようになってきている」(78%)の割合も高くなっている。

1 - (3) 生活指導面における効果

「すこやかサポート」制度は、生活指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 23)

ア そう思う	15 (人)
イ どちらかといえばそう思う	7
ウ どちらかといえばそう思わない	1
エ そう思わない	0
オ 分からない	0

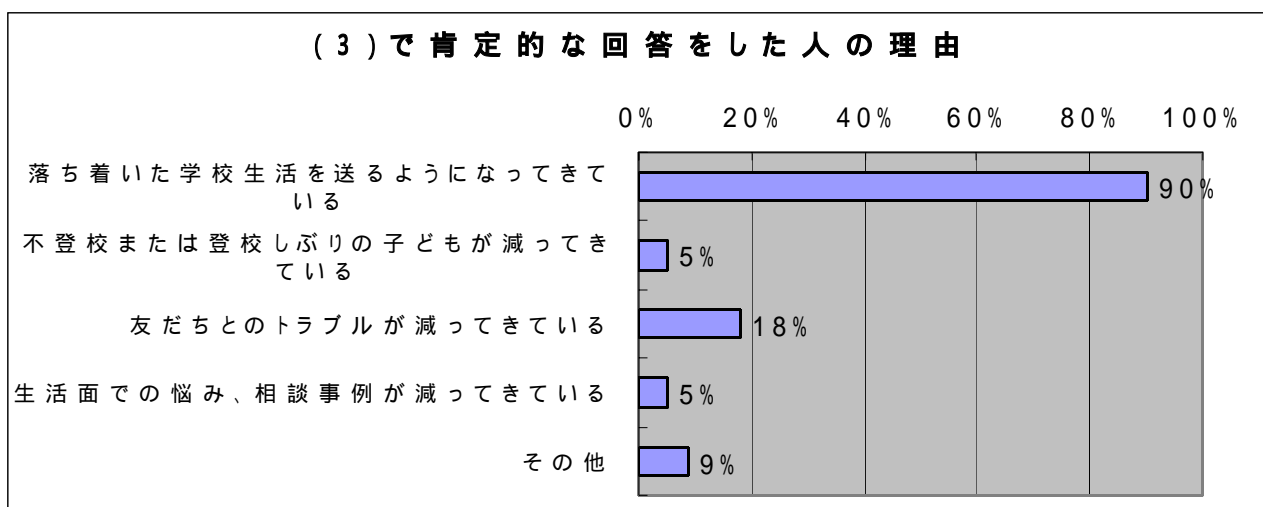


「そう思う」(66%)、「どちらかといえばそう思う」(30%)となっており、ほとんどの学校長が複式学級における「すこやかサポート」について効果があると思っている。

1 - (4) (3)で肯定的な回答をした人の理由

上記(3)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思いますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで印を付けてください。(複数回答可)(N = 22)

ア 落ち着いた学校生活を送るようになってきている	20 (人)
イ 不登校または登校しぶりの子どもが減ってきている	1
ウ 友だちとのトラブルが減ってきている	4
エ 生活面での悩み、相談事例が減ってきている	1
オ その他	2

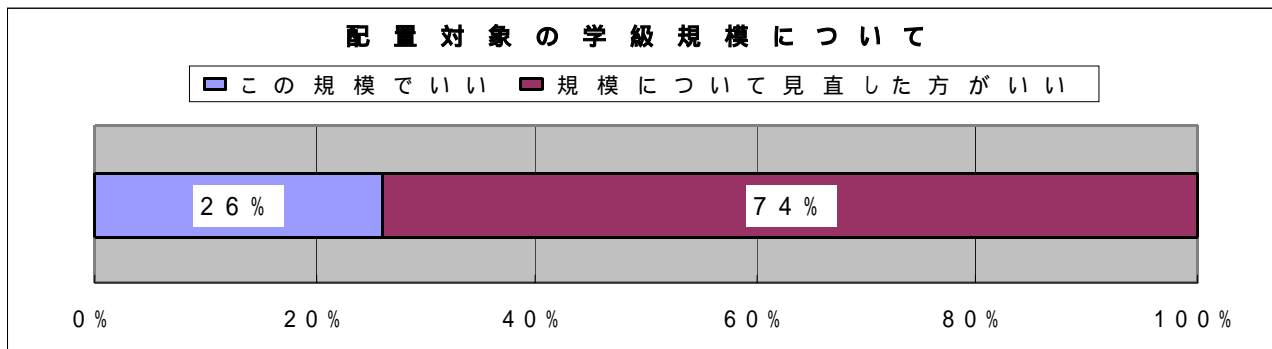


複式学級における「すこやかサポート」の生活面に関する効果として、「落ち着いた学校生活を送るようになってきている」(90%)が一番多くなっている。

1 - (5) すこやかサポートの配置対象の学級規模

今年度は、1学級16人を越す学級に配置しています。この配置対象の学級規模についてどう思いますか。あなたの考えに近い方を選び、印を付けてください。(N = 23)

- ア この規模でいい 6(人)
イ 規模について見直した方がいい 17



複式学級におけるすこやかサポートの配置について見直した方がいいと考えている学校長が7割を超している。現状は1学級16人以上を越す学級に配置しているが、更に見直しをかけてほしいと感じている学校長が多い。

1 - (6) 見直しをした方がいいと思っている人の理由

- ・複式学級2クラス以上の学校への配慮。
- ・2、3年複式や4、5年複式という教育課程が大きく異なる学年の複式学級では配置対象の学校規模を配慮して(下げて)欲しい。飛び複式も同様。
- ・15人を越える学級への配置を希望。
- ・14人を越える学級への配置を希望。
- ・可能な限り配置学級を拡大することを望む。
- ・配置対象学級児童数を下げる。
- ・特別に支援が必要な児童への配慮。
- ・10人を越える学級への配置を希望。
- ・全ての学級への配置。
- ・1年生を含む複式は6人を越える人数に配置。

2 - (1) 複式学級における「すこやかサポート」の活用状況

- ・国語、算数、理科を単式化にし、体育と総合的な学習の時間をＴＴ。
- ・国語、算数を中心とした授業の単式化。
- ・国語、算数、社会、理科の単式指導。
- ・音楽の授業でＴＴ指導。
- ・生活と理科、生活と社会の組み合わせで単式化。
- ・学習の遅れがちな児童への個別指導。
- ・生活、清掃、給食指導における活用。
- ・国語、算数は担任が単式指導、社会、理科、音楽、図工を単学級指導、家庭は複式。
- ・音楽、体育等の個人差に応じた指導の支援。
- ・基礎基本の定着に向けての個別指導の支援。

2 - (2) 複式学級における「すこやかサポート」の効果的な活用方法

- ・授業の単式化
- ・教室を別にしての単式指導
- ・異教科指導の単式化
- ・経験年数等に応じ、ＴＴと単式化を効果的に組み合わせている。
- ・宿泊を伴う校外学習への参加
- ・希望者を継続配置
- ・勤務時間を延ばし、連続して勤務日の設定ができるようにする。
- ・きめ細かな打ち合わせをしながら進めることが大切である。
- ・全校体制で少人数指導のよさを生かす指導方法と評価の在り方について確認しながら実践する。
- ・特別な支援を必要とする児童への対応
- ・授業に教頭も入り、指導の質的向上を図る。そのうえで、習熟度に応じた個別指導を形態を工夫しながら一緒に行う。
- ・各学校に活用方法の裁量を認めて欲しい。

3 複式学級における「すこやかサポート」による指導を行っての成果と課題

成果

- ・基礎・基本の定着を図ることができる。
- ・落ち着いた学校生活を送るようになってきている。
- ・きめ細かな実態把握と指導、評価ができる。
- ・児童一人一人のよさをより発見できる。
- ・教師とのふれあいの場面が増え、子どもたちの心の安定に役立っている。
- ・保護者の安心、協力
- ・国語、算数、社会、理科は教室を別にして単式で指導したことにより、理解度が高まった。

課題

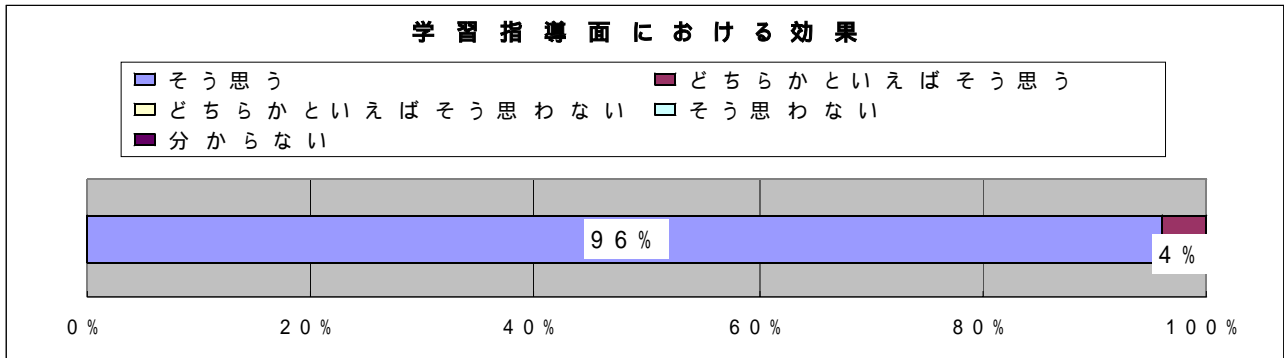
- ・打ち合わせ時間の確保が難しい。(常勤勤務希望)
- ・1学級に1人の配置が望ましい。
- ・講師の資質向上(研修の必要性)
- ・適任者の確保

【担当職員用】 23人

4 - (1) 学習指導面における効果

「すこやかサポート」制度は、学習指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 23)

ア	そう思う	22 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	1
ウ	どちらかといえばそう思わない	0
エ	そう思わない	0
オ	分からない	0

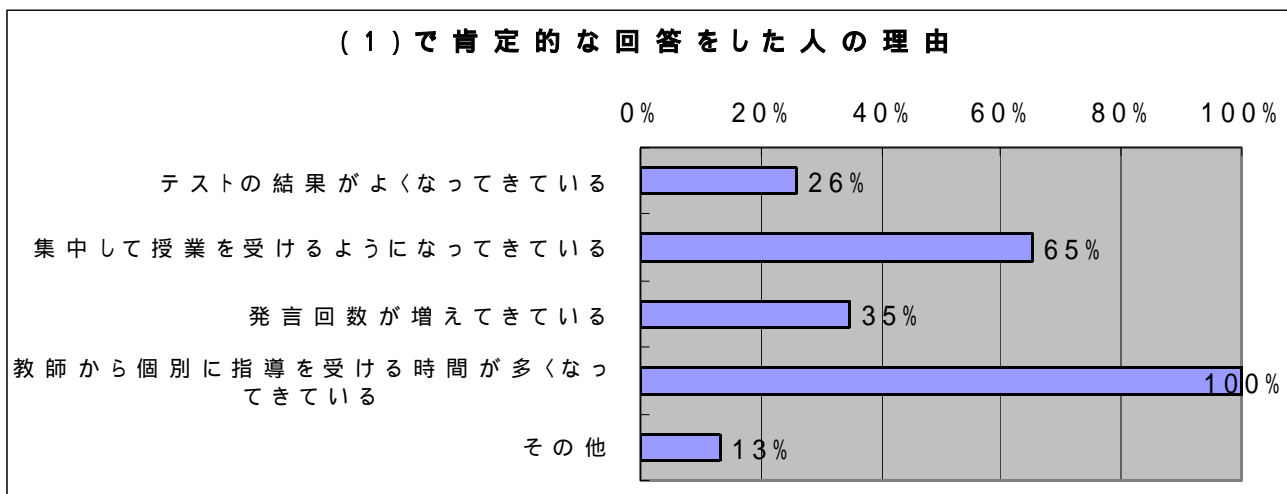


全ての複式学級の担任は、「すこやかサポート」制度が、学習面で効果的だと思っている。学校長と同じ傾向にある。

4 - (2) (1)で肯定的な回答をした人の理由

上記(1)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思いますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで印を付けてください。(複数回答可)(N = 23)

ア	テストの結果がよくなってきている	6 (人)
イ	集中して授業を受けるようになってきている	15
ウ	発言回数が増えてきている	8
エ	教師から個別に指導を受ける時間が多くなっている	23
オ	その他	3

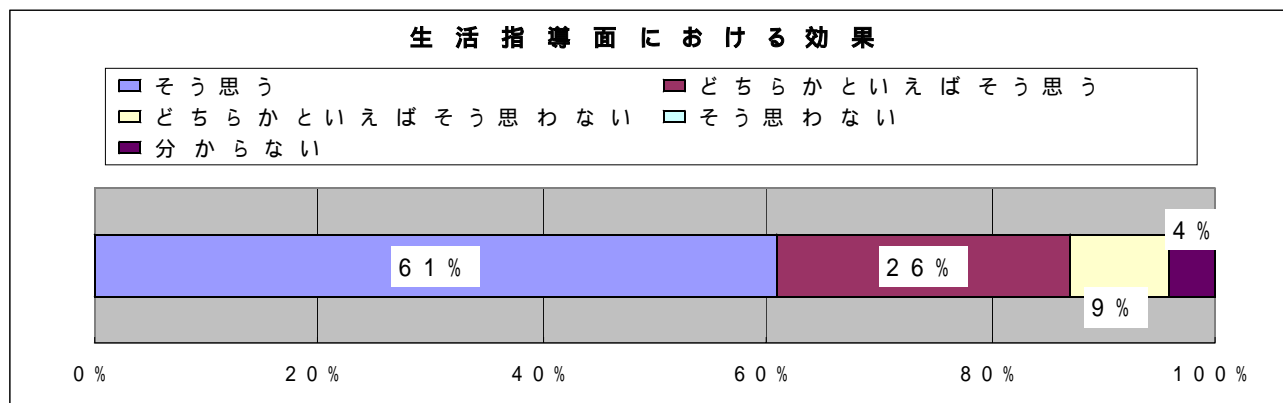


複式学級における「すこやかサポート」の学習面に関する効果として、全ての担任が「教師から個別に指導を受ける時間が多くなってきている」をあげている。次に、「集中して授業を受けるようになってきている」(65%)をあげている。

4 - (3) 生活指導面における効果

「すこやかサポート」制度は、生活指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。(N = 23)

ア	そう思う	14 (人)
イ	どちらかといえばそう思う	6
ウ	どちらかといえばそう思わない	2
エ	そう思わない	0
オ	分からない	1

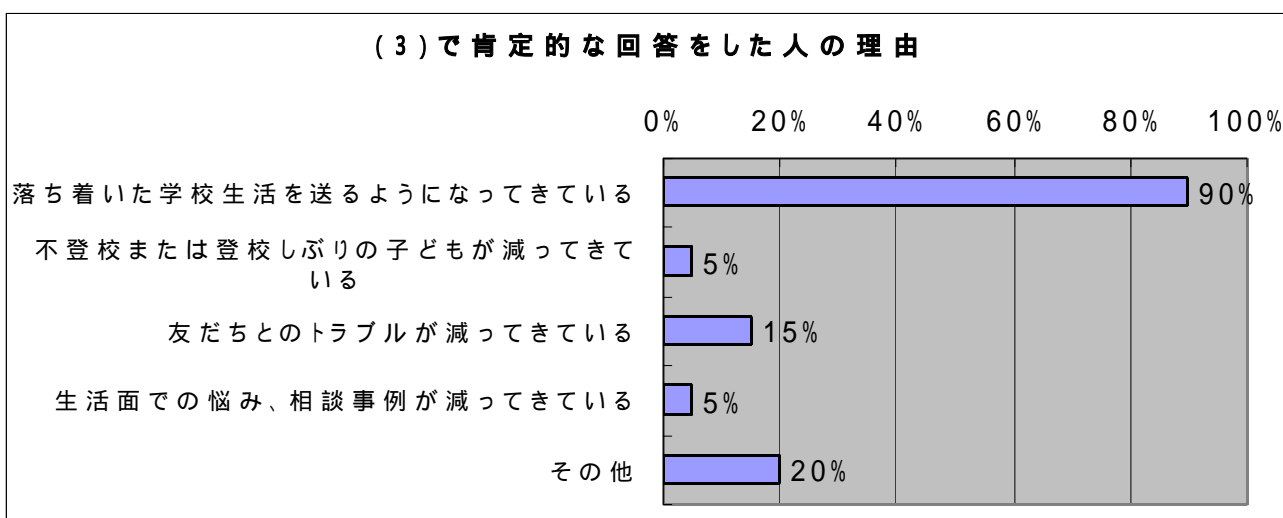


複式学級における「すこやかサポート」制度の生活指導面において効果があると、9割の担任が感じている。学校長の調査結果と同じような傾向がある。

4 - (4) (3) で肯定的な回答をした人の理由

上記(3)について、アまたはイを回答した方のお答え願います。それは、児童のどのような様子から思われますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで印を付けてください。(複数回答可)(N = 20)

ア	落ち着いた学校生活を送るようになってきている	18 (人)
イ	不登校または登校しぶりの子どもが減ってきている	1
ウ	友だちとのトラブルが減ってきている	3
エ	生活面での悩み、相談事例が減ってきている	1
オ	その他	4



複式学級における「すこやかサポート」制度の生活指導面における効果として、担任は「落ち着いた学校生活を送るようになってきている」(90%) を一番にあげている。

5 複式学級における「すこやかサポート」の効果

- ・ 教科に応じて単式化することができる。
- ・ 複数の目で児童を見ることができるので、より深い児童理解ときめ細かな指導ができる。
- ・ 個別学習や習熟度別学習
- ・ 習熟ドリル学習の時間に個別指導ができる。
- ・ 異教科どうしの組み合わせでは効果的である。
- ・ 複式の中でも個人差があるので、個別指導に効果的である。
- ・ 間接指導の時に、その学年を指導してもらえるので、少人数指導の効果が期待できる。
- ・ 特別な支援を必要とする児童に対して大きな効果がある。
- ・ 学級経営もチームワークで効果を示した。
- ・ 児童がより集中して授業に参加できる。
- ・ 国語、算数の時間で十分に指導する事ができ、児童も「楽しい」と感じる事ができるようになった。
- ・ 生活面においても教師と児童のふれあいの場面が増え、子ども達の心の安定に役立っている。
- ・ 教材研究が充実し、児童の学習意欲を高める効果がある。
- ・ T T 指導の時間が多くなることで、児童が質問しやすくなる。

6 複式学級における「すこやかサポート」の効果的な活用方法

- ・ 基礎基本の定着ということで、国語、算数の時間は単式の形で学習できるような活用が望ましい。
- ・ 教科や単元の内容によって、単式指導、T T 指導、個別指導など柔軟に対応することができる。
- ・ できるだけ単式で指導した方が児童の理解が深まる。
- ・ 技術を伴う教科の場合は、T T 指導で入り、個別指導できる体制がよい。
- ・ 午前中だけでも毎日勤務できる体制を望む。
- ・ 事前打ち合わせや事後の反省の時間が十分に確保されることで、さらに効果が上がると考える。(常勤勤務希望)
- ・ 年間勤務日数や週時数が限定されているので、その制約がなければ弾力的に指導に入っていただきたい。
- ・ 修学旅行や宿泊を伴う行事へも同行できることを希望する。

調査用紙

「少人数学級」指定校（小学校）用

調 査 用 紙

この調査は、貴校の少人数学級による指導を行っている学年の児童の様子等についてお聞きし、本県の少人数教育の改善に役立てるものです。

この調査について、学校や個人が特定できるような形で公表することはありませんので、ありのままをお答え下さい。

お忙しいこととは存じますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

必要事項をご記入ください。

教育事務所	立	小学校
少人数学級による指導を行っている学年		学年
少人数指導（習熟度別指導も含む）を行っている学年		学年

- (2) 上記(1)を選んだ理由に 印を付けてください(複数回答可)
- ア 多人数で学習する形態を組織することができる
 - イ 多くの子どもたちの考えを取り上げ、生かすことができる
 - ウ 効率的に学習を進めたり、指導したりすることができる
 - エ 組織的な学習を進めたり、指導したりすることができる
 - オ その他()

4 少人数学級で指導を行った場合、学習指導や生活指導の効果が現れるのは、何年生だと思いますか。また、その学年を選んだ理由について、下の欄にご記入願います。(複数学年回答可)

学 習 指 導		生 活 指 導	
学 年	理 由	学 年	理 由

5 少人数学級での指導と少人数指導(習熟度別指導も含む)の指導の効果についてお答え願います。
 (1) 学習指導について、少人数学級より教科の特性によって学習形態を変えることのできる少人数指導の方が、指導の効果が現れやすいと思いませんか。

- ア そう思う
- イ どちらかといえばそう思う
- ウ どちらかといえばそう思わない
- エ そう思わない
- オ 分からない

(2) 上記(1)でアまたはイと回答した方のみお答え願います。指導の効果が現れやすいと思う学年に 印を付けてください。(複数回答可)

- ア 1学年 イ 2学年 ウ 3学年 エ 4学年 オ 5学年 カ 6学年

6 学校経営上、少人数学級や少人数指導の成果と課題についてご記入願います。

	少 人 数 学 級	少 人 数 指 導
成 果		
課 題		

7 少人数指導や少人数学級に関する効果的な活用方法等についてご意見がありましたらご記入願います。

ご協力、ありがとうございました。

〔担当職員用〕

小学校

担当学年 年

1 少人数学級の学習効果についてお答え願います。

(1) 少人数学級の方が、通常の人数の学級における指導と比べて、学習効果があると思われる教科及び学習活動に 印を付けてください。(複数回答可)

ア 国語 イ 社会 ウ 算数 エ 理科 オ 音楽 カ 図画工作
キ 家庭 ク 体育 ケ 道徳 コ 学級活動 サ 総合的な学習の時間
シ 学校行事 ス その他()

(2) 上記(1)を選んだ理由に 印を付けてください。(複数回答可)

ア 指導方法の工夫・改善ができる
イ きめ細かな指導をすることができる
ウ 子どもよさを多面的に評価できる
エ 個々を生かす場面を多く設定できる
オ その他()

2 少人数学級の生活指導上の効果についてお答え願います。

(1) 少人数学級での指導は、通常の人数の学級における指導と比べて、生活指導上、指導の効果が現れやすいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、 印を付けてください。

ア そう思う
イ どちらかといえばそう思う
ウ どちらかといえばそう思わない
エ そう思わない
オ 分からない

(2) 上記(1)について、アまたはイと回答した方のみお答え願います。どのようなことからそう思いましたか。例にならい下の欄にご記入願います。

例 友だちとのトラブルにすぐに対応できる

3 多人数(35人～40人程度)集団の学習効果についてお答え願います。

(1) 多人数集団の方が学習効果があると思われる教科等の学習活動に 印を付けてください。

(複数回答可)

ア 国語 イ 社会 ウ 算数 エ 理科 オ 音楽 カ 図画工作
キ 家庭 ク 体育 ケ 道徳 コ 学級活動 サ 総合的な学習の時間
シ 学校行事 ス その他()

(2) 上記(1)を選んだ理由に 印を付けてください(複数回答可)

ア 多人数で学習する形態を組織することができる
イ 多くの子どもたちの考えを取り上げ、生かすことができる
ウ 効率的に学習を進めたり、指導したりすることができる
エ 組織的な学習を進めたり、指導したりすることができる
オ その他()

- 4 少人数学級で指導を行った場合、学習指導や生活指導の効果が現れるのは、何年生だと思いますか。また、その学年を選んだ理由について、下の欄にご記入願います。(複数学年回答可)

学 習 指 導		生 活 指 導	
学 年	理 由	学 年	理 由

- 5 少人数**学級**での指導と少人数**指導**(習熟度別指導も含む)の指導の効果についてお答え願います。

- (1) 学習指導について、少人数学級より教科の特性によって学習形態を変える少人数指導の方が、指導の効果が現れやすいと思われませんか。

- ア そう思う
 イ どちらかといえばそう思う
 ウ どちらかといえばそう思わない
 エ そう思わない
 オ 分からない

- (2) 上記(1)でアまたはイと回答した方のみお答え願います。指導の効果が現れやすいと思う学年に 印を付けてください。(複数回答可)

- ア 1学年 イ 2学年 ウ 3学年 エ 4学年 オ 5学年 カ 6学年

- 6 少人数**学級**や少人数**指導**の成果と課題についてご記入願います。

	少 人 数 学 級	少 人 数 指 導
成 果		
課 題		

- 7 少人数**指導**や少人数**学級**に関する効果的な活用方法等についてご意見がありましたらご記入願います。

ご協力、ありがとうございました。

今年は、さくねんよりも学年の学級が1つ多くなり、1学級の人数が少なくなりました。
このアンケートは、今年のような人数で学習したり、生活したりすることについて、みなさんが感じていることを書いてもらうものです。あてはまる内容に 印をつけてください。

- 1 今年のような学級の数での学習や生活についてこたえてください。
- (1) 学校生活の中で少ない人数(25人～30人程度)で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思う学習やその他の活動に 印を付けてください。(印はいくつ付けてもかまいません)
- ア 国語 イ 社会 ウ 数学 エ 理科 オ 音楽 カ 図画工作 キ 家庭 ク 体育
ケ 道徳 コ 学級会や学級での活動 サ 総合的な学習の時間 シ 学校行事(運動会など)
ス 給食(準備も含めて) セ 休み時間 ソ そうじ
タ その他() チ なし
- (2) 少ない人数(25人～30人程度)で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思う理由に 印を付けてください。(印はいくつ付けてもかまいません)
- ア わかりやすく教えてもらうことができるから
イ くりかえし勉強(練習、実験など)することができるから
ウ わからないところを先生にしつもんしやすいから
エ 発表できる回数が増えるから
オ いろいろな仕事ができるようになるから
カ その他()
- 2 多くの人数(さくねんの学級の数くらい)での学習や生活についてこたえてください。
- (1) さくねんの人数で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思うものに 印を付けてください。(印はいくつ付けてもかまいません)
- ア 国語 イ 社会 ウ 数学 エ 理科 オ 音楽 カ 図画工作 キ 家庭 ク 体育
ケ 道徳 コ 学級会や学級での活動 サ 総合的な学習の時間 シ 学校行事(運動会など)
ス 給食(準備も含めて) セ 休み時間 ソ そうじ
タ その他() チ なし
- (2) 多くの人数(さくねんの学級の数)で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思う理由に 印を付けてください。(印はいくつ付けてもかまいません)
- ア 友だちの考えをたくさん聞くことができるから
イ たくさんの友だちと学習や活動をした方が楽しいから
ウ みんなで協力したり、はげましあったりできるから
エ みんなで仕事を分担することができるから
オ その他()

これで終わりです。ありがとうございました。

1年生の保護者用

この調査は、少人数学級による指導を行っている1年生の児童の様子についてお聞きし、本県の少人数教育の改善に役立てるものです。

この調査について、学校や個人が特定できるような形で公表することはありませんので、ありのままをお答え下さい。

お忙しいこととは存じますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

- (1) あなたのお子様の学年で少人数学級による指導を行うために、通常のクラスの数より1クラス多く編成し、1クラスの人数を減らして授業を進めていることを知っていますか。次の中から該当するものを選び、印を付けてください

ア 知っている

イ 知らない

- (2) このように、小学校1年生において少人数の学級を編成して授業を進めることについてどう思いますか。次の中から該当するものを選び、印を付けてください

ア 望ましい

イ どちらかといえば望ましい

ウ どちらかといえば望ましくない

エ 望ましくない

オ 分からない

- (3) 上記(2)について、アまたはイと回答した方のみお答え願います。そう思う理由について該当するものをすべて選んで 印を付けてください。

ア 担任の先生が一人一人に目をかけてくれる

イ 個別に指導してもらえる回数が増える

ウ トラブルにすぐに対応してもらえる

エ 子どもが先生と話せる機会が増える

オ その他

(

)

- (4) 上記(2)について、ウまたはエと回答した方のみお答え願います。どのようなことからそのように思いましたか。下の欄にご記入願います。

ご協力ありがとうございました

「少人数学級」指定校（中学校）用

調 査 用 紙

この調査は、貴校の少人数学級による指導を行っている学年の生徒の様子等についてお聞きし、本県の少人数教育の改善に役立てるものです。

この調査について、学校や個人が特定できるような形で公表することはありませんので、ありのままをお答え下さい。

お忙しいこととは存じますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

必要事項をご記入ください。

教育事務所	立	中学校
少人数学級による指導を行っている学年		学年
少人数指導（習熟度別指導も含む）を行っている学年		学年

1 少人数学級の学習効果についてお答え願います。

(1) 少人数学級での指導は、通常の人数の学級における指導と比べて、学習面において指導の効果が現れやすいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。

- ア そう思う
- イ どちらかといえばそう思う
- ウ どちらかといえばそう思わない
- エ そう思わない
- オ 分からない

(2) 少人数学級の方が、通常の人数の学級における指導と比べて、学習効果があると思われる教科等の学習活動に印を付けてください。(複数回答可)

- ア 国語
- イ 社会
- ウ 数学
- エ 理科
- オ 音楽
- カ 美術
- キ 保健体育
- ク 技術・家庭
- ケ 外国語
- コ 道徳
- サ 学級活動
- シ 総合的な学習の時間
- ス 学校行事
- セ その他()

(3) 上記(2)を選んだ理由に印を付けてください。(複数回答可)

- ア 指導方法の工夫・改善ができる
- イ きめ細かな指導をすることができる
- ウ 子どもよさを多面的に評価できる
- エ 個々を生かす場面を多く設定できる
- オ その他()

2 少人数学級の生活指導上の効果についてお答え願います。

(1) 少人数学級での指導は、通常の人数の学級における指導と比べて、生活指導上、指導の効果が現れやすいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。

- ア そう思う
- イ どちらかといえばそう思う
- ウ どちらかといえばそう思わない
- エ そう思わない
- オ 分からない

(2) 上記(1)について、アまたはイと回答した方のみお答え願います。どのようなことからそう思いましたか。例にならい下の欄にご記入願います。

例 友だちとのトラブルにすぐに対応できる

3 多人数(35人～40人程度)集団の学習効果についてお答え願います。

(1) 多人数集団の方が学習効果があると思われる教科及び学習活動に印を付けてください。

(複数回答可)

- ア 国語
- イ 社会
- ウ 数学
- エ 理科
- オ 音楽
- カ 美術
- キ 保健体育
- ク 技術・家庭
- ケ 外国語
- コ 道徳
- サ 学級活動
- シ 総合的な学習の時間
- ス 学校行事
- セ その他()

- (2) 上記(1)を選んだ理由に 印を付けてください(複数回答可)
- ア 多人数で学習する形態を組織することができる
 - イ 多くの子どもたちの考えを取り上げ、生かすことができる
 - ウ 効率的に学習を進めたり、指導したりすることができる
 - エ 組織的な学習を進めたり、指導したりすることができる
 - オ その他()

4 少人数学級で指導を行った場合、学習指導や生活指導の効果が現れるのは、何年生だと思いますか。また、その学年を選んだ理由について下の欄にご記入願います。(複数学年回答可)

学 習 指 導		生 活 指 導	
学 年	理 由	学 年	理 由

5 少人数**学級**での指導と少人数**指導**(習熟度別指導も含む)の指導の効果についてお答え願います。
 (1) 学習指導について、少人数学級より教科の特性によって学習形態を変えることのできる少人数指導の方が、指導の効果が現れやすいと思われませんか。

- ア そう思う
- イ どちらかといえばそう思う
- ウ どちらかといえばそう思わない
- エ そう思わない
- オ 分からない

(2) 上記(1)でアまたはイと回答した方のみお答え願います。指導の効果が現れやすいと思う学年に 印を付けてください。(複数回答可)

- ア 1学年
- イ 2学年
- ウ 3学年

6 学校経営上、少人数**学級**や少人数**指導**の成果と課題についてご記入願います。

	少 人 数 学 級	少 人 数 指 導
成 果		
課 題		

7 少人数**指導**や少人数**学級**に関する効果的な活用方法等について、ご意見などがありましたらご記入願います。

ご協力、ありがとうございました。

〔担当職員用〕

中学校

担当学年 年

1 少人数学級の学習効果についてお答え願います。

(1) 少人数学級の方が、通常の人数の学級における指導と比べて、学習効果があると思われる教科等の学習活動に 印を付けてください。(複数回答可)

ア 国語 イ 社会 ウ 数学 エ 理科 オ 音楽 カ 美術 キ 保健体育
ク 技術・家庭 ケ 外国語 コ 道徳 サ 学級活動 シ 総合的な学習の時間
ス 学校行事 セ その他()

(2) 上記(1)を選んだ理由に 印を付けてください。(複数回答可)

ア 指導方法の工夫・改善ができる
イ きめ細かな指導をすることができる
ウ 子どものよさを多面的に評価できる
エ 個々を生かす場面を多く設定できる
オ その他()

2 少人数学級の生活指導上の効果についてお答え願います。

(1) 少人数学級での指導は、通常の人数の学級における指導と比べて、生活指導上、指導の効果が現れやすいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、 印を付けてください。

ア そう思う
イ どちらかといえばそう思う
ウ どちらかといえばそう思わない
エ そう思わない
オ 分からない

(2) 上記(1)について、アまたはイと回答した方のみお答え願います。どのようなことからそう思いましたか。例にならい下の欄にご記入願います。

例 友だちとのトラブルにすぐに対応できる

3 多人数(35人～40人程度)集団の学習効果についてお答え願います。

(1) 多人数集団の方が学習効果があると思われる教科等の学習活動に 印を付けてください。

(複数回答可)

ア 国語 イ 社会 ウ 数学 エ 理科 オ 音楽 カ 美術 キ 保健体育
ク 技術・家庭 ケ 外国語 コ 道徳 サ 学級活動 シ 総合的な学習の時間
ス 学校行事 セ その他()

(2) 上記(1)を選んだ理由に 印を付けてください(複数回答可)

ア 多人数で学習する形態を組織することができる
イ 多くの子どもたちの考えを取り上げ、生かすことができる
ウ 効率的に学習を進めたり、指導したりすることができる
エ 組織的に学習を進めたり、指導したりすることができる
オ その他()

- 4 少人数学級で指導を行った場合、学習指導や生活指導の効果が現れるのは、何年生だと思いますか。また、その学年を選んだ理由について下の欄にご記入願います。（複数学年回答可）

学 習 指 導		生 活 指 導	
学 年	理 由	学 年	理 由

- 5 少人数**学級**での指導と少人数**指導**(習熟度別指導も含む)の指導の効果についてお答え願います。

- (1) 学習指導について、少人数学級より教科の特性によって学習形態を変えることのできる少人数指導の方が、指導の効果が現れやすいと思われませんか。

- ア そう思う
 イ どちらかといえばそう思う
 ウ どちらかといえばそう思わない
 エ そう思わない
 オ 分からない

- (2) 上記(1)でアまたはイと回答した方のみお答え願います。指導の効果が現れやすいと思う学年に 印を付けてください。(複数回答可)

- ア 1学年 イ 2学年 ウ 3学年

- 6 少人数**学級**や少人数**指導**の成果と課題について記入願います。

	少 人 数 学 級	少 人 数 指 導
成 果		
課 題		

- 7 少人数**指導**や少人数**学級**に関する効果的な活用方法等についてご意見がありましたらご記入願います。

ご協力、ありがとうございました。

今年は、他の学年と比べて1学級の人数を減らした形で学級を編成しています。
このアンケートは、今年のような少ない人数で学習したり、生活したりすることについて、
みなさんが感じていることを書いてもらうものです。あてはまる内容に 印をつけてください。

1 今年のような学級の数での学習や生活について教えてください。

(1) 学校生活の中で少ない人数(25人～30人程度)で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思う教科に 印を付けてください。(印はいくつ付けてもかまいません)

ア 国語 イ 社会 ウ 数学 エ 理科 オ 音楽 カ 美術 キ 保健体育
ク 技術・家庭 ケ 外国語 コ 道徳 サ 学級活動 シ 総合的な学習の時間
ス 学校行事(体育祭など) セ 給食(準備も含めて) ソ 休み時間 タ 清掃
チ その他() ツ なし

(2) 少ない人数で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思う理由に 印を付けてください。(印はいくつ付けてもかまいません)

ア わかりやすく教えてもらえるから
イ くりかえし勉強(練習、実験、実習など)することができるから
ウ わからないところを先生に質問しやすいから
エ 発表できる回数が増えるから
オ いろいろな仕事ができるから
カ その他()

2 多くの人数(昨年の学級の数くらい)での学習や生活について教えてください。

(1) 昨年の人数で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思うものに 印を付けてください。(印はいくつ付けてもかまいません)

ア 国語 イ 社会 ウ 数学 エ 理科 オ 音楽 カ 美術 キ 保健体育
ク 技術・家庭 ケ 外国語 コ 道徳 サ 学級活動 シ 総合的な学習の時間
ス 学校行事(体育祭など) セ 給食(準備も含めて) ソ 休み時間 タ 清掃
チ その他() ツ なし

(2) 多くの人数で学習や活動をしたい、または学習や活動をしてよかったと思う理由に 印を付けてください。(印はいくつ付けてもかまいません)

ア 友だちの考えをたくさん聞くことができるから
イ たくさんの友だちと学習や活動をした方が楽しいから
ウ みんなで協力したり、励ましあったりできるから
エ みんなで仕事を分担することができるから
オ その他()

これで終わりです。ありがとうございました。

調 査 用 紙

この調査は、貴校の「すこやかサポート」制度を活用して指導を行っている児童の様子等についてお聞きし、本県の少人数教育の改善に役立てるものです。

この調査について、学校や個人が特定できるような形で公表することはありませんので、ありのままの状況をお答えください。

お忙しいこととは存じますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

1 必要事項をご記入ください。

教育事務所		立 小学校	
学 級 数		児 童 数	

〔校長先生用〕

貴校の「すこやかサポート」制度に対する考えや児童の様子及び活用の状況についてお答え願います。

1 「すこやかサポート」制度に対する考えや児童の様子についてお答え願います。

(1) 「すこやかサポート」制度は、学習指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。

- ア そう思う
- イ どちらかといえばそう思う
- ウ どちらかといえばそう思わない
- エ そう思わない
- オ 分からない

(2) 上記(1)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思われますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで印を付けてください。(複数回答可)

- ア テストの結果がよくなってきている
- イ 集中して授業を受けるようになってきている
- ウ 発言回数が増えてきている
- エ 教師から個別に指導を受ける時間が増えてきている
- オ その他()

(3) 「すこやかサポート」制度は、生活指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。

- ア そう思う
- イ どちらかといえばそう思う
- ウ どちらかといえばそう思わない
- エ そう思わない
- オ 分からない

(4) 上記(3)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思われますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで印を付けてください。(複数回答可)

- ア 落ち着いた学校生活を送るようになってきている
- イ 不登校または登校しぶりの子どもが減ってきている
- ウ 友だちとのトラブルが減ってきている
- エ 生活面での悩み、相談事例が減ってきている
- オ その他()

(5) 今年度は、25人を超す1年生の学級と35人を超す2年生の学級にすこやかサポートの先生を配置しています。この配置学年や配置対象の学級規模についてどう思いますか。あなたの考えに近い方を選び、印を付けてください。

- ア このままでよい
- イ 見直した方がよい

(6) 上記(5)で、イと回答した方のみお答え願います。配置対象の学年や配置対象の学級規模をどのように見直せばよいと思いますか。下の欄にご記入願います。

--

(7) 今年度は、配置基準について1～2学級に1人、3～4学級に2人、5学級以上に3人という基準で配置していますがこれについてどう思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。

- ア 今年度の配置基準でよい
- イ 配置を減らしてもよい
- ウ 配置を増やしてほしい

2 昨年度1年生で「すこやかサポート」制度を活用し、今年度も2年生で引き続き活用している学校のみお答え願います。この(1)～(3)の質問の対象児童は現2年生全員です。

(1) 学習内容の理解に時間のかかる児童に対する個別指導にかかわって、手厚い個別指導を要する児童の数と「すこやかサポート」制度の活用の効果についてご記入願います。

手厚い個別指導を要する児童の数を記入願います。

- 平成15年度 1年生の1学期 ()人
- 平成15年度 1年生の3学期 ()人
- 平成16年度 2年生の1学期 ()人

「すこやかサポート」制度は、手厚い個別指導を要する児童を減らすのに効果があると思いますか。

- ア 効果がある
- イ どちらかというと効果がある
- ウ どちらかというと効果がない
- エ 効果がない
- オ 分からない

(2) 45分間座席に着いていることが難しい児童の数と「すこやかサポート」制度の活用の効果についてご記入願います。

45分間座席に着いていることが難しい児童の数をご記入願います。

- 平成15年度 1年生の1学期 ()人
- 平成15年度 1年生の3学期 ()人
- 平成16年度 2年生の1学期 ()人

「すこやかサポート」制度は、45分間座席に着いていることが難しい児童を減らすのに効果があると思いますか。

- ア 効果がある
- イ どちらかというと効果がある
- ウ どちらかというと効果がない
- エ 効果がない
- オ 分からない

(3) 登校しぶり、不登校などの傾向がみられた児童の数と「すこやかサポート」制度の活用の効果についてご記入願います。

登校しぶり、不登校などの傾向がみられた児童の数をご記入願います。

- 平成15年度 1年生の1学期 ()人
- 平成15年度 1年生の3学期 ()人
- 平成16年度 2年生の1学期 ()人

「すこやかサポート」制度は、登校しぶり、不登校などの傾向が見られた児童を減らすのに効果があると思いますか。

- ア 効果がある
- イ どちらかというと効果がある
- ウ どちらかというと効果がない
- エ 効果がない
- オ 分からない

3 「すこやかサポート」制度による指導を行っての成果と課題についてご記入願います。

成 果	課 題

ご協力、ありがとうございました。

〔担当職員用〕(現在学級を担任している先生をお願いします。すこやかサポートの先生は除きます。)

小学校 担当学年 年

「すこやかサポート」制度に対する考えや児童の様子及び活用の状況についてお答え願います。

1 「すこやかサポート」制度に対する考えや児童の様子についてお答え願います。

(1) 「すこやかサポート」制度は、学習指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。

- ア そう思う
- イ どちらかといえばそう思う
- ウ どちらかといえばそう思わない
- エ そう思わない
- オ 分からない

(2) 上記(1)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思えますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで 印を付けてください。(複数回答可)

- ア テストの結果がよくなってきている
- イ 集中して授業を受けるようになってきている
- ウ 発言回数が増えてきている
- エ 教師から個別に指導を受ける時間が増えてきている
- オ その他()

(3) 「すこやかサポート」制度は、生活指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。

- ア そう思う
- イ どちらかといえばそう思う
- ウ どちらかといえばそう思わない
- エ そう思わない
- オ 分からない

(4) 上記(3)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思えますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで 印を付けてください。(複数回答可)

- ア 落ち着いた学校生活を送るようになってきている
- イ 不登校または登校しぶりの子どもが減ってきている
- ウ 友だちとのトラブルが減ってきている
- エ 生活面での悩み、相談事例が減ってきている
- オ その他()

2 「すこやかサポート」制度の活用の状況についてお答え願います。

(1) 「すこやかサポート」制度を、特にどのような場面で活用しましたか。次の中から該当するものをすべて選び、印を付けてください。

- ア 生活習慣にかかわる個別指導(トイレ 給食 清掃 安全等)
- イ 教科における T T 指導(更に下記から選択)
実施した教科 (ア) 国語 (イ) 算数 (ウ) その他()
- ウ 教科における出席番号などで分ける単純分割型の少人数指導(更に下記から選択)
実施した教科 (ア) 国語 (イ) 算数 (ウ) その他()
- エ 教科における習熟度別指導(更に下記から選択)
実施した教科 (ア) 国語 (イ) 算数 (ウ) その他()

- オ 情緒的に不安定な子ども等への対応
(ADHD 児と思われる児童、LD 児と思われる児童、集中力に欠ける子ども等)
- カ 学校行事の補助
- オ その他
()

(2) 「すこやかサポート」制度を活用した学習活動で、どのような学習形態による指導が、効果的だと思いますか。

- ア 一斉指導を基本とした指導
- イ TT 指導
- ウ 教科における出席番号などで分ける単純分割型の少人数指導
- ウ 習熟度別指導
- エ その他()

3 「すこやかサポート」制度は、どのような効果があると思いますか。下の欄にご記入願います。

4 「すこやかサポート」の効果的な活用方法等についてのご意見がありましたら、下の欄にご記入願います。

ご協力、ありがとうございました。

「すこやかサポート」(複式)配置校用

調 査 用 紙

この調査は、貴校の「すこやかサポート」制度を活用して指導を行っている児童の様子等についてお聞きし、本県の少人数教育の改善に役立てるものです。

この調査について、学校や個人が特定できるような形で公表することはありませんので、ありのままの状況についてお答え下さい。

お忙しいこととは存じますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

1 必要事項をご記入ください。

教育事務所		立 小学校	
学 級 数		児 童 数	

〔校長先生用〕

貴校の「すこやかサポート」制度に対する考えや児童の様子及び活用の状況についてお答え願います。

- 1 「すこやかサポート」制度に対する考えや児童の様子についてお答え願います。
 - (1) 「すこやかサポート」制度は、学習指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。
 - ア そう思う
 - イ どちらかといえばそう思う
 - ウ どちらかといえばそう思わない
 - エ そう思わない
 - オ 分からない
 - (2) 上記(1)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思えますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで 印を付けてください。(複数回答可)
 - ア テストの結果がよくなってきている
 - イ 集中して授業を受けるようになってきている
 - ウ 発言回数が増えてきている
 - エ 教師から個別に指導を受ける時間が多くなっている
 - オ その他()
 - (3) 「すこやかサポート」制度は、生活指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、印を付けてください。
 - ア そう思う
 - イ どちらかといえばそう思う
 - ウ どちらかといえばそう思わない
 - エ そう思わない
 - オ 分からない
 - (4) 上記(3)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思えますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで 印を付けてください。(複数回答可)
 - ア 落ち着いた学校生活を送るようになってきている
 - イ 不登校または登校しぶりの子どもが減ってきている
 - ウ 友だちとのトラブルが減ってきている
 - エ 生活面での悩み、相談事例が減ってきている
 - オ その他()
 - (5) 今年度は、1学級16人を超す学級に配置しています。この配置対象の学級規模についてどう思えますか。あなたの考えに近い方を選び、印を付けてください。
 - ア この規模でいい
 - イ 規模について見直した方がいい

(6) 上記(5)で、イと回答した方のみお答え願います。配置対象の学級規模をどのように見直せばいいと思いますか。下の欄にご記入願います。

--

2 「すこやかサポート」の先生を、どのように活用しているかお答え願います。

(1) 「すこやかサポート」の先生を、授業中どのように活用していますか。下の欄にご記入願います。

--

(2) 「すこやかサポート」の先生をどのように活用すれば、効果があると思いますか。下の欄にご記入願います。

--

3 「すこやかサポート」制度による指導を行っての成果と課題についてご記入願います。

成 果	課 題

ご協力、ありがとうございました。

〔担当職員用〕(現在学級を担任している先生をお願いします。すこやかサポートの先生は除きます。)

小学校 担当学年 年

「すこやかサポート」制度に対する考えや児童の様子及び活用の状況についてお答え願います。

1 「すこやかサポート」制度に対する考えや児童の様子についてお答え願います。

(1) 「すこやかサポート」制度は、学習指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、 印を付けてください。

- ア そう思う
- イ どちらかといえばそう思う
- ウ どちらかといえばそう思わない
- エ そう思わない
- オ 分からない

(2) 上記(1)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思えますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで 印を付けてください。(複数回答可)

- ア テストの結果がよくなってきている
- イ 集中して授業を受けるようになってきている
- ウ 発言回数が増えてきている
- エ 教師から個別に指導を受ける時間が多くなってきている
- オ その他()

(3) 「すこやかサポート」制度は、生活指導面において効果があると思いますか。あなたの考えに一番近いものを選び、 印を付けてください。

- ア そう思う
- イ どちらかといえばそう思う
- ウ どちらかといえばそう思わない
- エ そう思わない
- オ 分からない

(4) 上記(3)について、アまたはイを回答した方のみお答え願います。それは、児童のどのような様子から思えますか。そう思う児童の様子について該当するものを選んで 印を付けてください。(複数回答可)

- ア 落ち着いた学校生活を送るようになってきている
- イ 不登校または登校しぶりの子どもが減ってきている
- ウ 友だちとのトラブルが減ってきている
- エ 生活面での悩み、相談事例が減ってきている
- オ その他()

3 複式学級における「すこやかサポート」制度は、どのような効果があると思いますか。下の欄にご記入願います。

--

4 複式学級における「すこやかサポート」の効果的な活用方法についてご意見がありましたら、下の欄にご記入願います。

--

ご協力、ありがとうございました。